

# CS1708i/CS1716i

## 日本語版ユーザーマニュアル



### 本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CS1708i/CS1716i 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2011 年 1 月 12 日

ファームウェア Ver. 1.0.092 版

## ユーザーの皆様へ

---

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

## ATEN ジャパン製品保証規定

---

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

### 【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

#### (1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

#### (2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

#### (3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

### 【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は1年間です。

### 【補足】

- 本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

## 【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品の KVM スイッチ、キーボード・マウスコンバータ、キーボード・マウスエミュレータ、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

## 製品についてのお問い合わせ

---

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

# 目次

---

ユーザーの皆様へ .....	i
ATEN ジャパン製品保証規定 .....	ii
製品についてのお問い合わせ .....	v
FCC.....	7
RoHS.....	7
SJ/T 11364-2006 .....	7
安全にお使い頂くために.....	8
一般的な注意事項 .....	8
ラックマウントに関する注意事項 .....	10
同梱品.....	11
本マニュアルについて.....	12
専門用語.....	14
マニュアル表記について.....	15
第1章 はじめに.....	16
製品概要.....	16
特長.....	18
システム要件.....	20
全般 .....	20
コンソール.....	20
コンピューター .....	20
ケーブル .....	21
OS.....	22
ブラウザ.....	22
製品各部名称 .....	23
フロントパネル .....	23
リアパネル.....	26
第2章 ハードウェアセットアップ .....	28
概要.....	28
セットアップの前に.....	28
デバイスの卓上設置とラックマウント .....	29
卓上設置.....	29

ラックのフロント側へのマウント.....	30
ラックのリア側へのマウント.....	32
<b>単体構成でセットアップする場合 .....</b>	<b>34</b>
接続図 (単体構成) .....	35
<b>ケーブル接続図.....</b>	<b>36</b>
コンソールケーブル接続図 .....	36
KVM ケーブル接続図 .....	36
<b>デイジーチェーン接続.....</b>	<b>37</b>
電源投入.....	37
接続図(デイジーチェーン接続) .....	38
<b>第 3 章 基本操作.....</b>	<b>39</b>
<b>ポート選択.....</b>	<b>39</b>
手動 .....	39
OSD/GUI .....	39
キーボードホットキー .....	39
<b>ホットプラグ .....</b>	<b>40</b>
ステーションのホットプラグ .....	40
KVM ポートのホットプラグ .....	40
コンソールポートのホットプラグ .....	40
<b>ポート ID の割り当て .....</b>	<b>41</b>
<b>電源 OFF と再起動 .....</b>	<b>42</b>
<b>USB 周辺機器.....</b>	<b>42</b>
<b>第 4 章 ローカルコンソールの操作.....</b>	<b>43</b>
<b>概要.....</b>	<b>43</b>
OSD メイン画面.....	44
<b>OSD ナビゲーション.....</b>	<b>45</b>
OSD メイン画面の項目 .....	45
<b>OSD 機能.....</b>	<b>46</b>
F1:GOTO .....	46
F2:LIST .....	47
F3:SET .....	47
F4:ADM.....	50
F5:SKP .....	54
F6:BRC .....	55
F7:SCAN .....	56
F8:LOUT .....	57

ホットキー操作.....	58
概要 .....	58
ホットキーモードの起動 .....	59
ホットキーによるポート操作.....	60
ホットキーによる設定操作 .....	63
ホットキー一覧表.....	65
<b>第 5 章 ブラウザからのログイン.....</b>	<b>67</b>
概要.....	67
ログイン.....	67
Web メイン画面でのメニュー .....	70
ユーザー向けメニューアイコン .....	70
管理者向けメニューアイコン .....	71
<b>第 6 章 管理メニュー .....</b>	<b>72</b>
はじめに.....	72
General Information (一般的な情報).....	73
Network (ネットワーク) .....	74
Access Ports (アクセスポート) .....	74
IP Address (IP アドレス) .....	75
DNS Server (DNS サーバ).....	75
IP Installer (IP インストーラー設定) .....	76
設定内容の確定 .....	76
Security (セキュリティ) .....	77
Login String (ログインストリング).....	80
ANMS.....	81
RADIUS Settings (RADIUS 設定) .....	81
パラメーター入力例 .....	83
CC Management Settings (CC マネジメント設定) .....	83
LDAP Authentication Settings (LDAP 認証設定) .....	83
Log Server Settings (ログサーバー設定).....	86
User Management (ユーザーマネージメント).....	87
Customization (カスタマイズ).....	89
Timeout (タイムアウト).....	89
Login Failure (ログイン失敗).....	89
Working Mode (動作モード) .....	90
Mouse Sync Mode (マウスシンクモード) .....	91
Reset (リセット).....	92

<b>Maintenance (メンテナンス)</b> .....	<b>93</b>
Firmware Upgrade (ファームウェアアップグレード).....	93
Backup Configuration / User Account (設定・ユーザーアカウントのバックアップ) .....	94
Restore Configuration / User Account (設定/ユーザーアカウントの回復).....	95
<b>第7章 Windows クライアントビューワー</b> .....	<b>96</b>
<b>起動方法</b> .....	<b>96</b>
<b>コントロールパネル</b> .....	<b>98</b>
Hotkey Setup (ホットキーセットアップ).....	100
Video Settings (ビデオ設定).....	102
Message Board (メッセージボード) .....	103
Soft Keyboard (オンスクリーンキーボード) .....	105
<b>Main タブ</b> .....	<b>106</b>
リスト機能.....	108
ポートネーム.....	110
<b>ポート操作</b> .....	<b>112</b>
ポートツールバー .....	112
GUI の再呼出.....	112
ホットキー一覧表.....	113
ツールバーアイコン .....	113
オートスキャンモード .....	114
パネルアレイモード.....	115
<b>Configuration (設定) タブ</b> .....	<b>116</b>
<b>Administration (管理) タブ</b> .....	<b>118</b>
General(一般的な情報)メニュー .....	119
User Management (ユーザーマネージメント).....	119
Network (ネットワーク).....	123
ANMS .....	124
Security (セキュリティ) .....	125
Customization (カスタマイズ) .....	126
<b>第8章 Java クライアントビューワー</b> .....	<b>128</b>
<b>起動方法</b> .....	<b>128</b>
<b>操作方法</b> .....	<b>130</b>
<b>第9章 ログファイル</b> .....	<b>131</b>
ログファイル画面 .....	131
<b>第10章 ログサーバー</b> .....	<b>133</b>
<b>セットアップ</b> .....	<b>133</b>

起動方法.....	134
メニューバー .....	135
Configure.....	135
Events.....	136
Options .....	139
Help .....	139
ログサーバーメイン画面.....	140
概要 .....	140
リストパネル.....	141
イベントパネル.....	141
<b>第 11 章 アプリケーションの操作 .....</b>	<b>142</b>
概要.....	142
Windows クライアント .....	142
セットアップ .....	142
起動方法.....	143
接続方法.....	145
操作方法.....	146
セッションの終了 .....	146
Java クライアント.....	147
起動方法.....	147
操作方法.....	148
<b>第 12 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティー.....</b>	<b>149</b>
はじめに.....	149
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード.....	149
アップグレード作業の下準備.....	150
アップグレードの開始.....	151
アップグレード成功.....	153
アップグレード失敗.....	153
ファームウェアアップグレードのリカバリー.....	154
付録.....	155
トラブルシューティング .....	155
管理操作.....	155
基本操作.....	155
Windows クライアント.....	156
Java クライアント .....	157
Sun コンピューター .....	158

ログサーバー .....	159
パネルアレイモード .....	159
<b>キーボードエミュレーション .....</b>	<b>160</b>
Mac キーボード .....	160
Sun キーボード .....	161
<b>IP アドレスの設定 .....</b>	<b>162</b>
IP インストーラー .....	162
ブラウザ .....	163
アプリケーション版 Windows クライアント .....	164
<b>その他のマウス同期の方法 .....</b>	<b>165</b>
<b>信頼された証明書 .....</b>	<b>167</b>
概要 .....	167
証明書のインストール .....	168
証明書のインストール完了 .....	169
<b>製品仕様 .....</b>	<b>170</b>
<b>スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表 .....</b>	<b>174</b>
CS1708i .....	174
CS1716i .....	174
<b>対応 KVM スイッチ .....</b>	<b>175</b>
<b>工場出荷時におけるデフォルト値のリスト .....</b>	<b>176</b>
<b>OSD の工場出荷時における初期設定一覧 .....</b>	<b>177</b>
<b>SPHD コネクターについて .....</b>	<b>177</b>

## FCC

---

本製品はFCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

## RoHS

---

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

## SJ/T 11364-2006

---

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



## 安全にお使い頂くために

---

### 一般的な注意事項

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
  - 電源コードが破損した。
  - 装置の上に液体をこぼした。
  - 装置が雨や水にぬれた。
  - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
  - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
  - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

## ラックマウントに関する注意事項

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

## 同梱品

---

CS1708i/CS1716i 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CS1708i/CS1716i KVM スイッチ ×1
- ◆ KVM ケーブル × 2 (PS/2 タイプ×1、USB タイプ×1)
- ◆ コンソールケーブル ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッドセット (4pcs) ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1
- ◆ ソフトウェア CD ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

## 本マニュアルについて

---

このユーザーマニュアルは、CS1708i/CS1716i に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章 はじめに:** CS1708i/CS1716i を紹介します。特長、機能概要および製品各部名称について説明します。
- 第2章 セットアップ:** 基本的なハードウェアセットアップの手順から、32 台のスイッチをダイジーチェーン接続する方法まで、CS1708i/CS1716i のセットアップについて説明します。
- 第3章 基本操作:** CS1708i/CS1716i の機能概要および操作方法について説明します。
- 第4章 ローカルコンソール操作:** ローカルに接続された KVM コンソールから CS1708i/CS1716i を操作する手順について説明します。
- 第5章 ブラウザからのログイン:** ブラウザを使った CS1708i/CS1716i へのログイン方法や、ブラウザメニューに表示されるアイコンやボタンの機能について説明します。
- 第6章 管理方法:** ブラウザからログインした後の CS1708i/CS1716i の管理方法について説明します。
- 第7章 Windows クライアントビューワー:** Windows クライアントビューワーを使った CS1708i/CS1716i への接続方法や、製品配下にあるコンピューターへの GUI を使ったアクセス方法について説明します。
- 第8章 Java クライアントビューワー:** Java クライアントビューワーを使った CS1708i/CS1716i への接続方法や、製品配下にあるコンピューターへの GUI を使ったアクセス方法について説明します。
- 第9章 ログファイル:** 製品内部で発生したイベントを確認できるログファイルユーティリティの使い方について説明します。

**第10章 ログサーバー:**ログサーバーのセットアップや設定の方法について説明します。

**第11章 アプリケーションの操作:**ブラウザではなく、Windows クライアントや Java クライアントのアプリケーションを使った製品の操作方法について説明します。

**第12章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:**お使いの CS1708i/CS1716i のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

**付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

## 専門用語

本マニュアルでは、ユーザーおよび KVM Over the NET™シリーズの KVM スイッチに接続されたデバイスに関して「ローカル」と「リモート」という用語を使って表現しています。

ユーザーおよびサーバは状況に応じて「ローカル」と表現されることもあれば、「リモート」と表現されることもあります。

### ◆ KVM スイッチ側から見た場合

- リモートユーザー - 「スイッチから離れた」場所からネットワーク経由で製品にログインしているユーザーを、「リモート」ユーザーと呼びます。
- ローカルコンソール - 製品に直接接続された、キーボード、マウス、モニターのことを指します。
- サーバ - コンピュータモジュールを介して製品に接続されているコンピュータのことを指します。

### ◆ ユーザー側から見た場合

- ローカルクライアントユーザー - 「離れた」場所にある KVM スイッチを自身のコンピュータから操作している人を「ローカルクライアントユーザー」と呼びます。
- リモートサーバ - ローカルクライアントユーザーから見たリモートサーバのことを指します。というのは、これらのサーバは製品にローカル接続されているものの、ユーザーからは離れた場所にあるからです。

本マニュアルでは、システム構成全体について説明をする場合は、基本的にはスイッチ側の観点に立って説明します。この場合、ユーザーがリモート側と見なされます。また、ユーザーがネットワーク経由でブラウザ、ビューワー、またアプリケーションを使って行う操作について説明する場合、ユーザー側の観点に立って説明します。この場合、製品およびその配下にあるサーバはリモート側と見なされます。



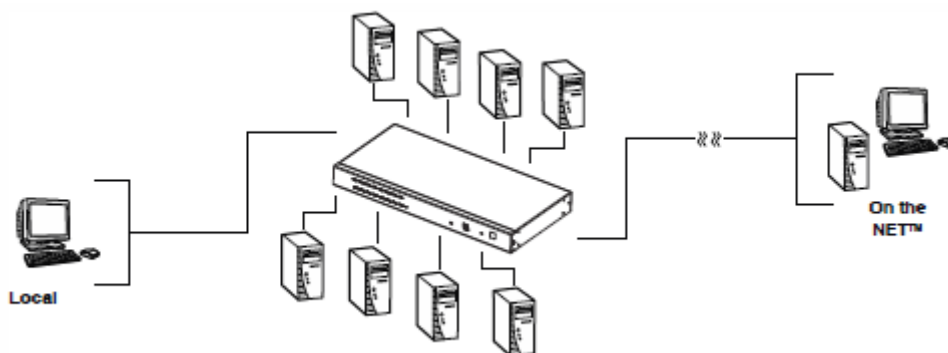
# 第1章 はじめに

## 製品概要

---

CS1708i/CS1716i は、ローカル及びリモートのユーザーがシングルコンソールから複数のコンピューターの監視やアクセスができる、IP ベースの KVM スイッチです。例えば、1 台の CS1708i からは 8 台、CS1716i からは 16 台のコンピューターをそれぞれ操作することができます。最大 15 台の KVM スイッチをダイジーチェーン接続することによって、最大 256 台のコンピューターをシングルコンソールから操作することができます。

CS1708i/CS1716i は、通信プロトコルに TCP/IP を使用していますので、製品配下にあるコンピューターにはネットワーク上のどこからでもアクセスすることができます。



リモートユーザーはインターネットのどこからでもブラウザを使って製品にログインすることができます。ログインに成功すると、ユーザーは Windows クライアントまたは Java クライアントを使って操作することができます。とりわけ、Java クライアントは、Java 2 が利用できる OS であれば、どのような OS 上でも使用することができます。クライアントソフトウェアによって、ユーザーはまるで CS1708i/CS1716i をローカルで操作しているときと変わらない操作感でキーボード、モニター、マウスを使うことができます。また、パネルアレイモード機能によって、最大で 8 台(CS1708i)/16 台(CS1716i)のコンピューターのビデオ出力を一画面に同時に表示することができます。

TCP/IP 接続に加え、CS1708i/CS1716i はローカルコンソール用の KVM ポートを搭載しています。これによって、ネットワーク経由だけでなく、データセンターからでもアクセスや操作が可能

になりました。製品配下にあるコンピューターへのローカルアクセスは、製品フロントパネルのポート選択ボタンの操作、キーボードからのホットキーの入力、直感的な操作ができる多言語対応 OSD の操作でそれぞれ簡単に行えます。また、オートスキャン機能によって特定のコンピューターの画面を自動的に切り替えて監視することもできます。

---

**注意:** 本製品で使用できるバス数はローカルとリモート共通で 1 バスです。ローカルとリモートで同時にログインすることはできませんが、別々の操作を行うことはできません。仮に、リモートユーザーが既にセッションを開いている際にローカルユーザーがログインすると、ローカルユーザーが使っている画面にはリモートユーザーが操作している画面が表示されます。

---

解像度は、ローカルアクセス時には最大 2,048×1,534、また、リモートアクセス時には最大 1,600×1,200@60Hz / 24 bit 色深度にそれぞれ対応しています。

セットアップは、必要なケーブルを適切なポートに接続するだけです。簡単で時間もかかりません。また、製品はキーボード入力をダイレクトにインターセプトしますので、複雑なソフトウェアの設定や互換性の問題に悩まされる必要はありません。

カスタム ASIC によって各ステーションの位置は自動的に認識されますので、DIP スイッチを使って手で設定をする必要がありません。また、各 KVM スイッチのステーション ID は製品のフロントパネルの LED に表示されますので、ステーションの判別が容易に行えます。

本製品は、配下のコンピューターすべてにシングルコンソールから操作することができますので、ユーザーは以下のようなメリットを得ることができます。

- 1) それぞれのコンピューターにキーボード、マウス、モニターを購入する費用を削減
- 2) 余分なスペースを取らず、スペースの有効利用が可能
- 3) 省電力
- 4) コンピューターを操作するたびに移動しなければならないという煩雑さの解消

ファームウェアはアップグレード可能ですので、ダウンロードサイトに公開されているファームウェアアップグレードをダウンロードし適用することで最新の機能をご利用いただけます。

セキュリティ機能が強化された CS1708i/CS1716i は、分散した複数のコンピューターのリモートアクセスにおいて、スピード、信頼性や費用対効果のいずれにおいても優れたソリューションを提供します。

## 特長

---

- ◆ シングルコンソールから最大 8 台(CS1708i)/16 台(CS1716i)のコンピューターを操作可能
- ◆ 最大 15 台の KVM スイッチをデイジーチェーン接続可能 - 最大 128 台(CS1708i)/256 台(CS1716i)のコンピューターをシングルコンソールから操作可能
- ◆ デイジーチェーン接続された機器構成においてステーション位置を自動認識。手動による DIP スイッチの設定不要。ステーション位置はフロントパネルに LED 表示
- ◆ ホットプラグ対応 - 製品の電源を切ることなく、サーバの取り付け、取り外しが可能
- ◆ ステーション位置の変更を自動認識し、ポートネームを自動的に再設定
- ◆ ポート選択方法 - フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、多言語 OSD
- ◆ マルチプラットフォーム(Windows 2000/XP/Vista、Linux、Mac、Sun)対応
- ◆ キーボード、マウス、ビデオの各信号は RC4 128 bit 暗号化。128-bit SSL ブラウザアクセス対応
- ◆ 2 段階のユーザーレベル - 最大 64 ユーザーのアカウントが作成可能
- ◆ 最大 32 ユーザーの同時ログインに対応 (リモート、ローカルで 1 バスを共有)
- ◆ 外部サーバによるユーザー認証に対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、Active Directory
- ◆ ALTUSEN 統合管理システム CC2000 対応
- ◆ グラフィカルで直感的な多言語 OSD 搭載 - 日本語、英語、ドイツ語、中国語(簡体字、繁体字)対応
- ◆ 多言語対応オンスクリーンキーボード搭載
- ◆ USB1.1 ポート搭載 - ポートに接続された USB デバイスを、製品配下のサーバ間で共有し、切替使用が可能
- ◆ コンソール、サーバ側ともに PS/2、USB に対応
- ◆ PS/2・USB キーボード・マウスエミュレーション - 別のポートが選択されていてもサーバはエラーなく起動
- ◆ マルチメディア USB キーボード対応(PC、Mac、Sun)
- ◆ マウスダイナシンク機能 - ローカル・リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ 解像度 - (ローカル)最大 2,048×1,536、DDC2B 対応。(リモート)1,600×1,200@60Hz、24bit 色深度対応
- ◆ ビデオダイナシンク機能 - コンソールモニターの EDID 情報を格納し、表示解像度を最適化
- ◆ リサイズ可能なリモートデスクトップ画面
- ◆ Windows クライアント、Java クライアント対応 - Java クライアントは大半の OS で動作
- ◆ パネルアレイモード - 画面を分割し、複数管理ポートのデスクトップを同時表示

- ◆ メッセージボード - ログインユーザー間のコミュニケーションを実現。KVM 機能の排他制御も可能
- ◆ ビデオ出力の画質は設定変更可能
- ◆ オートスキャン機能搭載 - ユーザーが選択したサーバのみを対象に監視
- ◆ ブロードキャストモード - 選択したサーバに対してインストールやシャットダウン等のコマンドを一斉送信
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ システムプロパティ、ユーザーアカウントの設定はバックアップ、リストアが可能
- ◆ イベントログ対応
- ◆ ブラウザアクセスの有効化/無効化が可能
- ◆ 19 インチシステムラックに 1U サイズでマウント可能

## システム要件

---

### 全般

- ◆ 最適な状態でお使いいただくために、本製品にアクセスするには、CPU が Pentium III 1GHz 以上のプロセッサを搭載したコンピューターを使用し、解像度を 1,024×768 に設定してください。
- ◆ インターネットにおけるデータ転送速度が 128kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ ブラウザは 128bit 暗号化に対応したものをお使いください。
- ◆ Windows クライアントを使用する場合は、DirectX 8.0 以降のバージョンをインストールしてください。
- ◆ Java クライアントを使用する場合は、Sun JRE 6 update 3 以降のバージョンをインストールしてください。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以降のドライバーをインストールしてください。

### コンソール

KVM コンソールには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 製品に接続するコンピューターのうち、解像度が最も高いものを表示できるモニター
- ◆ キーボード、マウス (USB または PS/2)

### コンピューター

製品に接続されているコンピューターは、以下のインターフェースに対応している必要があります。

- ◆ D-sub15 ピン VGA ポートを搭載したビデオグラフィックカード
- ◆ USB タイプ A ポート及び USB ホストコントローラー(USB タイプのコンピューターモジュールを接続する場合。詳細は下記参照)
- ◆ ミニ DIN 6 ピンキーボードおよびマウスポート(PS/2 タイプのコンピューターモジュールを接続する場合。詳細は下記参照)
- ◆ レガシー Sun システムをお使いの場合は、ATEN Sun コンソールコンバーター CV-130A が必要です。(詳細は下記参照)

## ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、下記のケーブルをご使用になることを推奨いたします。

製品画像	機能	型番(長さ)
	<b>デイジーチェーン専用ケーブル</b>	2L-1700(0.6m)
	チェーンイン (CHAIN IN) DB-25 オス	2L-1701(1.8m) 2L-1703(3m)
	チェーンアウト (CHAIN OUT) DB-25 メス	2L-1705(5 m) 2L-1715(15m)
	<b>PS/2 KVM ケーブル</b>	
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	
	コンピューター側 キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニター用 D-sub15 ピン オス	2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m)
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	2L-5210P(10m)
	コンピューター側 キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニター用 D-sub15 ピン オス	
	<b>USB KVM ケーブル (Windows、Linux、新 Sun、Mac)</b>	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m)
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	2L-5203U(3m)
	コンピューター側 USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス	2L-5205U(5m)
	<b>レガシーSUN システム専用ケーブル</b>	
	スイッチ側 SPHD-15 オス ×1	
	コンピューター側 13W3 ピン オス ミニ DIN8 ピン オス	CV-130A(1.8m)

## OS

本製品は、下記の OS を搭載したコンピューターを接続することが可能です。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	RedHat	7.1 以降 (kernel 2.6 以降)
	Fedora Core	5 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
Unix	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	3.51 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降
DOS		6.2 以降

## ブラウザ

本製品へのアクセスに使用する Web ブラウザは以下のバージョンに対応しております。

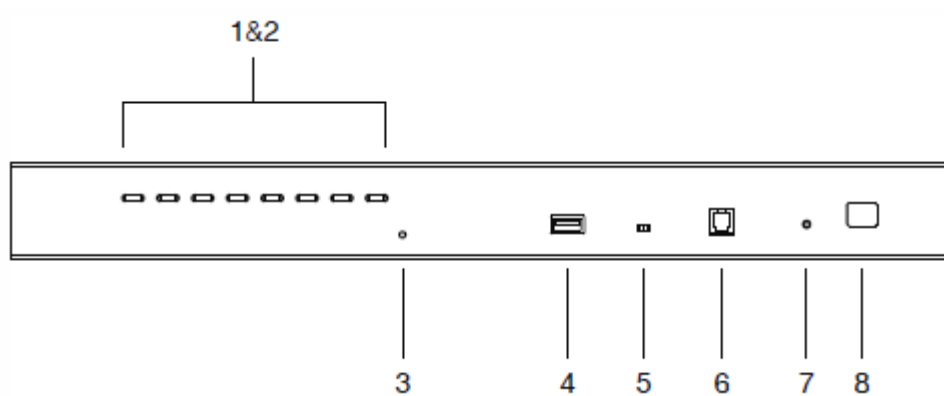
ブラウザ	バージョン
Internet Explorer	6 以降
Firefox	1.5 以降
Mozilla	1.7 以降
Safari	4.0 以降
Opera	9.0 以降

# 製品各部名称

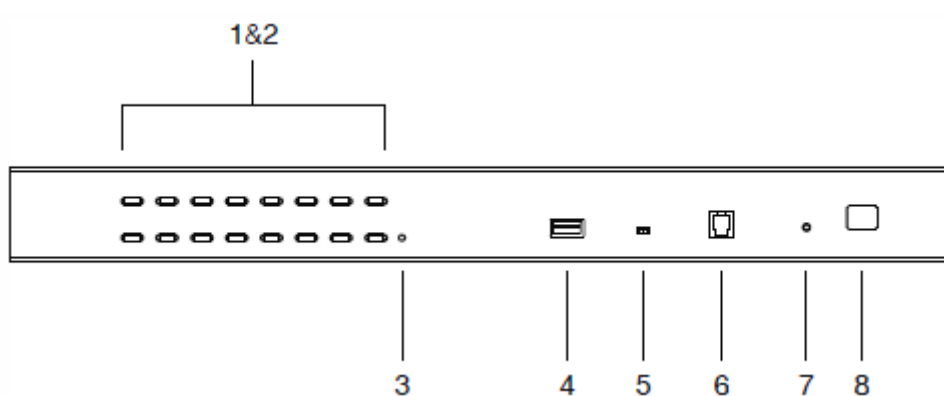
---

## フロントパネル

CS1708i



CS1716i



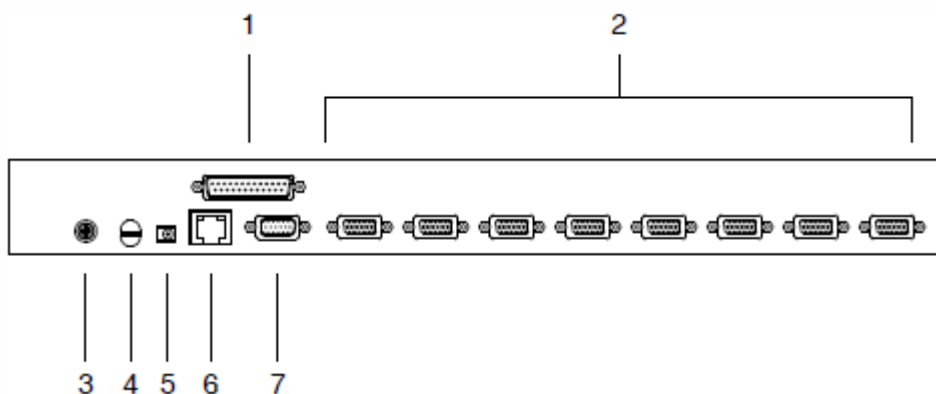
No.	名称	説明
1	ポート選択ボタン	<p>コンピューターを選択する場合は、そのコンピューターが接続されている KVM ポートの番号に対応したボタンを押してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ポート 1 とポート 2 のボタンを同時に 3 秒以上押すと、コンソールのキーボードおよびマウスをリセットします。</li> <li>◆ CS1708i をお使いの場合はポート 7 およびポート 8 を、また、CS1716i をお使いの場合はポート 15 およびポート 16 を同時に押すと、オートスキャンモードを開始します。(詳細は p.56「F7:SCAN」参照)</li> </ul>
2	ポート LED	<p>このポート LED はポート選択ボタンに内蔵されており、左側はオンライン LED、右側は選択ポート LED です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ オンライン LED がオレンジに点灯している時は、該当ポートに接続されているコンピューターが稼働中であることを表します。</li> <li>◆ オンライン LED がグリーンに点灯している時は、該当ポートに接続されているコンピューターが選択されていることを表します。</li> </ul>
3	リセットスイッチ	<p>このスイッチを押すとシステムリセットを実行します。システムがリセットされると、製品本体からビープ音が鳴り、リセット処理が完了するまで、ポート選択ボタンの LED ランプが連続して点滅します。リセットが完了すると、再びログインできるようになります。</p> <p><b>注意:</b>このボタンはピンホール型ボタンになっているので、ペン等の細いもので押してください。</p>
4	USB ポート	<p>フラッシュメモリ、CD-ROMドライブ等の USB デバイスをこのポートに接続してお使いいただけます。</p>
5	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	<p>通常の操作時、また、ファームウェアアップグレードの実行中には、このスイッチを「NORMAL」の位置にあわせてください。アップグレードが正常に終了しなかった場合、このスイッチを使ってリカバリーを行います。(詳細は p.154「ファームウェアアップグレードのリカバリー」を参照)</p>

(表は次のページに続きます)

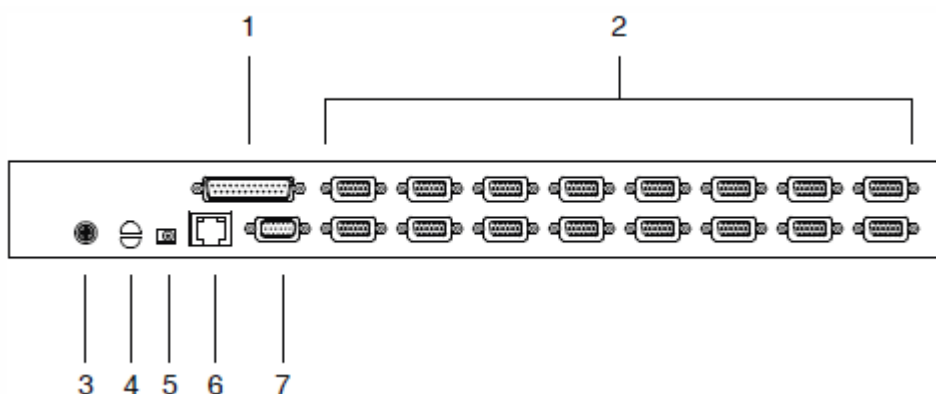
No.	名称	説明
6	ファームウェアアップグレードポート	管理者のコンピューターからファームウェアアップグレードデータを転送するファームウェアアップグレードケーブルをこのポートに接続します。
7	電源 LED	ユニットに電源が供給されている場合、この LED ランプが点灯します。
8	ステーション ID LED	各ユニットのステーション ID がここに表示されます。単体の構成 (p.34 参照) でお使いの場合、また、ダイジーチェーン接続 (p.37 参照) された機器構成における 1 台目のステーションである場合、この KVM スイッチにはステーション ID として「01」が割り当てられます。 ダイジーチェーン接続してお使いの場合、製品はステーション位置を自動検出し、そのステーション ID を LED 表示します。(詳細は p.41「ポート ID の割り当て」を参照)

## リアパネル

### CS1708i



### CS1716i



No.	名称	説明
1	デ이지チェーンポート	他の KVM スイッチとデ이지チェーン接続(p.37 参照)する場合、このポートに専用ケーブルを接続します。
2	KVM ポート	コンピューターとつながっているケーブルを接続するポートです。 <b>注意:</b> これらの 15 ピンコネクタは、本製品に対応した KVM ケーブルのみ接続することが可能です。(p.21「ケーブル」参照) 誤って D-sub15 ピンのケーブル等を接続しないよう、ご注意ください。
3	グラウンドターミナル	接地線をこの端子に接続し、製品の接地を行います。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
4	ケーブルタイスロット	ケーブルタイを使ってケーブルをまとめた場合は、このスロットをお使いください。
5	電源ジャック	電源アダプタのケーブルを接続するジャックです。
6	LAN ポート	TCP/IP ネットワークにつながっている LAN ケーブルをこのポートに接続します。このポートの左側の LED はデータ転送速度を表し、10Mbps のときはオレンジ色に、100Mbps のときはグリーンにそれぞれ点灯します。また、右側の LED はリモートからアクセスされている時にグリーンに点滅します。
7	コンソールポート	コンソール用のモニター、キーボード、マウスを接続するコンソールケーブルを接続するポートです。

# 第2章

## ハードウェアセットアップ

### 概要

---

マルチプラットフォームの環境で、PS/2、USB のどちらのインターフェースに対応したコンピューターでも接続できるように、本製品はコンピューターとの接続に専用の KVM ケーブルを使用します。(p.36「ケーブル接続図」参照)

この KVM ケーブルは、製品に接続するコンピューターごとにご用意いただく必要があります。対応ケーブルに関する詳細は p.21 に掲載されています。お使いの環境に適したケーブルをお求めの際には販売店までお問い合わせください。

### セットアップの前に

---



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.8 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピューターの電源ケーブルも抜いてください。

## デバイスの卓上設置とラックマウント

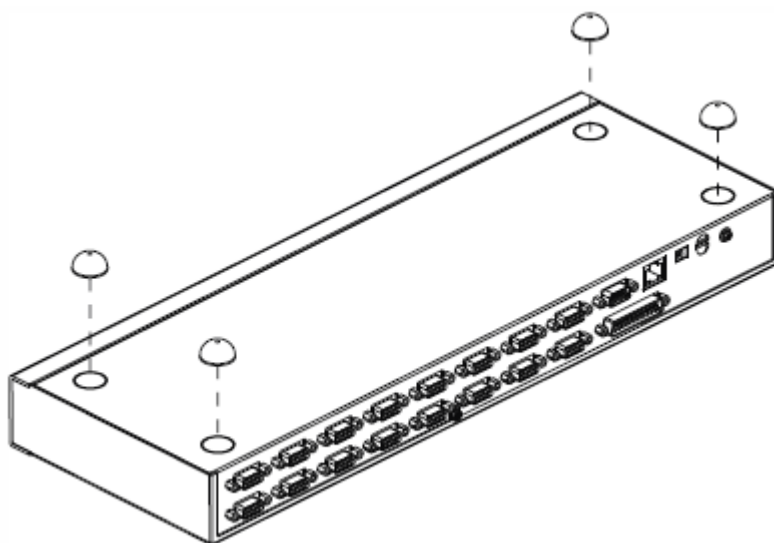
CS1708i/CS1716i は、水平な場所に置いて使用したり、システムラックにマウントして使用したりすることができます。以下のセクションでは、本製品の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

- 注意:**
1. 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、また、ケーブルの配線スペースを考慮して背面は 12.7cm 以上の空間をもうけるようにしてください。
  2. 本製品にはラックマウント用のネジやケージナットは同梱されておりません。お手数ですが、これらのネジやケージナットは別途ご用意ください。

### 卓上設置

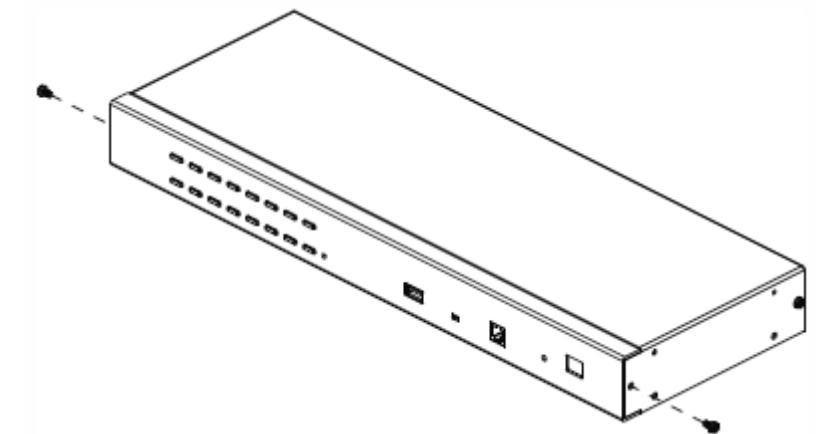
CS1708i/CS1716i は製品本体と接続されるケーブルの重量に耐えられ、安定した水平な場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。セットアップを開始する前に、製品の表面に汚れや傷がついておらず、排気口をさえぎるものや KVM スイッチの操作に支障をきたすものがないことを確認してください。

CS1708i/CS1716i を平置き、またはデイジーチェーン接続しているユニットを積み重ねて設置する場合は、付属のゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。

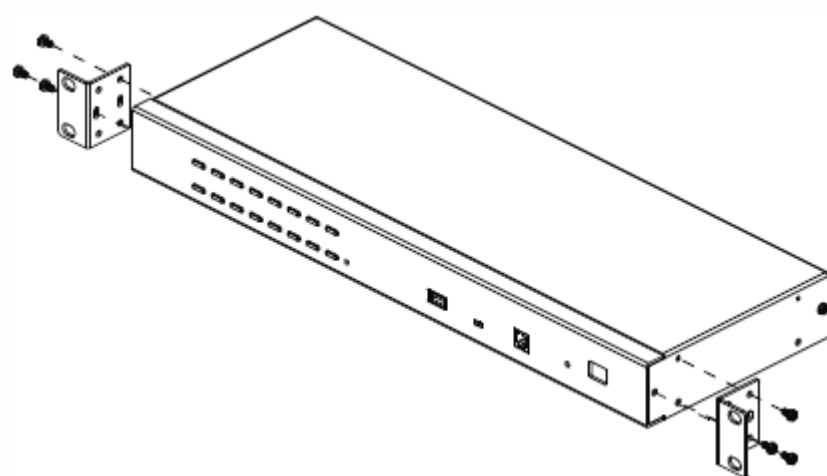


## ラックのフロント側へのマウント

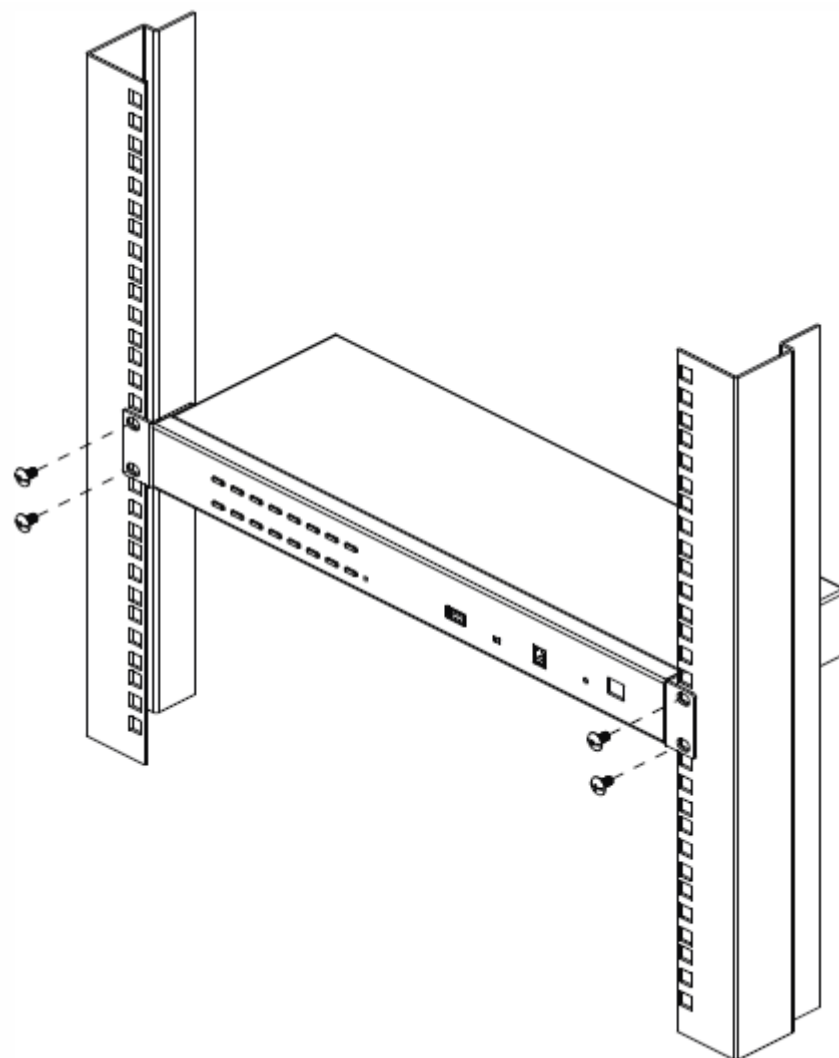
1. 下図のように、側面のフロント側についているネジ(左右各 1箇所)をはずしてください。



2. 付属のネジを使って、マウント用ブラケットを下図のように製品フロント側の側面に取り付けてください。

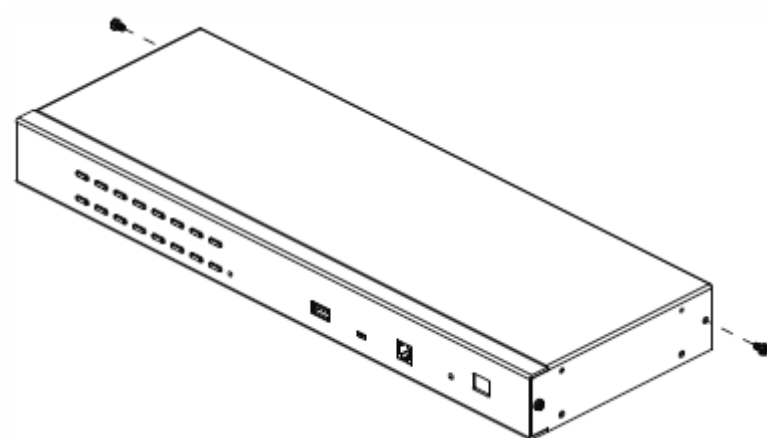


3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側の適切な位置に固定し、ネジ止めしてください。

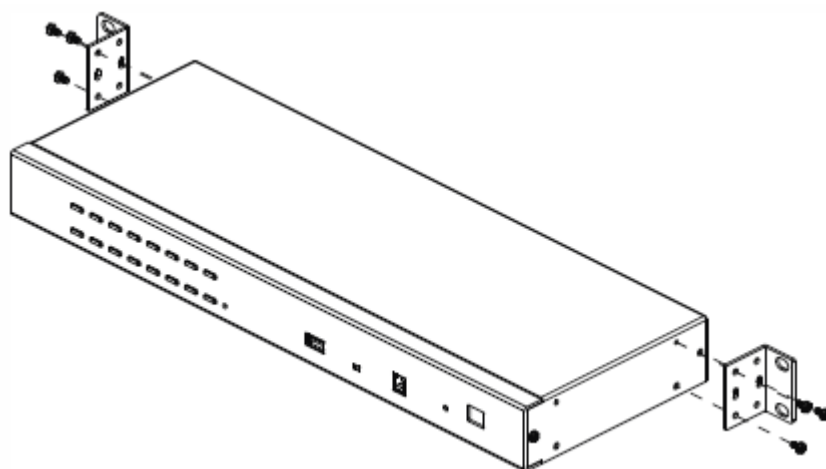


## ラックのリア側へのマウント

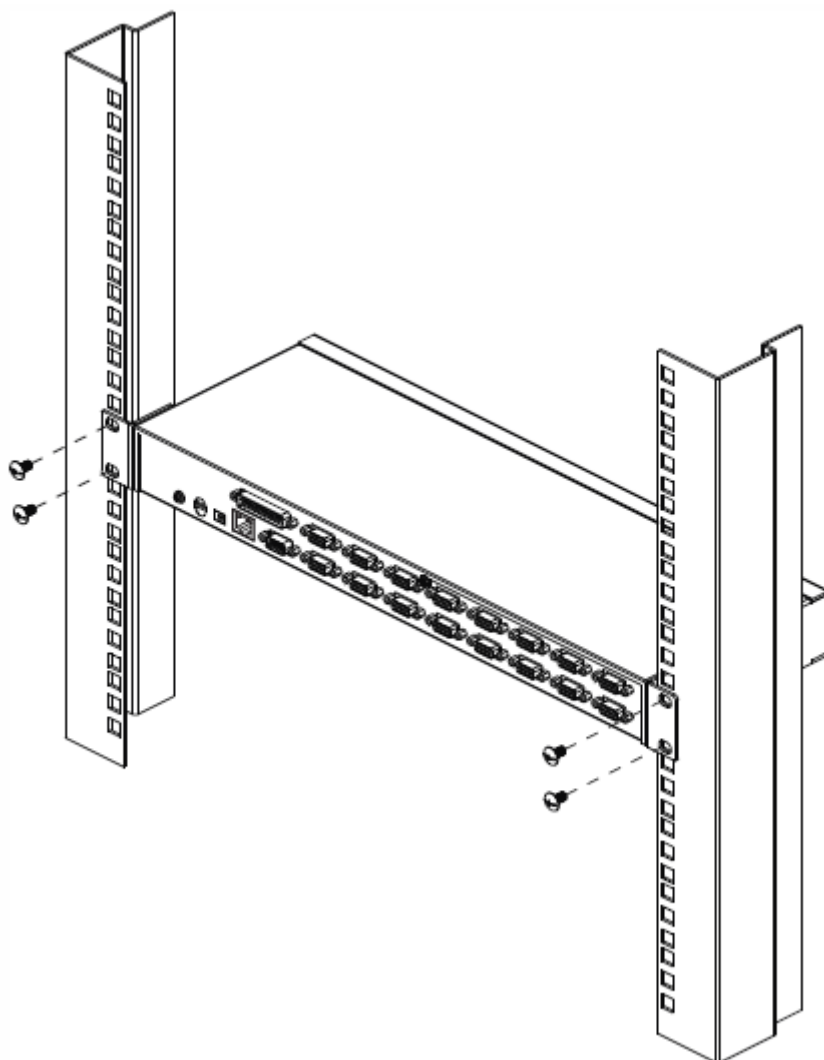
1. 下図のように、側面のリア側についているネジ(左右各 1箇所)をはずしてください。



2. 付属のネジを使って、マウント用ブラケットを下図のように製品リア側の側面に取り付けてください。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのリア側の適切な位置に固定し、ネジ止めしてください。



## 単体構成でセットアップする場合

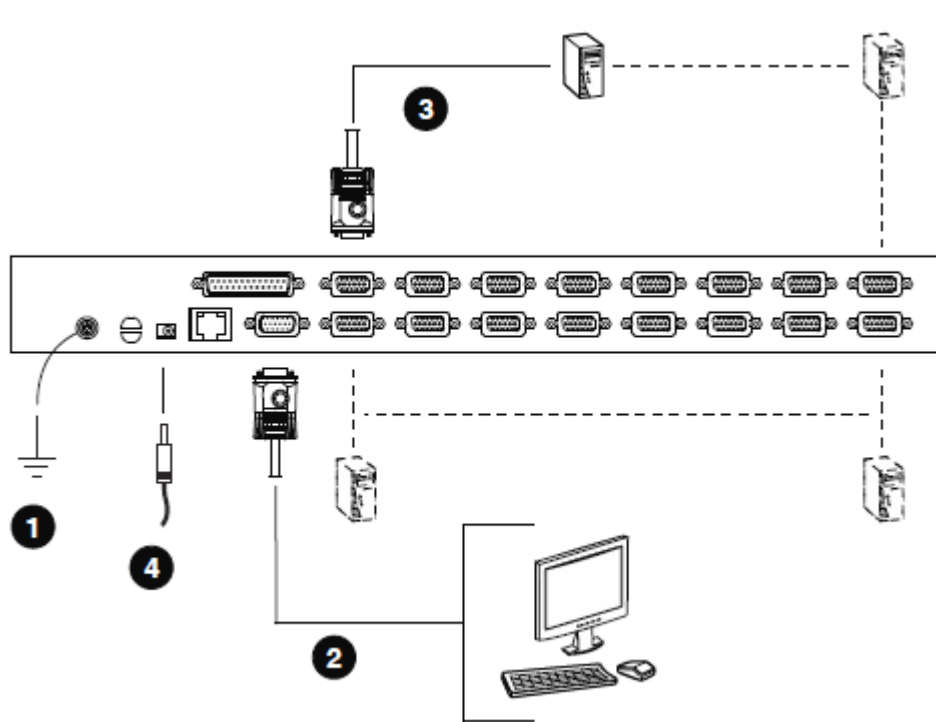
---

製品を1台で使用する場合は下記の接続図(図内における番号は手順の番号に対応)を参考にし、以下の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. 製品に同梱されている接地線で、本体のグランドターミナルをアース端子に接続し、製品本体の接地を行ってください。
2. 製品に同梱されているコンソールケーブルで、キーボード、マウス、モニターを製品のコンソールポートに接続してください。(p.36「コンソールケーブル接続図」参照)
3. KVM ケーブル(p.21 参照)を使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。(p.36「KVM ケーブル接続図」参照)
4. 製品の電源ジャックに電源アダプタのケーブルを接続し、電源アダプタを電源に接続してください。

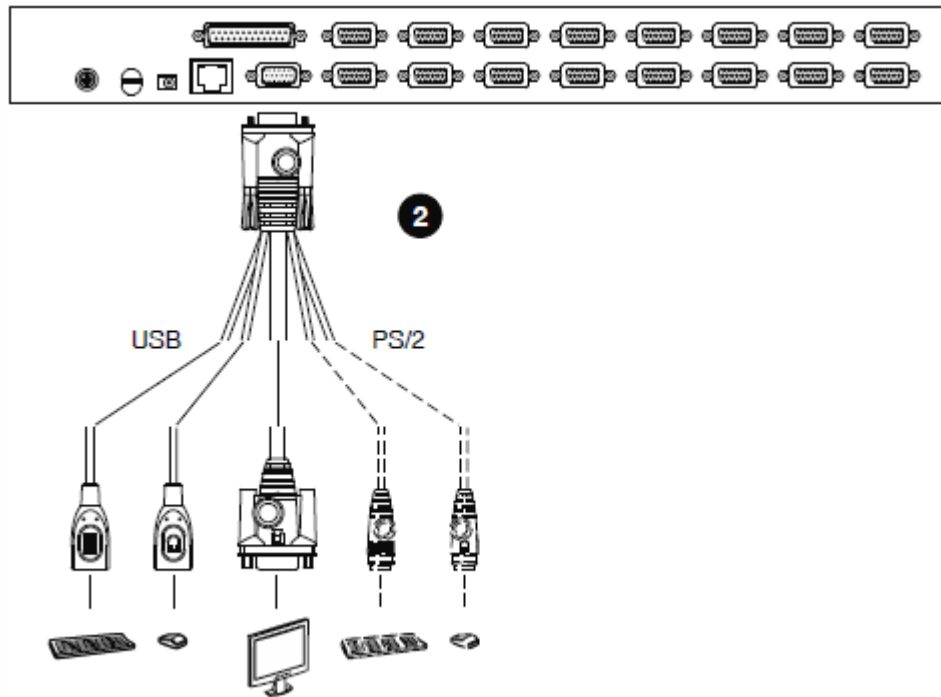
必要なケーブルがすべて接続できたら、サーバに電源を入れてください。

# 接続図 (単体構成)



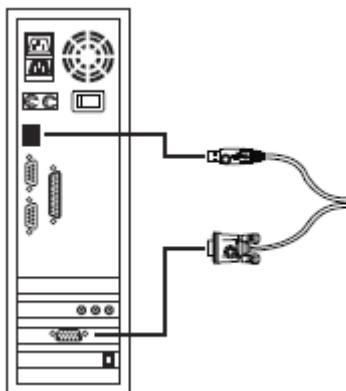
## ケーブル接続図

### コンソールケーブル接続図

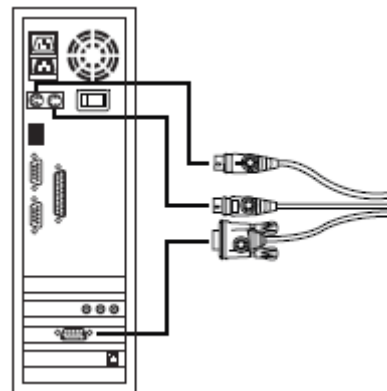


### KVM ケーブル接続図

USB 対応 KVM ケーブル



PS/2 対応 KVM ケーブル



## デージーチェーン接続

---

操作したいコンピューターの台数が CS1708i/CS1716i のポート数を超える場合でも、最大で 15 台の KVM スイッチをデージーチェーン接続することで対応が可能です。この場合、最大で 256 台のコンピューターを1組のコンソールから操作することができます。

- 
- 注意:**
1. コンピューター接続数と KVM スイッチの必要台数の関連表は p.174 をご参照ください。
  2. 本製品とのデージーチェーン接続に対応した製品については p.175 をご参照ください。
- 

製品のデージーチェーン接続を行う場合は、p.38 の接続図を参考にしながら、以下の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. 使用するすべての KVM スイッチおよびコンピューターが適切に接地されていることを確認してください。
2. デージーチェーン専用ケーブル(p.21 参照)を使って、CS1708i/CS1716i の「Chain Out」ポートと子機の「Chain In」ポートを接続してください。
3. 引き続き KVM スイッチをデージーチェーン接続する場合は、手順 3 と同様の方法で親機の「Chain Out」ポートと子機の「Chain In」ポートを接続してください。
4. 接続するコンピューターのインターフェースに適した KVM ケーブル(p.21 参照)を使って、単体構成時と同様の方法で、KVM ポートとコンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。

## 電源投入

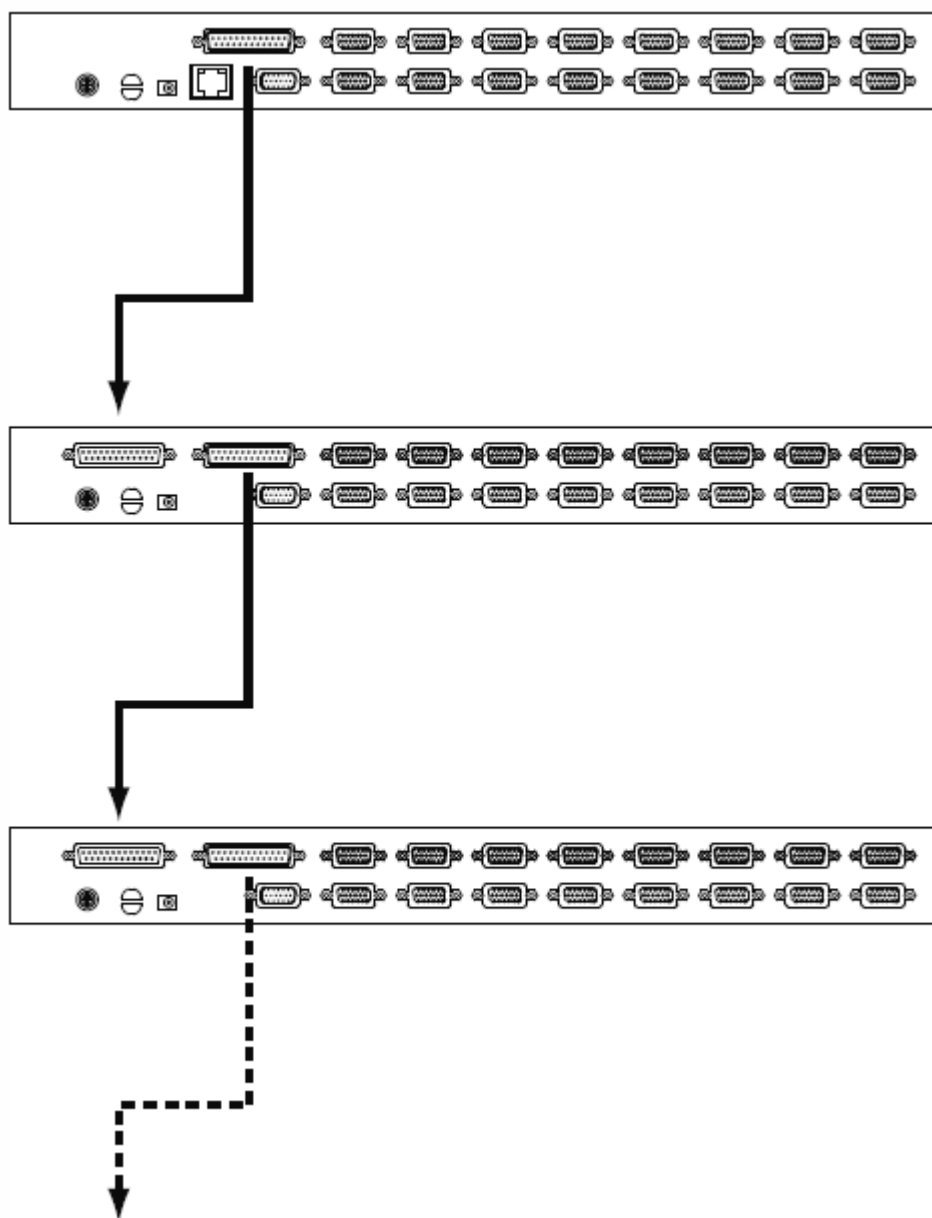
配線がすべて完了したら、下記の手順で機器に電源を入れてください。

1. 製品本体に電源アダプターを接続し、ユニットのステーション ID がステーション ID LED の部分に表示されるのを待ってください。デージーチェーン接続の構成では CS1708i/CS1716i が 1 台目のステーションとなり、ステーション ID として「01」が割り当てられ

ます。

2. 各ステーションに順番に(2 台目、3 台目…)電源アダプターを接続してください。
3. 各ステーションに電源アダプターを接続する場合は、現在アダプターを接続したステーションでステーション ID が表示されたのを確認してから、次のステーションに電源アダプターを接続するようにしてください。
4. すべてのステーションに電源が入ったことを確認したら、コンピューターに電源を入れてください。

### 接続図(デイジーチェーン接続)



# 第3章 基本操作

## ポート選択

---

CS1708i/CS1716i に接続されているコンピューターへの接続には、手動、OSD、ホットキーの3つの操作方法をご用意しております。

### 手動

製品フロントパネルにあるポート選択ボタンを使って手動でポートを切り替えてください。

### OSD/GUI

本製品では、ポート選択用のメニューインターフェースとして、ローカルコンソールからログインする際に使用するテキストベースの OSD(オンスクリーンディスプレイ)と、ネットワーク経由でリモートログインする際に使用する GUI メニューの2種類を提供しております。ローカルコンソールからの OSD 操作については次章で、Windows の GUI 操作については第7章で、また、Java の GUI 操作については第8章でそれぞれ説明します。

### キーボードホットキー

ホットキーを使用すると、製品のポート選択ボタンを手動で操作するかわりに、ローカルコンソールのキーボードから特定のコンピューターに直接切り替えることができます。詳細については p.58「ホットキー操作」をご参照ください。

## ホットプラグ

---

本製品はホットプラグ対応製品です。ケーブルをポートにつなぎかえるだけで、CS1708i/CS1716i をシャットダウンすることなく機器やデバイスの取り付けや取り外しが可能ですが、ホットプラグ機能が正しく動作するように下記の手順に従ってお使いください。

### ステーションのホットプラグ

ステーション位置はケーブルを付け替えることで簡単に変更できます。変更後は、OSD メニューに新しい設定を反映させるために OSD でステーション ID をリセットしなければなりません。詳細については p.52 の「RESET STATION IDS」の内容をご参照ください。

### KVM ポートのホットプラグ

KVM ポートを変更した後、OSD メニューに新しいポートの情報設定を反映させるためには、手動で OSD を再設定する必要があります。詳細に関しては、p.47 の「F3:SET」および p.50 の「F4:ADM」の項にあるポート設定の内容をご参照ください。

---

**注意:** お使いのコンピューターの OS がホットプラグに対応していない場合、製品のホットプラグ機能が正しく動作しない場合がございます。

---

### コンソールポートのホットプラグ

製品に接続されているキーボード、モニター、マウスもホットプラグが可能です。マウスをホットプラグする際には以下の注意事項に従って作業してください。

- ◆ マウスのリセット等の理由で同一マウスを使用する場合に限り、製品に対してマウスケーブルの抜き差しが可能です。
- ◆ 異なるマウスを使用する場合は、すべてのステーションおよび機器に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンし、10 秒間程度お待ちください。その後は、p.37「電源投入」の手順に従って製品を再起動してください。

---

**注意:** ホットプラグをした後、また、通常の操作をしている際に、製品がキーボードやマウスからの入力に反応しなくなった場合は、フロントパネルにあるポート1とポート2のポートLEDを同時に押してキーボードとマウスのリセットを行ってください。

---

## ポート ID の割り当て

---

CS1708i/CS1716i の KVM ポートにはそれぞれ固有のポート ID が割り振られます。ポート ID は、そのポートのステーションナンバーとポートナンバーから構成されています。

- ◆ ステーションナンバーは、デジチェーン接続の構成におけるスイッチの位置を表します。
- ◆ ポートナンバーはコンピューターが接続しているポートを表します。
- ◆ ステーションナンバーはポートナンバーの前に表示されます。
- ◆ ステーションナンバー、ポートナンバーが1桁の場合は先頭に0詰めされ、01～09のように表記されます。

例えば、12 台目のステーションの 6 番ポートに割り当てられているコンピューターのポート ID は **12-06** となります。

## 電源 OFF と再起動

---

CS1708i/CS1716i の電源を OFF にする必要がある場合は、再起動を行う前に以下の作業を行ってください。

1. CS1708i/CS1716i に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンしてください。  
**注意:** キーボード起動機能をご利用のコンピューターがある場合は、シャットダウンした後で、そのコンピューターの電源コードを抜いておく必要があります。電源コードが接続されたままでは、コンピューターに電源が供給され続けてしまいます。
2. CS1708i/CS1716i の電源アダプターを電源から外してください。
3. シャットダウンが終了したら 10 秒ほど待機し、CS1708i/CS1716i に電源を入れてください。
4. すべてのステーションに電源が入り、ステーション ID が表示されたことを確認したら、KVM スイッチに接続されているコンピューターの電源を入れてください。

---

**注意:** 複数のステーションをシャットダウンした場合は、最上位のステーションから順番に電源を入れていってください。

---

## USB 周辺機器

---

製品フロントパネルに搭載されている USB ポートには、USB に対応した周辺機器 (フラッシュメモリ、CD-ROM ドライブ、プリンタ等) を接続してお使いいただけます。この USB デバイスには製品に接続されたコンピューターから切り替えて操作することが可能です。

---

**注意:** CS1708i/CS1716i に接続された USB デバイスには、同一の機器に直接接続されたコンピューター上でのみ利用可能です。デイジーチェーン接続されたステーションの配下にあるコンピューターでは使用することができませんのでご注意ください。

---

ポート切替を行うと、このポートに接続されている USB デバイスは操作中のポートで自動的に認識されます。例えば、ポート 1 のコンピューターからポート 2 のコンピューターに切り替えた場合、その USB デバイスはポート 1 からは自動的に取り外され、ポート 2 に接続します。

# 第4章

## ローカルコンソールの操作

### 概要

---

CS1708i/CS1716i への初回セットアップの際には、ローカルコンソールから操作するのが便利です。ローカルコンソールからは、メニュー形式のオンスクリーンディスプレイ(OSD)を利用して、製品配下に接続されたコンピューターの管理や切替操作を行うことができます。

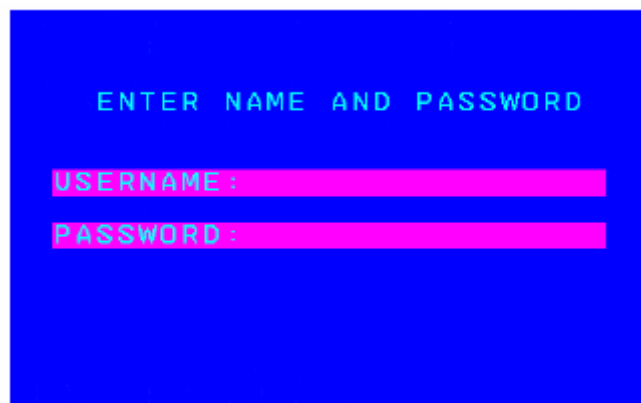
すべての操作は OSD のメイン画面から行います。メイン画面を呼び出す場合は、[Scroll Lock] キーを 2 回連続して押してください。

---

**注意:** [Scroll Lock]キーはデフォルトの OSD ホットキーです。このホットキーは[Ctrl]キーに変更することもできます(詳細は p.48「OSD HOTKEY」参照)。

---

ホットキーを操作すると、下図のような画面が表示されます。

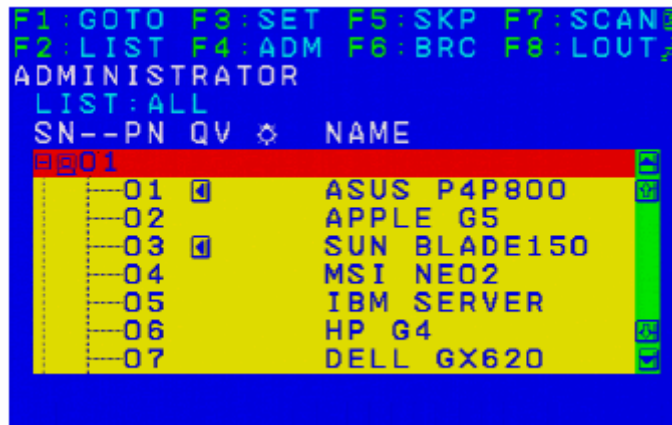


操作を続行する場合は、製品で有効なユーザーネームとパスワードを入力してください。

- 
- 注意:**
1. デフォルトアカウントのユーザーネームは「administrator」、パスワードは「password」です。製品に最初にログインする際には、このデフォルトアカウントを使用してください。2 回目以降は、セキュリティのために、このアカウントのパスワードを任意の文字列に変更してください。
  2. ユーザーネームとパスワードはローカルコンソールからは変更できませんので、リモート管理画面の「User Management」(ユーザーマネージメント)メニューをお使いください。(p.87 参照)
- 

## OSD メイン画面

OSD メニューを起動すると、下図のような画面が表示されます。




- ◆ 上図は、アドミニストレータとして OSD メニューにログインした場合の例です。F4 および F6 の各メニューはアドミニストレータに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。
- ◆ OSD メニューにアクセスすると、「LIST」メニューで前回アクセスした行が選択された状態で表示されます。
- ◆ ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます。(p.121「Port Access (ポートアクセス)」参照)
- ◆ OSD ではツリービューを使用しています。ポート一覧が折りたたまれている場合は、ステーションナンバーの前に+マークが表示されます。ステーションのポートを確認したい場合は、操作対象となるステーションナンバーをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合も同様にステーションナンバーをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて左カーソルキーを押してツリーを折りたたんでください。

## OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する「F8」をクリックするか、キーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。画面に表示しきれないアイテムがある場合、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。画面に表示しきれないアイテムがある場合、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させ [Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。

## OSD メイン画面の項目

項目	説明
SN-PN	ポート ID が「ステーションナンバー - ポートナンバー」の形式で表示されます。ハイライトバーを移動し[Enter]キーを押すと、画面がそのポートに接続されたコンピューターに切り替わります。
QV	クイックビューポート (p.52「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているコンピューターには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピューターに電源が入っている場合、この列に太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合はこの列に表示されます。(p.51「EDIT PORT NAMES」参照)

## OSD 機能

---

KVM スイッチの諸設定および接続されたコンピューターの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへの直接切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定等ができます。

OSD の各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、キーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、**[Enter]**キーを押してください。
3. **[Esc]**キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

### F1:GOTO

この機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、直接ポートを切り替えることが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、**[1]**キーを押した後、ポートネームを入力して**[Enter]**キーを押してください。
- ◆ ポートIDを使用する場合、**[2]**キーを押した後、ポートIDを入力して**[Enter]**キーを押してください。

- 
- 注意:**
1. この機能では、ポートネームの一部もしくはポート ID を入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定(p.47「F2:LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの(p.121「Port Access (ポートアクセス)」参照)がすべて画面にリスト表示されます。
  2. ポートアクセス権限はリモート OSD 経由で設定することができます。詳細は p.119「User Management(ユーザーマネージメント)」をご参照ください。
- 

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、**[Esc]**キーを押してください。

## F2:LIST

このメニューでは、OSDメイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。OSDメニューの多くは、メイン画面で一覧表示されているポートのみを対象にして機能します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	現在の機器構成におけるアクセス可能なポートをすべてリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.52 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON(電源 ON)	接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON)	クイックビューポート(p.52 参照)として選択され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートをリストアップします。

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter] キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

## F3:SET

このメニューでは、アドミニストレータ権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。ユーザーの各プロフィールは KVM スイッチ内に保存され、そのユーザーのログイン時に反映されます。

設定を変更される場合は以下の手順で作業してください。

1. 「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ、[Enter] キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させて [Enter] キーを押してください。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 <b>[Scroll Lock] [Scroll Lock]</b> または <b>[Ctrl] [Ctrl]</b> [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポートID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポートID を表示することができます。 マウスまたはカーソルキーを使ってポートID の表示位置を決めた後、ダブルクリックするか <b>[Enter]</b> キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID 表示時間)	ポート切替が行われた後、画面にポートID を表示する時間を設定します。 <b>3 SECONDS:</b> 3 秒間 <b>ALWAYS OFF:</b> ポートID を常に非表示  デフォルトでは3 秒間に設定されています。
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID 表示モード)	ポートID 表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 <b>PORT NUMBER + PORT NAME:</b> ポートナンバーとポートネーム <b>PORT NUMBER:</b> ポート番号のみ <b>PORT NAME:</b> ポートネームのみ  デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム (PORT NUMBER + PORT NAME) に設定されています。
SCAN DURATION (スキャン間隔)	オートスキャンモード (p.56 参照) で、各ポートに接続されたコンピューターの画面を表示する時間を設定します。1~255 秒までの数値を入力し、 <b>[Enter]</b> キーを押してください。 デフォルトでは5 秒間に設定されています。0 秒で設定するとスキャン機能を無効にします。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SCAN-SKIP MODE (スキャン/ スキップモード)	<p>スキップモード (p.54 参照) およびオートスキャンモード (p.56 参照) で、アクセスするコンピューターを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。</p> <p><b>ALL</b> - アクセスできるすべてのポート (p.121 参照)</p> <p><b>QUICK VIEW</b> - アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (p.52 参照) のみ</p> <p><b>POWERED ON (電源 ON)</b> - アクセス可能かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ</p> <p><b>QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON)</b> - アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ</p> <p>デフォルトでは <b>ALL</b> に設定されています。</p> <p><b>注意:</b> クイックビューの設定はアドミニストレータに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレータでログインした場合にのみ表示されます。(p.52 参照)</p>
SCREEN BLANKER	<p>この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブランクになります。1～30 分の時間を入力してから、<b>[Enter]</b> キーを押します。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。</p> <p>デフォルトでは 0 (無効) に設定されています。</p>
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	<p>ホットキー操作がコンピューターで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。</p> <p>デフォルトでは <b>ON</b> に設定されています。</p>
HOTKEY (ホットキー)	<p>ホットキーモードを開始するキー (p.59 参照) を選択できます。<b>[Num Lock] + [-]</b> または <b>[Ctrl] + [F12]</b> のいずれかを選択してください。</p> <p>デフォルトでは <b>[Num Lock] + [-]</b> に設定されています。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
OSD LANGUAGE (OSD 言語)	OSD メニューの表示言語を設定します。選択できる設定項目は以下のとおりです。  ENGLISH: 英語 DEUTSCH: ドイツ語 日本語 簡中: 中国語 (簡体字) 繁中: 中国語 (繁体字)  デフォルトでは ENGLISH に設定されています。

## F4:ADM

F4 ADM はアドミニストレータのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレータは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4:ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter] キーを押してください。

項目を選択すると、F4 機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter] キーを押してください。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET IP ADDRESS (IP アドレスの設定)	この機能を使うと、CS1708i/CS1716i に動的 IP アドレス(DHCP)、固定 IP アドレスのいずれかを設定することができます。スペースキーを押して、設定内容を切り替えてください。  「DHCP Enable」を OFF に設定する場合は、IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイの値をそれぞれ該当欄に入力してください。  (CS1708i/CS1716i の IP アドレスの設定方法については p.162 参照) 設定が完了したら、[Esc] キーを押してメニューを終了してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	<p>ここで設定された時間、コンソールからの入力がない場合、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。</p> <p>この機能はユーザーがコンピューターにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のユーザーがそのコンピューターにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～180分までの数値を入力し、<b>[Enter]</b>キーを押してください。0分で設定するとこの機能を無効にします。</p> <p>デフォルトは0(無効)に設定されています。</p>
EDIT PORT NAMES (ポートネームの設定)	<p>製品に接続されているコンピューターの識別を容易にするために、各ポートには名前をつけることができます。アドミニストレータはこの機能でポートネームの設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。</p> <p>ポートネームを編集するには以下の手順で作業してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 編集したいポートをクリックするか、<b>[↑][↓]</b>上下のカーソルキーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、<b>[Enter]</b>キーを押します。</li> <li>2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームは、半角英数字(a～z、0～9)、半角ハイフン(-)、半角スペースの使用が可能です。最大 12 文字で入力してください。なお、大文字、小文字は区別されません OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。</li> <li>3. ポートネームの編集を終えたら、<b>[Enter]</b>キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、<b>[Esc]</b>キーを押してください。</li> </ol>
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	<p>この機能は、ポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSD メニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(p.177 参照)</p>
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	<p>ポートネームの一覧を消去します。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
ACTIVATE BEEPER (ビーブ音の設定)	<p>ビーブ音の設定を行います。Y(ON)または、N(OFF)を選んでください。</p> <p>Yを選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(p.56 参照)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力された時にそれぞれビーブ音が鳴ります。</p> <p>デフォルトでは Y(ON)に設定されています。</p>
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORT の設定)	<p>クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレータのみが利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーでハイライトバーをそのポートに移動させて、<b>スペースキー</b>を押してください。</li> <li>◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。</li> <li>◆ LIST メニュー (p.47「F2:LIST」参照)でクイックビューオプションが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。</li> <li>◆ オートスキャン (p.49 参照)でクイックビューオプションが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。</li> </ul> <p>デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
RESET STATION IDS (STATION ID RESET)	<p>デイジーチェーン接続されているステーションの位置を物理的に変更しただけでは、OSD の設定に新しい内容が反映されません。その場合はこの機能を用いて CS1708i/CS1716i に接続されているステーションをスキキャンしなおし、OSD を物理的な設定に更新します。</p> <p><b>注意:</b>この機能ではステーションナンバーの情報のみ更新されます。ポート名前を除いたすべてのアドミニストレータの設定(アクセスポート、クイックビューポート等)は、この変更が影響するすべてのコンピューターに対して手動で更新する必要があります。</p>

(表は次のページに続きます)



## F5:SKP

この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なコンピューターのポートに簡単にスキップすることができます。

スキップモード切替が利用できるコンピューターの選択は、「F3:SET」機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます。(p.49 参照)スキップモードでは以下のキーで操作を行います。

- ← 現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
- 現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。
- ↑ 現在のポートから、リスト内の1つ前のステーションにある最後のポートにスキップします。
- ↓ 現在のポートから、リスト内の1つ後のステーションにある最初のポートにスキップします。

---

**注意:** スキップする際は、スキャン/スキップモードで選択できる前後のコンピューターにしかスキップできません。

---

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで選択されている場合、選択されたポートのポートIDの前に三角の印が表示されます。
- ◆ スキップモードが有効な場合、コンソールが正常に機能しませんので、コンソールから操作したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ スキップモードを終了する際には、**スペースキー**または**[Esc]**キーを押してください。

## F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレータのみが使用できる機能です。ブロードキャスト(BRC)モードが有効になっていると、コンソールから送信されるコマンドは製品配下の全コンピューターにブロードキャストされます。

これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のコンピューターで同じ操作を繰り返し行う必要があるユーザーには特に便利な機能です。

ブロードキャストモードは「**F2:LIST**」の機能と組み合わせて機能します。LIST 機能(p.47 参照)を使用することでOSDメイン画面に表示するポートの範囲を設定することができます。コマンドのブロードキャストは、現在 OSD 上に表示されているポートを対象に行われます。

- ◆ BRC モードが有効な場合、現在選択中のポートIDの前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な場合、マウスが正常に機能しませんので、マウスをお使いになる場合はBRCモードを終了する必要があります。
- ◆ BRCモードを終了するには、OSDメニューをOSD起動用ホットキーで起動し、**F6**のフィールドをクリックするか、**[F6]**キーを押してください。

## F7:SCAN

この機能(別名:オートスキャンモード)を利用すると、手動でポート切替を行うことなく、稼働中のコンピューターを一定の時間間隔で自動的に切り替えて、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピューターは、スキャンモード設定の「**F3:SET**」(p.47 参照)のメニューで選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間間隔の設定は、「**F3:SET**」の「SCAN DURATION」(p.117 参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合は**スペースキー**を押してください。
- ◆ KVM スイッチが、コンピューターが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないコンピューターが接続されているポートを選択すると、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替りますので、しばらくお待ちください。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力の必要がある場合は、オートスキャンモードを解除してください。
- ◆ 任意のポート表示で一時停止したい場合は、[P]キーを押すか、もしくは左クリックしてください。詳細については p.61 をご参照ください。
- ◆ オートスキャンモードの解除は**スペースキー**もしくは[Esc]キーを押してください。

## F8:LOUT

画面の **F8** の項目をクリックするか、**[F8]**キーを押すと OSD メニューからログアウトし、コンソール画面はブランクになります。これは OSD メインメニューを表示している間に**[Esc]**キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。**[Esc]**キーを押した場合は、ログアウトせず OSD メニューを閉じただけです。OSD ホットキーを押せば再度 OSD メニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うと OSD からログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

- 
- 注意:**
1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示すると、OSD メインメニュー以外はブランク画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
  2. ログアウト後に再び KVM スイッチへログインして OSD を表示し、メニューからポートを選択しない状態で**[Esc]**キーで OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には Null Port 無効ポートメッセージが表示されます。このとき OSD 起動ホットキーによって OSD 画面を表示することができます。
-

## ホットキー操作

---

### 概要

本製品では OSD に加えて、キーボードからのホットキー入力でのポートの操作や設定を行うことができます。

---

**注意:** この機能を使う場合は、ホットキーコマンドモードを有効にする必要があります。詳細については p.49「HOTKEY COMMAND MODE」をご参照ください。

---

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切り替えることができます。本製品が提供しているホットキーの機能には以下のような特長があります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替操作
- ◆ スキップモードによる切替操作

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ◆ コンピューターのキーボードおよびマウスのリセット
- ◆ ビープ音の設定
- ◆ ホットキーモード起動キーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポート OS の設定
- ◆ OSD デフォルト値のリストア

## ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。ホットキーモードは以下の手順で起動します。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押して指を離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。

以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。

- 
- 注意:**
1. この手順はデフォルトのホットキーモード起動手順です。別の方法でホットキーモードを起動する場合は、[Num Lock] + [-]の代わりに[Ctrl]+[F12]を使用します。
  2. [-]キー(または[F12]キー)は、押したら 0.5 秒以内に指を離してください。これ以上長くキーを押すと、ホットキーモードは自動的にキャンセルされます。
- 

ホットキーモードが有効になっている場合、CS1708i/CS1716i には以下の動作が見られます。

- ◆ キーボードの[Caps Lock]と[Scroll Lock]の各 LED が交互に点滅し、ホットキーモードがアクティブであることを表します。ホットキーモードを終了すると、これらの LED は元の状態に戻ります。
- ◆ モニターに、青い背景に白い文字で「HOTKEY:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーを入力すると、このプロンプトにその内容が表示されます。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの各入力は一時的にサスペンドされ、ホットキーとして割り当てられているキー入力のみが可能になります。
- ◆ [Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

## ホットキーによるポート操作

### アクティブポートの選択

各ポートには固有のポート ID が割り当てられます。(p.41「ポート ID の割当て」参照)ホットキーでこのポート ID を指定することで、製品に接続されているコンピューターに直接アクセスすることができます。ホットキーを使ってポートを切り替える場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)

2. ポート ID を入力してください。

入力したポート ID は画面上に表示されます。入力を誤った場合は[Backspace]キーを使って消してください。

- 
- 注意:**
1. ポート ID はダッシュを入力せず、数字だけで入力してください。
  2. 切替先となるポートが現在選択しているポートと同じステーションにある場合は、ポートナンバーだけを入力してください。この場合はステーションナンバーを入力する必要はありません。
- 

3. [Enter]キーを押してください。

[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポート ID のコンピューターが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

- 
- 注意:** ホットキーモードで無効な値が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるかホットキーモードが終了するまで表示されたままになります。
-

## オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、「SCAN-SKIP MODE」でアクセスポートとして指定されたすべてのポートを自動で監視できるように、これらのポートを順番に一定の時間間隔で切り替えます。  
(p.49「SCAN-SKIP MODE」参照)

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)

2. **[A]**キーを押してください。

この操作によってホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンモードを開始します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中に、**[P]**キーを押すか、マウスの左クリックをすると、特定のコンピューターの表示でスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「**Auto Scan : Paused**」という文字が表示されます。

オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回一時停止したポートからスキャンを続行しますので、オートスキャンを停止した後でスキャンを再開する必要がある場合は、オートスキャンモードを終了するよりも、スキャンの一時停止機能を利用したほうが便利です。

オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックをしてください。スキャンが停止していた位置から再開します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作がサスペンドされます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。

3. オートスキャンモードを終了する場合は、**[Esc]**キーまたは**スペースキー**を押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは終了します。

## スキップモード

この機能を利用すると、コンピューターを手動で切り替えて監視することができます。この機能はオートスキャンモードとは異なり、スキャンインターバルがありませんので、時間の制限にしばられることなく、選択したポートを好きなだけ表示しておくことができます。スキップモードを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. 切替対象となるポートに応じて、カーソルキーを押してください。
  - ◆ カーソルキーを押すと、ホットキーモードを自動的に終了し、その操作を行ったときに表示していたポートからスキップモードを開始します。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

←	現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。(アクセスポートに関する詳細は p.49「SCAN-SKIP MODE」を参照)
→	現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。
↑	現在のポートから、リスト内の1つ前のステーションにある最後のポートにスキップします。
↓	現在のポートから、リスト内の1つ後のステーションにある最初のポートにスキップします。

- ◆ スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでポートのスキップを行うことができますので、操作のたびに[Num Lock] + [-]等でホットキーモードを起動する必要はありません。
  - ◆ スキップモードの実行中は、スキップモードの機能として割り当てられているキー入力を除いたキーボードおよびマウスの操作がサスペンドされます。コンソールを通常使用したい場合はスキップモードを終了する必要があります。
3. スキップモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

## ホットキーによる設定操作

### キーボード/マウスのリセット

製品に接続されたコンピューターの操作中にキーボードまたはマウスが機能しなくなった場合は、キーボードとマウスのリセットを行うことができます。この機能を使うと、そのコンピューターで実際にキーボードとマウスを抜き差しした時と同じ効果を得られます。キーボードとマウスのリセットを行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. [F5]キーを押してください。

[F5]キーを押すと、自動的にホットキーモードを終了し、そのポートに接続されているコンピューターでキーボードとマウスが再びお使いいただけるようになります。上記の手順でリセットを行っても問題が解決しない場合は、コンソールキーボードとマウスのリセットを実行してください。方法の詳細は p.24 に記載されておりますので、そちらをご参照ください。

### ホットキーによるビープ音の切替

ビープ音(p.51 参照)はホットキーを使って ON または OFF にすることが可能です。ビープ音が ON に設定されていると、ポートの切替時にビープ音がなります。ビープ音の設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音が ON または OFF に切り替わり、画面上に 1 秒間、「Beeper On」または「Beeper Off」の文字が表示された後、ホットキーモードを自動的に終了します。

## ホットキーモード起動キーの切替

ホットキーモード起動キー (p.49「HOTKEY」参照) は、[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]に切り替えることができます。ホットキーモード起動キーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. [H]キーを押してください。

[H]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

## OSD ホットキーの切替

OSD ホットキー (p.48「OSD HOTKEY」参照) は、[Scroll Lock]キー2 度押し、または[Ctrl]キー2 度押しに切り替えることができます。OSD ホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. [T]キーを押してください。

[T]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

## ポート OS の設定

ポートに接続されているコンピューターの OS と一致するように CS1708i/CS1716i 側でポート OS を設定することができます。ポート OS を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. 下表から設定変更の対象となるポートに適した OS を選択し、該当するファンクションキーを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定します。
F2	ポート OS を Mac に設定します。
F3	ポート OS を Sun に設定します。

ファンクションキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了します。

## デフォルト値のリストア

これはアドミニストレータに限定された機能で、工場出荷時におけるデフォルト値を CS1708i/CS1716i にリストアします。(p.51「RESTORE DEFAULT VALUES」参照)デフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. ホットキーモードを起動してください。(p.59 参照)
2. [R]キーを押してください。
3. [Enter]キーを押してください。

[Enter]キーを押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」というメッセージが 3 秒間表示され、ホットキーモードが自動的に終了します。

## ホットキー一覧表

下表は CS1708i/CS1716i のホットキー操作一覧表です。

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[A] [Enter]	オートスキャンモードを実行します。  オートスキャンモードを実行中に[P]キーを押すかマウスで左クリックをすると、オートスキャンを一時停止します。  オートスキャンが一時停止している際に任意のキーを押すか、マウスでもう一度左クリックをすると、オートスキャンを再開します。
	[B]	ビープ音を ON または OFF に切り替えます。
	[Esc] または スペースキー	ホットキーモードを終了します。
	[F1]	ポート OS を Windows に設定します。
	[F2]	ポート OS を Mac に設定します。
	[F3]	ポート OS を Sun に設定します。
	[F5]	現在選択しているポートのキーボードとマウスのリセットを行います。

(表は次のページに続きます)

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[H]	ホットキーモード起動キーを[Ctrl] + [F12]または[Num Lock] + [-]に変更します。
	[ポート ID][Enter]	指定したポートIDに接続されたコンピューターに切り替えます。
	[R] [Enter]	工場出荷時にデフォルト値をCS1708i/CS1716i にリストアします。 (アドミニストレータ限定機能)
	[T]	OSD ホットキーを[Ctrl]キー2度押し、または[Scroll Lock]キー2度押しに変更します。
	[←]	スキップモードを起動し、一つ前のアクセス可能なポートに切り替えます。
	[→]	スキップモードを起動し、一つ後ろのアクセス可能なポートに切り替えます。
	[↑]	スキップモードを起動し、前のステーションにある最後にアクセス可能なポートに切り替えます。
	[↓]	スキップモードを起動し、次のステーションにある最初にアクセス可能なポートに切り替えます。

# 第5章

## ブラウザからのログイン

### 概要

---

ブラウザベースの GUI メニューでは、ユーザー設定やポート切替操作だけでなく、リモートからの機器管理も行うことができます。製品には Windows または Java ベースのビューワーを使ってアクセスすることができます。製品の操作を行うには、まず Web ブラウザを使って CS1708i/CS1716i に接続し、ログインする必要があります。

---

**注意:** Windows ベースのビューワーは Windows 以外のプラットフォームからはご利用になれませんので、ご注意ください。

---

### ログイン

---

ブラウザからログインする場合は、以下の手順で操作してください。

1. Web ブラウザを起動し、アクセスする CS1708i/CS1716i の IP アドレスをブラウザの URL バーに入力してください。

---

**注意:** 1. 例えば、IP アドレスが「192.168.0.100」に設定されている場合は、URL バーに下記のようにアドレスを入力してアクセスします。

192.168.0.100

お使いの CN8000 の IP アドレスがご不明な場合は、製品の管理者までお問い合わせください。

2. アドミニストレータとして初回起動時のログインを行う場合、複数の方法で製品に IP アドレスを設定することができます。この方法については p.162 に記されていますので、そちらをご参照ください。
- 

2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されることがありますが、この証明書は信頼できるものですので、受け入れてください。(詳細は p.167「信頼された証明書」参照) 証明書を受け入れると、下図のような CS1708i/CS1716i のログイン画面が表示されます。



3. 管理者によって設定された有効なユーザーネームおよびパスワード(p.87 参照)を入力し、「Login」(ログイン) ボタンをクリックしてください。

- 
- 注意:**
1. アドミニストレータとして初回起動時のログインを行う場合、以下のデフォルトアカウントでログインしてください。  
ユーザーネーム: administrator  
パスワード: password  
セキュリティの観点からも、初回ログインの後に管理者用のアカウントを新規に作成し、このアカウントを削除されることを推奨します。(p.87 参照)
  2. ログインに失敗すると、「Invalid Username or Password. Please try again.」というメッセージが返ってきます。このメッセージが表示されたら、正しいユーザーネームとパスワードで再ログインしてください。
  3. ログインに連続で失敗した回数が製品側で設定されているログイン再試行可能回数を超えると、「The page cannot be displayed」というメッセージが表示され、タイムアウト時間が起算されます。再ログインするにはこのタイムアウト時間が経過するまでお待ちください。(p.89「Login Failure (ログイン失敗)」参照)
- 

ログインに成功すると、下図のような CS1708i/CS1716i のメイン画面が表示されます。



---

**注意:** メインの Web 画面に表示されるメニューは、ログインしたユーザーの種類とそのユーザーに付与された権限によって変わります。どのユーザーに対してもすべてのメニューが表示されるという訳ではありません。

例えば、上図はアドミニストレーター(または管理者権限のあるユーザー)が見られるメニューを表しています。一般ユーザーは画面上部に表示される管理者向け機能のアイコンや左側に表示される「Log」アイコンは表示されず、また、中央には何も表示されません。

---

## Web メイン画面でのメニュー

メイン画面は、左側に縦一列に並んだユーザーアクセスアイコンと上部に一列に並んだ管理用メニューアイコンから構成されています。

**注意:** ユーザーが操作権限を持っていない機能のアイコンは、そのユーザーがログインしても表示されません。権限の詳細に関しては p.87 の「User Management (ユーザーマネージメント)」の欄をご参照ください。

### ユーザー向けメニューアイコン

画面左側に表示される各アイコンの機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	<b>Open Windows Client (Windows クライアントの起動):</b> Windows クライアントビューワーを起動し、製品に接続されているコンピューターに接続します。 <b>注意:</b> Windows クライアントビューワーは Microsoft Internet Explorer (IE) を使ってログインした時にのみご利用いただけます。
	<b>Open Java Applet (Java クライアントの起動):</b> Java アプレットビューワーを起動し、製品に接続されているコンピューターに接続します。このビューワーを使うと、Java Runtime Environment (JRE) がインストールされた様々なプラットフォームのコンピューターから製品にアクセスすることができます。
	<b>Log (ログ):</b> CS1708i/CS1716i におけるすべてのイベントはログファイルに記録されます。CS1708i/CS1716i においてログ閲覧の権限 (p.87 参照) のあるユーザーがこのアイコンをクリックするとログファイルが画面に表示されます。ログファイルについては第 9 章で詳しく説明します。
	<b>Language (言語):</b> 現在使用しているメニューの言語を変更する場合はこのアイコンをクリックし、リストから言語を選択して、「Apply」(適用) ボタンをクリックしてください。 <b>注意:</b> 「Auto」(自動) を選択した場合、お使いのブラウザの言語設定が CS1708i/CS1716i の表示言語のオプションに含まれていると、この言語を使用してメニューを表示します。それ以外の場合は、デフォルトで英語表示となります。
	<b>Logout (ログアウト):</b> このアイコンをクリックすると CS1708i/CS1716i からログアウトし、セッションを終了します。

## 管理者向けメニューアイコン

Web 画面上部に表示されている各アイコンは、CS1708i/CS1716i の管理設定メニューです。  
CS1708i/CS1716i の管理機能については第 6 章で説明します。

# 第6章 管理メニュー

## はじめに

Web 画面上部に横一列に表示されている管理ユーティリティを使用して CS1708i/CS1716i の操作環境を設定することができます。



本章では、各アイコンについて順に説明していきます。

- 注意:**
1. 各画面で設定内容を変更した場合は、最後に「Apply」(適用)ボタンをクリックして変更内容を適用してください。
  2. 設定内容によっては変更後に製品をリセットする必要があります。この場合、「Reset on Exit」(ログアウトしてリセットする)の項目に自動的にチェックが入ります。(p.89 参照) 変更内容をお使いの環境に反映させる場合は、一度ログアウトしてから再ログインしてください。
  3. 設定権限 (p.87 参照) がない場合、設定メニューはご利用いただけません。

## General Information (一般的な情報)

「General Information」(一般的な情報)メニューは、管理メニューの一番左側に位置し、CS1708i/CS1716i に関する基本情報を表示します。



The screenshot shows a web-based configuration interface. It has three main sections, each with a label and a text input field. The first section is labeled 'Device Name:' and contains the text 'Techdoc-01'. The second section is labeled 'MAC Address:' and contains the text '00-10-74-67-00-00'. The third section is labeled 'Firmware Version:' and contains the text 'V1.0.073'. At the bottom right of the form is a button labeled 'Apply'.

このメニューの各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明
Device Name (デバイスネーム)	複数の CS1708i/CS1716i を導入している場合、システムの管理を容易にするため、個々のユニットに名前を設定することができます。名前を設定する際にはこのフィールドに名前を入力し(半角英数字最大 16 文字で設定可能)、「Apply」(適用)ボタンをクリックしてください。
MAC Address (MAC アドレス)	CS1708i/CS1716i の MAC アドレスを表示します。
Firmware Version (ファームウェアバージョン)	CS1708i/CS1716i の現在のファームウェアバージョンを表示します。CS1708i/CS1716i の新しいバージョンのファームウェアは弊社 Web サイトからダウンロードしてご利用いただけます。(p.93 参照)新しいバージョンのファームウェアを入手する場合、このバージョン情報をご確認ください。

## Network (ネットワーク)

「Network」(ネットワーク)メニューでは CS1708i/CS1716i のネットワーク環境を設定します。

The screenshot shows a network configuration window with the following sections:

- Access Ports:** Http: 80, Program: 9000, Https: 443
- IP Address:**  Obtain an IP address automatically [DHCP],  Use the following IP address [Fixed IP]. IP Address: 172.17.17.30, Subnet mask: 255.255.255.0, Default gateway: 172.17.17.1
- DNS Server:**  Obtain DNS server address automatically,  Using the following DNS server addresses. Primary DNS server: 10.3.152.2, Alternate DNS server: 1.0.0.0
- IP Installer Settings:**  Enabled,  View Only,  Disabled

An Apply button is located at the bottom right.

### Access Ports (アクセスポート)

システムにファイアウォールが導入されている場合、管理者はファイアウォールの設定で許可されたポート番号を CS1708i/CS1716i 側でも設定する必要があります。デフォルトではないポートをお使いの場合、ユーザーはログインの際にこのポート番号を指定しなくてはなりません。入力するポート番号が正しくないと CS1708i/CS1716i を検索しても表示されません。各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明
HTTP	ブラウザログインの際に使用するポート番号です。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルト値は 80 です。
HTTPS	SSL によるブラウザログインの際に使用するポート番号です。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルト値は 443 です。
Program	Windows クライアントまたは Java クライアントの各アプリケーションプログラムから CS1708i/CS1716i に接続する際に指定しなければならないポート番号です。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルト値は 9000 です。

- 
- 注意:**
1. イン트라ネット等ファイアーウォールが使用されていない環境であれば、この項目にどんな値を設定してもお使いの環境には反映されません。
  2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを設定し、項目間で値が重複しないようにしてください。
- 

## IP Address (IP アドレス)

CS1708i/CS1716i には動的 IP アドレス(DHCP)、固定 IP アドレスのどちらでも設定することができます。

- ◆ 動的 IP アドレスを取得するには、「Obtain an IP address automatically」(IP アドレスの自動取得 [DHCP])のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 固定 IP アドレスを使用する場合は「Set IP address manually」(下記の IP アドレスを使用する[固定 IP])のラジオボタンを選択し、「IP address」(IP アドレス)、「Subnet mask」(サブネットマスク)、「Default gateway」(デフォルトゲートウェイ)の各欄にお使いのネットワーク環境に適したアドレスを入力してください。

- 
- 注意:** CS1708i/CS1716i が、DHCP がアドレスを割り当てるネットワークに接続されていて、なおかつ IP アドレスを指定する必要がある場合は、p.162 の「IP アドレスの設定」をご参照ください。
- 

## DNS Server (DNS サーバ)

CS1708i/CS1716i は DNS サーバの自動設定および手動設定が可能です。

- ◆ DNS サーバを自動的に設定する場合は、「Obtain DNS server address automatically」(DNS サーバのアドレスを自動で取得する)のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバを手動で設定する場合は、「Use the following DNS server address」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、「Primary DNS server」(優先 DNS サーバ)、「Alternate DNS server」(セカンダリ DNS サーバ)の各欄に IP アドレスを入力してください。

- 
- 注意:** 「Alternate DNS server」(セカンダリ DNS サーバ)欄の設定はオプションです。
-

## IP Installer (IP インストーラー設定)

IP インストーラーは、CS1708i/CS1716i の IP アドレスを外部から設定できる Windows アプリケーションです。

IP インストーラーの用途に合わせて、「Enable」(有効)、「View Only」(モニタリングのみ)、「Disable」(無効)のいずれかのラジオボタンを選択してください。IP インストーラーの詳細については p.162 をご参照ください。

- 
- 注意:**
1. 「View Only」(モニタリングのみ)を選択すると、IP インストーラーのデバイスリストに CS1708i/CS1716i が表示されますが、IP アドレスを変更することはできません。
  2. IP インストーラーを使って IP アドレスを設定したら、この項目を「View Only」(モニタリングのみ)または「Disable」(無効)に設定することを推奨します。
- 

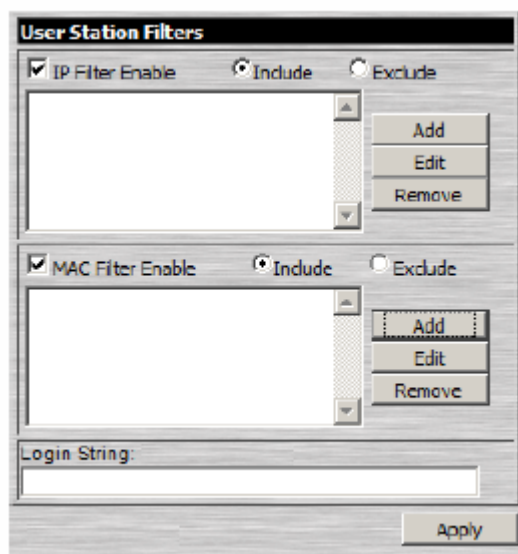
## 設定内容の確定

ネットワークの設定内容を変更したら、ログアウトする前に「Customization」(カスタマイズ)メニュー (p.89 参照)の「Reset on exit」(ログアウトしてリセットする)が有効(チェックが入っている)ことを確認してください。これによって、CS1708i/CS1716i をリモート PC から再起動することができます。

## Security (セキュリティ)

---

「Security」(セキュリティ)メニューでは、CS1708i/CS1716i に対する外部からのアクセスを管理します。



「User Station Filters」(ユーザステーションフィルター)の項目が設定されていると、設定内容が IP フィルターや MAC フィルターのリストボックスに表示されます。

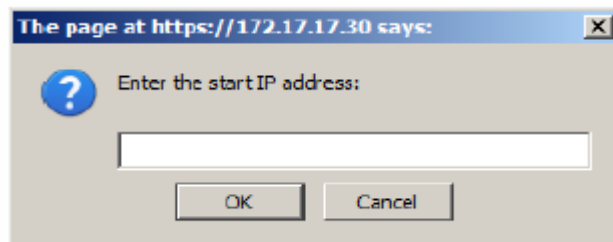
ここで指定された IP アドレスおよび MAC アドレスの設定に基づいて、CS1708i/CS1716i へのアクセスを制御します。IP フィルター、MAC フィルターは、それぞれ最大 100 項目の設定が可能です。IP アドレスによるフィルタリングを有効にする場合は「IP Filter Enable」(IP フィルター有効)の項目に、また、MAC アドレスによるフィルタリングを有効にする場合は、「MAC Filter Enable」(MAC フィルター有効)の項目にそれぞれチェックを入れてください。

- ◆ 「include」(含む)ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスによる CS1708i/CS1716i へのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて拒否されます。
- ◆ 「exclude」(除く)ボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスによる CS1708i/CS1716i へのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可されます。

## フィルターの追加

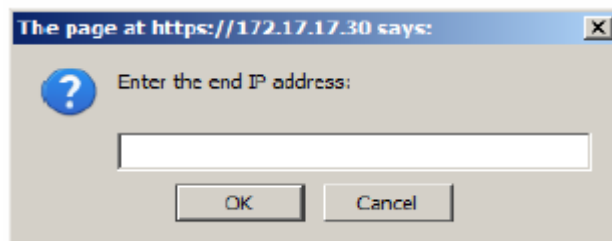
IPアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



2. フィルタリングの対象となる IP アドレス (例:192.168.0.200) を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

以下のような2つ目のダイアログが表示されます。



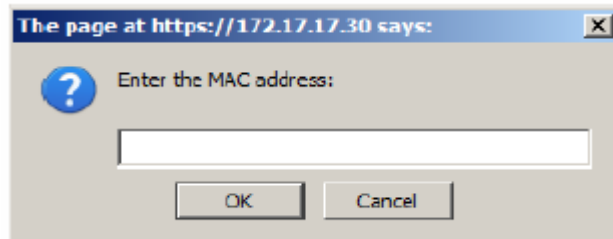
3. IPアドレスを1つだけ設定する場合は、始点となるIPアドレス(the start IP address)と終点となるIPアドレス(the end IP address)に同じ内容を入力してください。複数のIPアドレスの範囲を指定する場合は、その範囲の始点となるIPアドレスおよび終点となるIPアドレス(例:192.168.0.225)を設定してください。

4. IPアドレスの入力が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

MAC アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



2. フィルタリングの対象となる MAC アドレス(例:001074670000)を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

## IP フィルターと MAC フィルターの設定が競合している場合

あるコンピューターが IP アドレスによるフィルタリングではアクセスが許可されているにもかかわらず、MAC アドレスによるフィルタリングではアクセスが禁止されているといったように、フィルタリングの内容が競合している場合、そのコンピューターからのアクセスはブロックされます。

言い換えると、IP フィルターと MAC フィルターのいずれかがアクセス禁止に設定されている場合は、設定内容にかかわらず、そのコンピューターからのアクセスがブロックされます。

## フィルターの修正

フィルターの設定内容を修正する場合は、該当項目を IP フィルターまたは MAC フィルターのリストボックスから選択して、「Modify」(編集)ボタンをクリックしてください。この「Modify」ダイアログは「Add」ダイアログと基本的には同じです。このダイアログが表示されたら、古いアドレスを削除し、新しいアドレスを設定してください。

## フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、該当項目を IP フィルターまたは MAC フィルターのリストボックスから選択して、「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。

## Login String (ログインストリング)

この項目では、ユーザーが CS1708i/CS1716i にアクセスする際に IP アドレスに追加するページ名(ログイン文字列)を、管理者によって設定することができます。以下、ログイン文字列に「cs1716i」を設定した場合のアドレス例です。

192.168.0.126/cs1716i

- 
- 注意:**
1. CS1708i/CS1716i にアクセスする際には、IP アドレスの後にスラッシュ(/)を続け、その後にログイン文字列を入力してください。
  2. ここでログイン文字列を設定していないと、CS1708i/CS1716i の IP アドレス単独でログインページにアクセスできてしまいますが、この文字列を設定することによって製品へのセキュアなアクセスが可能になります。
- 

セキュリティを確保するためにもこの文字列は定期的に変更されることを推奨します。

## ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。この画面は下図のとおり、主に 4 つのセクションから構成されています。

The screenshot displays the ANMS configuration window with the following sections:

- RADIUS Settings:** Includes an  **Enable** checkbox. Below it are fields for Primary RADIUS Server IP, Alternate RADIUS Server IP, Timeout (seconds) (set to 5), and Shared Secret (at least 6 characters). Port fields for both servers are set to 1812, and Retries are set to 3.
- CC Management Settings:** Includes an  **Enable** checkbox. Below it are fields for CC Server IP and Port (set to 0). There is also an  **CC User Only (when CC server is connected)** checkbox.
- LDAP Authentication Settings:** Includes an  **Enable** checkbox. Below it are radio buttons for LDAP and LDAPS (selected), and an  **Enable Authorization** checkbox. Fields include LDAP Server IP, LDAP Admin DN, LDAP Admin Password, Search DN, and Admin Group. The LDAP Server Port is set to 636 and Timeout (seconds) is set to 30.
- Log Server Settings:** Includes fields for Log Server MAC Address (set to 000000000000) and Port (set to 9001).

An **Apply** button is located at the bottom right of the window.

### RADIUS Settings (RADIUS 設定)

CS1708i/CS1716i の認証および権限設定を RADIUS サーバ経由で行う場合、以下の手順で設定を行ってください。

#### RADIUS 設定例

1. 「**Enable**」(有効)の項目にチェックを入れてください。
2. 「Primary RADIUS Server IP」(Primary RADIUS サーバ IP)および「Alternate RADIUS Server IP」(Alternate RADIUS サーバ IP)の各欄に、プライマリ RADIUS サーバおよびセカンダリ

RADIUS サーバの IP アドレスおよびポート番号をそれぞれ設定してください。

3. 「Timeout」(タイムアウト(秒))欄に、CS1708i/CS1716i における RADIUS サーバからの応答待機時間(秒)を入力してください。
4. 「Retries」(リトライ)欄に、RADIUS 認証の再試行可能回数を入力してください。
5. 「Shared Secret」(共有シークレット)欄に CS1708i/CS1716i と RADIUS サーバ間の認証で使用する共有シークレットの文字列を入力します。
6. RADIUS サーバ側で CS1708i/CS1716i 操作権限に関するパラメーターを設定する場合は、以下の表を参考にしてください。

パラメーター	内容
C	ユーザーにアドミニストレータ権限を与えます。ユーザーは CS1708i/CS1716i のシステム設定を行うことができます。
W	ユーザーに CS1708i/CS1716i の Windows クライアントの使用を許可します。
J	ユーザーに CS1708i/CS1716i の Java アプレットの使用を許可します。
L	ユーザーに Web ブラウザ上での CS1708i/CS1716i のアクセスログ情報の閲覧を許可します。
V	ユーザーにモニタリングのみ許可します。
P	ユーザーに PN0108 による電源の ON/OFF 操作および機器のリセットを許可します。
PN / SN	指定したポートナンバー(PN)またはステーションナンバー(SN)へのアクセスを拒否します。 (「PN/ 対象となるポートナンバー」または「SN/ 対象となるステーションナンバー」の形式で指定)
PV / SV	指定したポートナンバー(PV)またはステーションナンバー(SV)のモニタリングのみ許可します。 (「PV/ 対象となるポートナンバー」または「SV/ 対象となるステーションナンバー」の形式で指定)
PF / SF	ユーザーに全ポート(PF)または全ステーション(SF)に対してフルアクセスを許可します。

**注意:** 入力したパラメーターの大文字・小文字は区別されません。また、複数のパラメーターを指定する場合にはコンマ(,)で区切ってください。

## パラメーター入力例

RADIUS サーバのアクセス権の設定例は以下の表のとおりです。

パラメーター	内容
c,w	ユーザーには アドミニストレータ権限/Windows クライアントの使用権限が与えられます。
w,j,l	ユーザーには Windows クライアントの使用権限/Java クライアントの使用権限/ブラウザ上でのログ閲覧権限が与えられます。
pn/0102	ユーザーはステーション 01 のポート 02 にアクセスすることができません。
pf/a	ユーザーは全ポートにアクセスすることができます。
sv/2	ユーザーはステーション 02 のみ参照可能です。

## CC Management Settings (CC マネジメント設定)

CS1708i/CS1716i の認証を CC サーバ経由で行う場合は、このセクションにある「Enable」(有効)の項目にチェックを入れて、「CC Server IP」(CC サーバ IP)および「Port」(ポート)の項目に適切な値を入力してください。

## LDAP Authentication Settings (LDAP 認証設定)

CS1708i/CS1716i では、認証および権限設定を外部システムから行うことができます。LDAP または LDAPS のいずれかを使って認証や権限設定を行う場合は、製品の外部属性名「CS1716i-accessRight」を person クラスのオプション属性として追加し、Active Directory の LDAP スキーマを拡張する必要があります。

---

**注意:** 「authentication」は、ログインするユーザーが正しいユーザーであるかどうかを検証することを、また、「authorization」はデバイスの各種機能の操作権限を割り当てることをそれぞれ指します。

---

LDAP サーバを設定するためには、下記の作業が完了している必要があります。

- 1) Windows Server サポートツールのインストール
- 2) Active Directory スキーマスナップインのインストール
- 3) Active Directory スキーマスナップインの拡張・更新

CS1708i/CS1716i の認証や権限設定をLDAPまたはLDAPS のいずれかを使って行う場合は、下表をご参照ください。また、詳細については弊社技術サポートまでお問い合わせください。

項目	説明
Enable (有効)	LDAP/LDAPS による認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。
LDAP/LDAPS	LDAP と LDAPS のどちらを使って認証を行うかをラジオボタンで選択してください。
Enable Authorization (認証有効)	<p>「Enable Authorization」(認証有効)の項目を有効にするかどうかを選択してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>この項目を有効にする(チェックを入れる)と、LDAP/LDAPS サーバは現在ログインしようとしているユーザーの 'permission' 属性を応答します。なお、この項目を選択すると、LDAP のスキーマを拡張する必要があります。</li> <li>この項目が有効になっていない(チェックが入っていない)場合、LDAP サーバは現在ログインしようとしているユーザーが「CS1708i/CS1716i Admin Group」に属しているかどうかという情報を応答します。結果が「yes」の場合、そのユーザーはCS1708i/CS1716i に対してフルアクセス権限を有します。結果が「no」の場合、ユーザーは限られたアクセス権限しかないことを表します。</li> </ol> <p><b>注意:</b> CS1708i/CS1716i における「Enable Authorization」(認証有効)の項目を有効にするかどうかは、お使いの環境におけるLDAP/LDAP サーバの管理者にご確認ください。</p>
LDAP Server IP and Port (LDAP サーバ IP)	LDAP サーバまたは LDAPS サーバの IP アドレスおよびポート番号を入力してください。LDAP サーバのデフォルトポート番号は 389、LDAPS サーバのデフォルトポート番号は 636 です。
Timeout (タイムアウト(秒))	CS1708i/CS1716i が LDAP サーバまたは LDAPS サーバからの応答を待機する最大秒数を設定してください。
LDAP Administrator DN (LDAP アドミニストレータ DN)	LDAP サーバまたは LDAPS サーバの管理者に問い合わせてこの項目を設定してください。以下、設定例です。  例) cn=LDAPAdmin,ou=cs1716i,dc=aten,dc=com

(表は次のページに続きます)

項目	説明
LDAP Administrator Password (LDAP アドミニストレータパスワード)	LDAP サーバ管理者のパスワードを入力してください。
Search DN (DN 検索)	<p>サーチベースの識別名 (DN) を設定してください。これはユーザーネームの検索開始位置となるドメイン名です。</p> <p>「Enable Authorization」(認証有効)の項目にチェックが入っていない場合、この項目は「CS1708i/CS1716i Admin Group」が作成されたエントリーを含む必要があります。正しい設定内容に関しては、LDAP/LDAPS サーバの管理者までお問い合わせください。</p>
Admin Group (アドミニグループ)	<p>CS1708i/CS1716i の管理ユーザーのグループ名を入力してください。</p> <p>「Enable Authorization」(認証有効)の項目にチェックが入っていない場合、この項目を使ってログインユーザーの権限設定を行うことができます。ユーザーがこのグループに属している場合、そのユーザーにはフルアクセス権が付与されます。ユーザーがこのグループに属していない場合、そのユーザーには限定されたアクセス権しか与えられません。正しい設定内容に関しては、LDAP/LDAPS サーバの管理者までお問い合わせください。</p>

## Log Server Settings (ログサーバー設定)

ログイン情報や内部ステータスメッセージなど、CS1708i/CS1716i の重要なイベントは自動的にログファイルに記録されます。

- ◆ 「Log Server MAC Address」(ログサーバーMAC アドレス)の項目に、CS1708i/CS1716i のログサーバーがセットアップされているコンピューターの MAC アドレスを入力してください。
- ◆ 「Port」(ポート)の項目に、CS1708i/CS1716i のログサーバーがリッスンしているポートを入力してください。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルトポート番号は 9001 です。

---

**注意:**       ここで設定するポートは、「Program」(プログラム)ポートで使用しているポート以外のポートを設定してください。(p.74「Program」参照)

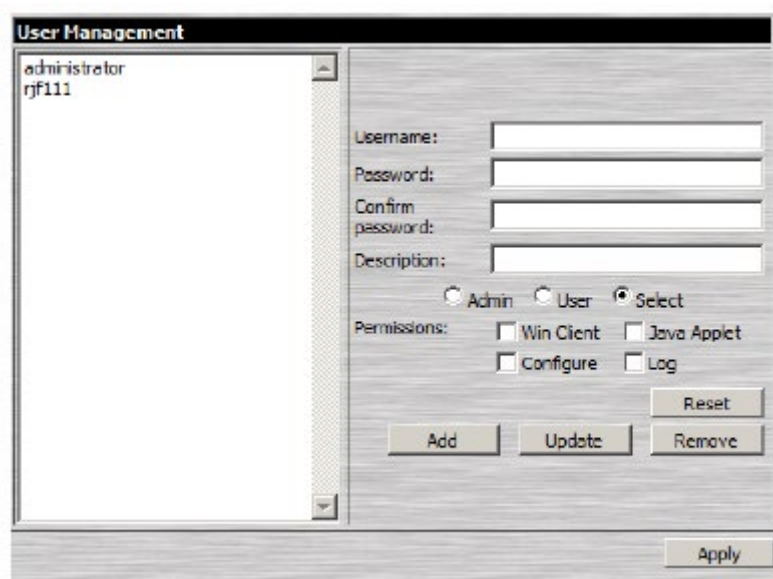
---

ログサーバーのセットアップに関する詳細は第 10 章「ログサーバー」をご参照ください。ログファイルについては p.131 で説明しています。

## User Management (ユーザーマネージメント)

---

「User Management」(ユーザーマネージメント)メニューではユーザーの作成および管理を行います。CS1708i/CS1716i では最大 64 ユーザーのアカウントを作成できます。



- ◆ ユーザーを新規作成する場合は、右側に表示されている各項目を設定し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。新規に作成されたユーザーが左側のリストに表示されます。
- ◆ ユーザー情報を削除する場合は、左側のリストから削除対象となるユーザーを選択し、「Remove」(削除)ボタンをクリックしてください。そのユーザーが左側のリストから削除されます。
- ◆ ユーザー情報を修正する場合は、対象となるユーザーをリストから選択し、右側の項目の設定内容を変更してから「Update」(編集)ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** ユーザー情報を修正する場合、対象となるユーザーを選択しても、右側の入力欄の「Password」(パスワード)および「Confirm password」(パスワードの確認)の項目は表示されません。ユーザーのパスワードを変更しない場合は、これらの欄をそのままにしておいてください。パスワードを変更する場合は、新しいパスワードをこれらの欄に入力してください。

---

- ◆ 「Admin」(アドミニストレータ)または「User」(ユーザー)ラジオボタンを選択すると、そのユーザーレベルに合った権限が「Permission」(許可)の欄で自動的に選択されます。これらの権限をカスタマイズする場合は、「Select」(選択)ラジオボタンを選択し、必要に応じてこれらの操作権限を有効または無効にしてください。

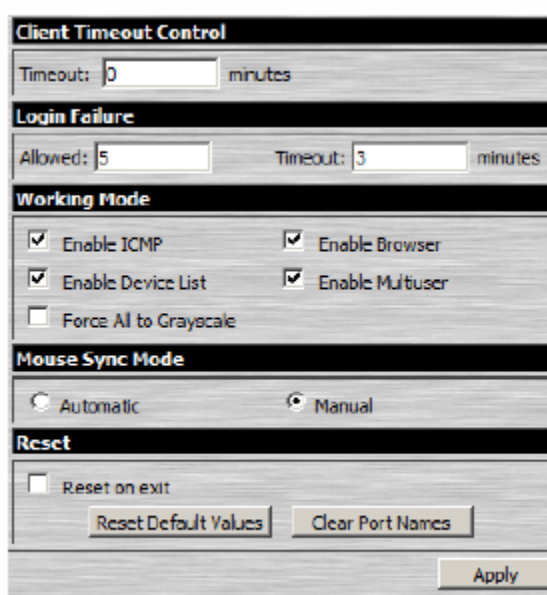
この画面における各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明
Username (ユーザーネーム)	半角英数字 6～16 文字で設定してください。
Password (パスワード)	半角英数字 6～16 文字で設定してください。
Confirm password (パスワードの確認)	「Password」で設定された内容の再確認を行います。この欄にも「Password」の欄に入力した内容と同じものを入力してください。
Description (説明)	ユーザーに関する追加情報があれば、この欄に入力してください。
Permissions (許可)	<p>CS1708i/CS1716i に対する操作権限の有無を設定します。該当ユーザーによる操作を許可する場合はその項目にチェックを入れ、禁止する場合はその項目からチェックをはずしてください。</p> <p><b>Win Client (Win クライアント):</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが Windows クライアント経由で CS1708i/CS1716i にアクセスできるようになります。</p> <p><b>Java Client (Java クライアント):</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが Java クライアント経由で CS1708i/CS1716i にアクセスできるようになります。</p> <p><b>Configure (設定):</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーに管理者権限が付与され、CS1708i/CS1716i の操作環境のセットアップおよび設定内容の変更ができるようになります。</p> <p><b>Log (ログ):</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーは CS1708i/CS1716i のイベントログを参照することができるようになります。</p>

- ◆ 「Reset」(リセット)ボタンをクリックすると、右側の入力欄に表示されている内容がすべて消去されます。
- ◆ 入力が完了したら、「Apply」(適用)ボタンをクリックして変更内容を適用してください。

## Customization (カスタマイズ)

「Customization」(カスタマイズ)メニューでは、管理者がタイムアウトまでの時間や、ログイン再試行回数、操作モード等のパラメーターを設定します。



The screenshot shows a configuration window titled "Client Timeout Control". It contains several sections with adjustable parameters:

- Client Timeout Control:** A text input field for "Timeout" is set to "0" minutes.
- Login Failure:** Two text input fields: "Allowed" is set to "5" and "Timeout" is set to "3" minutes.
- Working Mode:** Four checkboxes: "Enable ICMP" (checked), "Enable Device List" (checked), "Enable Browser" (checked), and "Enable Mjtuser" (checked). There is also an unchecked checkbox for "Force All to Grayscale".
- Mouse Sync Mode:** Two radio buttons: "Automatic" (selected) and "Manual".
- Reset:** An unchecked checkbox for "Reset on exit". Below it are two buttons: "Reset Default Values" and "Clear Port Names".

An "Apply" button is located at the bottom right of the window.

### Timeout (タイムアウト)

ここで設定された時間(分)、ユーザーから CS1708i/CS1716i に対して入力がない場合、そのユーザーのセッションを終了します。セッションが終了されると、ユーザーは操作するためには再ログインしなければなりません。デフォルトでは 0 (タイムアウト機能無効)に設定されています。

### Login Failure (ログイン失敗)

- ◆ **Allowed (許可)** リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは 5 回に設定されています。
- ◆ **Timeout (タイムアウト)** ログイン操作の回数が、この連続試行可能回数を超えた場合、再ログインまで待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは 3 分間に設定されています。

## Working Mode (動作モード)

動作モードの各パラメーターの内容は下表のとおりです。

パラメーター	内容
Enable ICMP (ICMP 有効)	この項目が有効になっていると、CS1708i/CS1716i は自身に発行された ping コマンドに対して応答し、また、ARP コマンドで IP アドレスを設定することもできます。この項目が無効になっていると、外部から自身に対する ping には応答せず、ARP コマンドによる IP アドレスの設定要求も受け付けません。デフォルトではこの項目は有効になっています。
Enable device list (デバイスリスト有効)	この項目が有効になっていると、アプリケーション版 Windows クライアントの接続画面にこの CS1708i/CS1716i の情報が表示されるようになります。(p.143 参照) この項目が無効になっていると、この CS1708i/CS1716i は Windows クライアントの接続画面には表示されません。デフォルトではこの項目は有効になっています。
Force All to Grayscale (グレースケール表示にする)	この項目が有効になっていると、リモートアクセスしている全てのユーザーのディスプレイに、リモート画面がモノクロで表示されます。この機能によって、ネットワーク帯域が低い環境においても、データ I/O のパフォーマンスの向上がはかれます。デフォルトではこの項目は無効になっています。
Enable browser (ブラウザ有効)	この項目が有効になっていると、ユーザーはブラウザによって CS1708i/CS1716i を操作できるようになります。この機能が無効になっていると、ユーザーは付属のソフトウェアに収録されている Windows クライアントまたは Java クライアントのアプリケーションでアクセスしなければなりません。デフォルトではこの項目は有効になっています。
Enable multiuser (マルチユーザー有効)	この項目を有効にすると、複数ユーザーによる CS1708i/CS1716i への同時ログインが可能になります。デフォルトではこの項目は有効になっています。

## Mouse Sync Mode (マウスシンクモード)

この項目ではローカルとリモートのマウスポインターの同期方法を設定します。

### Automatic (自動)

この項目が選択されていると、マウスダイナシンク機能を有効にし、リモートとローカルのマウスポインターを自動的に同期します。これによって、双方のマウスの動作を手動で同期する必要がなくなります。

---

**注意:** この項目を選択した場合、製品配下のコンピューターはUSBタイプのコンピューターモジュールを使って接続しなければなりません。それ以外のモジュールを使用した場合、マウスポインターが動作しなくなる場合があります。

---

### Manual (手動)

自動同期の設定でポインタが同期しない場合、この項目を設定すると手動で調節することができます。手動設定の方法は下記の通りです。

- ◆ コントロールパネル(p.98 参照)の「Video Settings」(ビデオ設定)のアイコンをクリックすると、ビデオとマウスの自動同期を実行します。
- ◆ ビデオ設定機能(p.98 参照)の「Auto-Sync」(オートシンク)を使うと自動同期を実行します。
- ◆ マウス調整ホットキー(p.101 参照)を使うとマウス調整機能を呼び出します。
- ◆ マウスポインターを画面の四隅に移動させてください。(順序は問いません)

---

**注意:** この設定を行っても同期しない場合は、問題が発生しているコンピューター上でマウスの速度や加速の設定を行う必要があります。方法については p.165「その他のマウス同期の方法」をご参照ください。

---

## Reset (リセット)

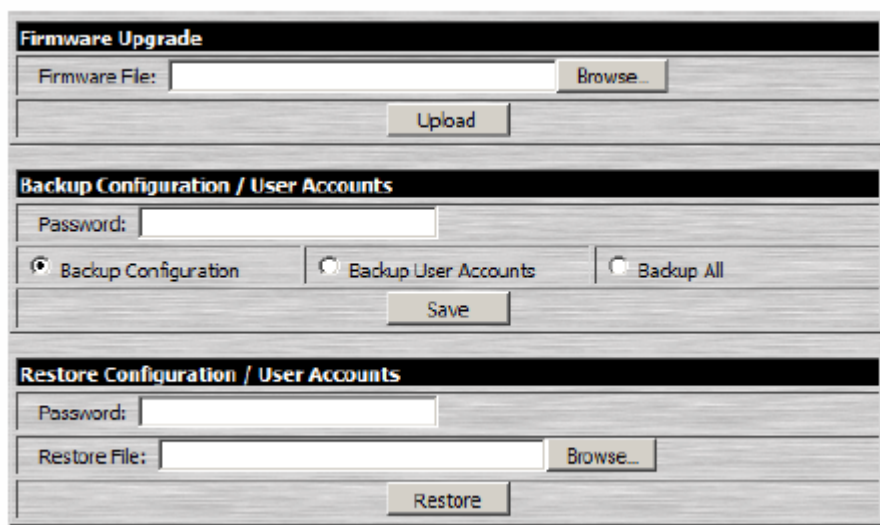
このセクションの項目が実行する機能は下表のとおりです。

パラメーター	内容
Reset on Exit (ログアウトしてリセットする)	<p>ログアウトする際に、製品をリセットして新しい設定を適用する場合は、この項目にチェックを入れてください。リセット後は 30～60 秒程待機し、再ログインしてください。なお、ネットワークの IP アドレスの設定変更を行うと、この項目が自動的に有効になり、ログアウトした際に製品がリセットされます。IP アドレスの設定変更後にこの項目からチェックを外してログアウトすると、新しく設定した IP アドレスは製品には適用されませんのでご注意ください。</p> <p><b>注意:</b>新しい IP アドレスの内容は製品には適用されませんが、画面上には新しい IP アドレスが表示されたままになっています。この画面への次回アクセス時に、この項目にチェックが入り、次に製品がリセットされた際に、変更されていないと思っていた IP アドレスの設定が保存されることとなります。こういった問題を避けるためにも、画面に表示されている IP アドレスが保存したいものであるかを確認してください。</p>
Reset Default Values (デフォルト値にリセットする)	<p>「Customization」(カスタマイズ)メニューにおけるポートネームを除いた全項目を、工場出荷時におけるデフォルト設定の内容に戻します。</p>
Clear Port Names (ポートネームのクリア)	<p>ポート設定で割り当てられたポートネームを削除します。(p.110 参照)</p>

## Maintenance (メンテナンス)

---

「Maintenance」(メンテナンス)メニューでは、管理者が製品のファームウェアアップグレード、システム設定・ユーザー設定のバックアップおよびリストアを行うことができます。



The screenshot displays three distinct sections of a web interface:

- Firmware Upgrade:** Features a text input field for 'Firmware File:' followed by a 'Browse...' button, and an 'Upload' button below.
- Backup Configuration / User Accounts:** Includes a 'Password:' input field, three radio buttons for 'Backup Configuration' (selected), 'Backup User Accounts', and 'Backup All', and a 'Save' button.
- Restore Configuration / User Accounts:** Includes a 'Password:' input field, a 'Restore File:' input field with a 'Browse...' button, and a 'Restore' button.

### Firmware Upgrade (ファームウェアアップグレード)

製品ファームウェアの新しいバージョンがリリースされると、弊社のダウンロードサイトからダウンロードできるようになります。このダウンロードサイトに定期的にアクセスすることで、製品の最新情報や最新パッケージを入手することができます。

---

**注意:** 本セクションで行うファームウェアアップグレードは CS1708i/CS1716i のネットワークモジュールを対象に実行します。このアップグレードを行う際には必ずメインボードのファームウェアもアップグレードしてください。(p.149 参照)

---

ネットワークモジュールのファームウェアをアップグレードする場合は、以下の手順に従って操作してください。

1. 新しいファームウェアのファイルをお使いのコンピューターにダウンロードしてください。
2. ブラウザを起動し、CS1708i/CS1716i にログインして「Maintenance」(メンテナンス)アイコンをクリックしてください。

3. 「Firmware File」(ファームウェアファイル)欄の右隣にある「Browse」(参照...)ボタンをクリックし、手順 1 でダウンロードしたファイルが保存されているフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
4. 「Upload」(アップロード)ボタンを押してください。
5. アップロードが完了し、画面上に操作が成功したという内容のメッセージが表示されたら、ログアウトして CS1708i/CS1716i をログアウト後にリセットしてください。

---

**注意:** 再ログインする場合は、しばらく待ってからログインするようにしてください。

---

## Backup Configuration / User Account

### (設定・ユーザーアカウントのバックアップ)

このセクションでは、CS1708i/CS1716i の設定やユーザープロフィールのバックアップを行うことができます。

バックアップを実行する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Password」(パスワード)欄に、バックアップファイルにかけるパスワードとなる文字列を入力してください。

---

**注意:** このパスワードはファイルからのリストアを実行する際に必要となりますので、忘れないように記録しておいてください。

---

2. バックアップの対象が設定情報のみの場合は「Backup Configuration」(設定のバックアップ)を、ユーザーアカウントのみの場合は「Backup User Accounts」(ユーザーアカウントのバックアップ)を、また、この両方をバックアップする場合は「Backup All」(すべてをバックアップ)をそれぞれ選択してください。

3. 「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

4. ブラウザからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適切な場所に保存してください。

---

**注意:** CS1708i/CS1716i はバックアップファイルを「CS1716i.conf」という名前で保存します。複数のバックアップファイルを保存したい場合は、保存する際に別名を付けて保存してください。

---

## Restore Configuration / User Account (設定/ユーザーアカウントの回復)

ユーザーアカウントやシステム設定のバックアップはこのセクションでリストアすることができます。リストアを実行すると、現在 CS1708i/CS1716i に設定されている情報は、リストアに使用したバックアップファイルの内容に置き換わります。

過去のバックアップの内容をリストアする際には、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Password」(パスワード)欄に、そのファイルを保存した際に入力したパスワードと同じ文字列を入力してください。
2. 「Browse」(参照...)ボタンをクリックし、バックアップファイルが保存されているフォルダーを選択してください。

---

**注意:** デフォルトで設定されたファイル名を変更していても、変更された新しい名前ですのままお使いいただけますので、元の名前に戻す必要はありません。

---

3. 「Restore」(回復)ボタンをクリックしてください。ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

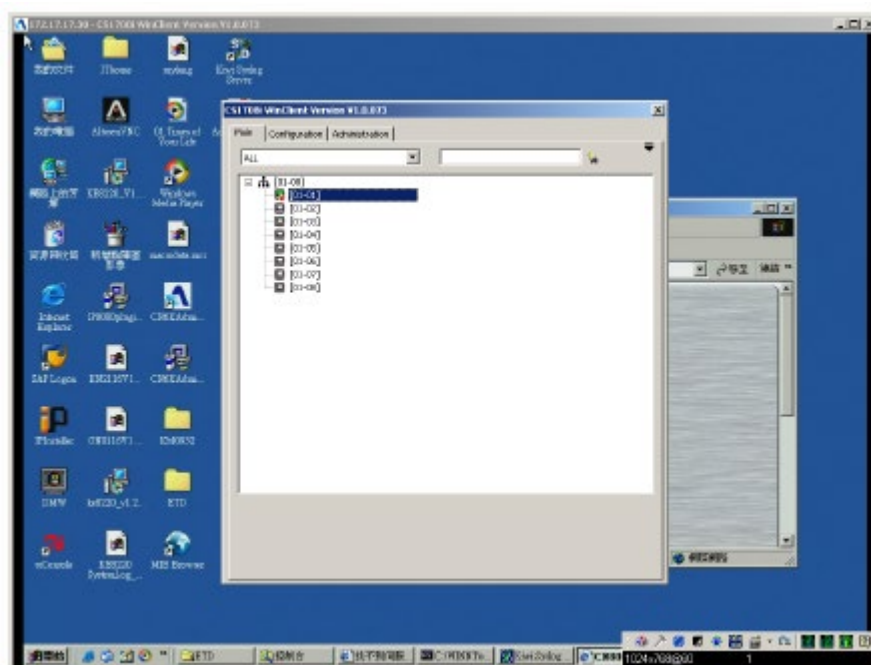
# 第7章 Windows クライアントビューワー

## 起動方法

Windows クライアントビューワーは Microsoft Internet Explorer (IE) を使ってログインした時のみご利用いただけます。このビューワーを使用する場合は、ログイン(p.67 参照)した後で、画面左側にある「Open Windows Client」(Windows クライアントの起動)アイコンをクリックしてください。



このアイコンをクリックしてから数秒経つと、Windows クライアントビューワー経由で CS1708i/CS1716i に接続します。



画面中央に「Main」タブが、右下にコントロールパネルがそれぞれ表示された状態で CS1708i/CS1716i の GUI が表示されます。この GUI は、「Main」、「Configuration」(設定)、「Administration」(管理)の3つのメニューから構成されています。「Main」メニューはポートの切替やそのポートに接続されているサーバへのアクセスに使う画面です。

- 
- 注意:**
1. 別のユーザーが GUI を使っている場合には、この GUI は表示されず、他のユーザーによって使用されているという内容のメッセージが表示されます。操作したい場合は、別のユーザーが操作を終えるまでお待ちください。
  2. 管理者権限のないユーザーは「Administration」(管理)メニューを使用できません。
  3. GUIのメイン画面で選択されたポートに接続されているサーバがGUIの後ろに表示されているように見える場合がありますが、これだけでは操作をすることはできません。GUIでこのポートにアクセスしてはじめて操作することができます。
- 

ポートに切り替えると、ローカルシステムのようにモニターの画面表示でリモートシステムを操作することができます。このウィンドウは最大化したり、枠をドラッグしてリサイズしたり、スクロールバーを使ってスクロールしたりすることができます。

次のセクションではコントロールパネルについて説明します。また、GUIについては p.106 で説明しています。








## コントロールパネル

Windows クライアントコントロールパネルは、上段のアイコン、下段のテキストバーから構成されています。下段のテキストバー左端にはリモート画面の解像度が、また、中央には現在ログインしているユーザーの数がそれぞれ表示されます。






**注意:** コントロールパネルを画面上の別の場所に移動させたい場合は、テキストバーの部分をドラッグしてください。

コントロールパネルの各機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	「Hotkey Setup」(ホットキーセットアップ)ダイアログ (p.100 参照) を起動します。
	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログ(p.102 参照)を起動します。
	ビデオとマウスの自動同期を実行します。これは、「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログ(p.102 参照)の「Auto-sync」(オートシンク)ボタンと同じ機能を提供します。
	リモート画面の表示をカラーまたはモノクロに変更します。
	メッセージボード (p.103 参照) を起動します。
	[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号をリモートコンピューターに送信します。
	キーボードの部分をクリックするとオンスクリーンキーボードを起動します。また、矢印の部分をクリックするとキーボード言語の一覧を表示します。(p.105 参照)

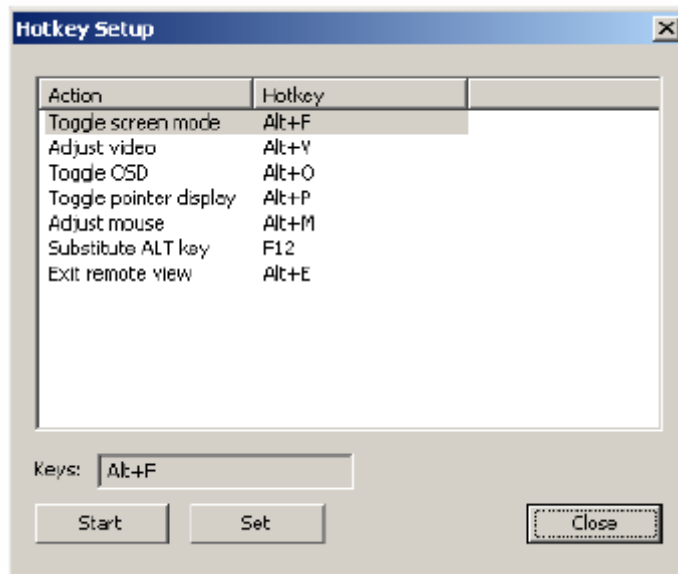
(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	<p>リモートビューを終了します。</p>
	<p>現在選択しているサーバの[Num Lock]キー、[Caps Lock]キー、[Scroll Lock]キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ロックが ON になっている場合、LED はグリーンに点灯し、錠前が閉じた状態になります。</li> <li>◆ ロックが OFF になっている場合、LED はくすんだグリーンに点灯し、錠前が開いた状態になります。</li> </ul> <p>アイコンをクリックすると、その部分に対応するキーの状態を ON または OFF に切り替えます。</p> <p><b>注意:</b>初回接続時には LED ランプの表示状態が正確でない場合があります。このような場合には、アイコンをクリックして正しい状態に設定してください。</p>
	<p>Windows クライアントのバージョン情報を表示します。</p>



## Hotkey Setup (ホットキーセットアップ)

KVM スイッチへの様々な操作はホットキーを使って実行することができます。パネルの左側にはホットキーによって実行される操作が、また、右側にはその操作を行うホットキーがそれぞれ表示されます。



各ホットキーによって実行できる操作は下表のとおりです。

アクション	説明
Toggle screen mode (スクリーンモードを変更する)	画面表示をフルスクリーンまたはウィンドウモードに切り替えます。
Adjust video (ビデオアジャスト)	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを起動します。(p.102 参照)
Toggle OSD (OSD)	コントロールパネルを OFF または ON に切り替えます。
Toggle pointer display (ポインタ表示を変更する)	ローカル/リモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使って片方のポインタを小さい円にすることができます。もう一度この機能を実行すると、元のカーソルの状態に戻ります。

(表は次のページに続きます)

アクション	説明
Adjust mouse (マウス同期)	<p>ローカルとリモートのマウスポインターを同期させます。このホットキーを実行した後、クライアントコンピューターのマウスポインターをリモートサーバーのマウスポインターに重ねてクリックすると、マウスが同期します。</p> <p><b>注意:</b>この設定を行っても同期しない場合は、問題が発生しているコンピューター上でマウスの速度や加速の設定を行う必要があります。方法については p.91「Mouse Sync Mode (マウスシンクモード)」、p.165「その他のマウス同期の方法」をご参照ください。</p>
Substitute Alt Key (代替 Alt キー)	<p>キーボードの入力信号はキャプチャされ製品に送られますが、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]の各組み合わせはローカル側で実行されてしまいます。これらのキーをリモートコンピューター側で実行したい場合、他のキーを[Alt]キーの代替キーとして使用することで解決します。例えば、[F12]キーを代替キーとして使用した場合、上記の2つのキー操作は [F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Del]でそれぞれ実行できます。</p>
Exit remote location (リモートビューを終了する)	<p>CS1708i/CS1716i との接続を終了し、ローカル操作に戻ります。</p>

## ホットキーの設定

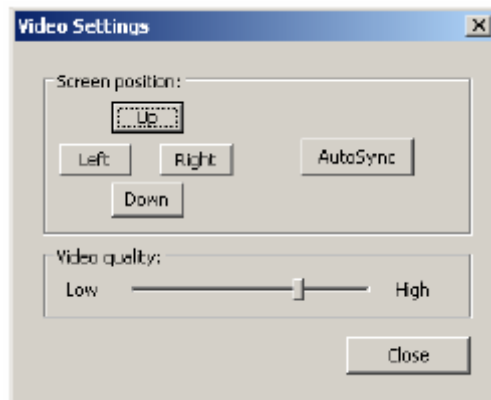
デフォルトのホットキーの組み合わせでは不都合が生じる場合は、以下の手順でホットキーを変更することができます。

1. 変更対象となるアクションを選択してください。
2. 「Start」(開始)ボタンを押してください。
3. 新しいホットキーを押してください。  
キーは押されると「Keys」(キー)欄に表示されます。
4. 「Set」ボタンを押してください。
5. 「Close」(閉じる)ボタンを押してください。



## Video Settings (ビデオ設定)

このダイアログでは、お使いのモニター上でのリモート画面の位置設定や画質の調整を行うことができます。



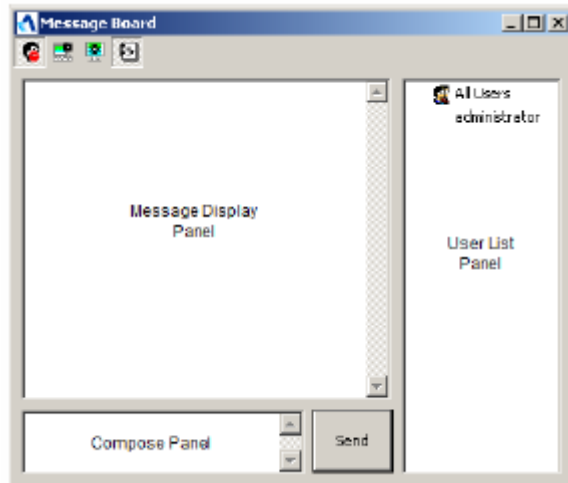
このダイアログの項目の内容は以下のとおりです。

オプション	機能
Screen Position (スクリーンポジション)	矢印ボタンをクリックすることでサーバのウィンドウの水平位置と垂直位置を調整します。
Auto-Sync (オートシンク)	クリックすると、リモート画面の垂直、水平各方向のオフセット値を検出し、ローカル側の画面に自動的に同期します。 <b>注意:</b> <ol style="list-style-type: none"><li>ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、大半のケースではこの機能を使用することで再び同期します。</li><li>この機能は明るい画面で実行すると最大の効果を発揮します。</li><li>満足のいく調整結果が得られなかった場合は、「Screen Position」(スクリーンポジション)ボタンでリモート画面の位置を手動で調整してください。</li></ol>
Video Quality (ビデオ品質)	スライドバーをドラッグしてビデオ画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明になりますが、ネットワークに転送されるビデオデータの量も大きくなりますので、ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。





## Message Board (メッセージボード)

本製品は複数のユーザーがログインしている際に起こりうる操作の競合を最小限に抑えるために、ログインユーザー間でコミュニケーションが取れるメッセージボード機能を提供しています。





### ボタンバー

ボタンバーにあるボタンは各機能の ON/OFF を交互に切り替えるトグルボタンです。各ボタンの機能は下表のとおりです。

ボタン	動作
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になると、メッセージボードに送信されたメッセージは表示されなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、この機能を無効にしているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にチャット無効のアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスの専有/開放を行います。複数のユーザーがログインしている時に、このボタンを使ってキーボード/ビデオ/マウス操作を専有することができます。あるユーザーがこれらを専有すると、他のユーザーは画面の参照やキーボード/マウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を専有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にアイコンが表示されます。

(表は次のページに続きます)

ボタン	動作
	<p>キーボード/マウスの専有/開放を行います。複数のユーザーがログインしている時に、このボタンを使ってキーボードとマウスの操作を専有することができます。あるユーザーがこれらを専有すると、他のユーザーは画面の参照はできますが、キーボード/マウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を専有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にアイコンが表示されます。</p>
	<p>ユーザーリストを表示/非表示にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが閉じます。また、ユーザーリストが開いている場合、このボタンは網がけされた状態になります。</p>

### メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに送信したメッセージやシステムメッセージはパネルに表示されますが、チャット機能を無効にしている場合は、メッセージが送信されてもメッセージボード上には何も表示されません。

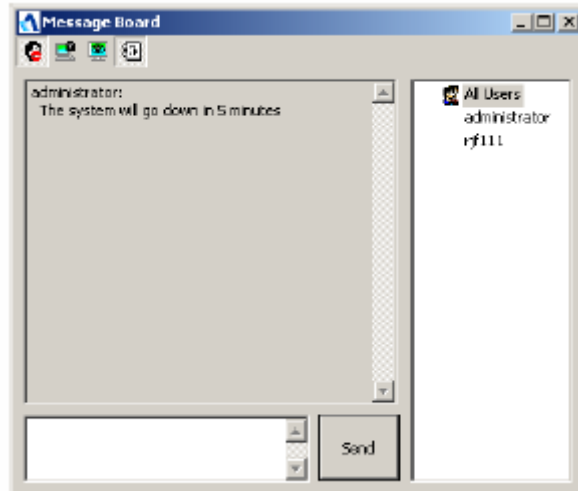
### メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「Send」ボタンをクリック、または[Enter]キーを押すとメッセージがメッセージボードに送信されます。

### ユーザーリストパネル

ログイン中の全ユーザーの名前がこのパネルに表示されます。

- ◆ デフォルトの設定では、メッセージはすべてのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを専有している場合、デバイスを専有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。



## Soft Keyboard (オンスクリーンキーボード)

本製品は、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。上のアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードが起動します。



オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、リモート側とローカル側のキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動し、アクセス中のポートに接続されているコンピューターで使用されている言語を選択するだけでオンスクリーンキーボードの利用が可能です。

---

**注意:** オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。

---

## 言語の変更

言語を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



2. 新しい言語をリストから選択してください。

## Main タブ

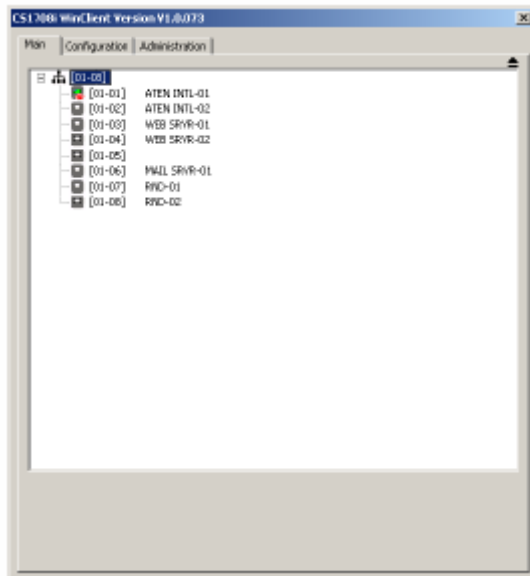
---

このタブでは CS1708i/CS1716i の全ポートの一覧表示とポートアクセスの管理を行います。対象となるポートを選択しダブルクリックすることでそのポートに切り替えることができます。

---

**注意:** アドミニストレータは「User Management」(ユーザーマネージメント)メニューにおいて、各ユーザーがアクセスできるポートを設定することができます。(詳細については p.119 を参照)

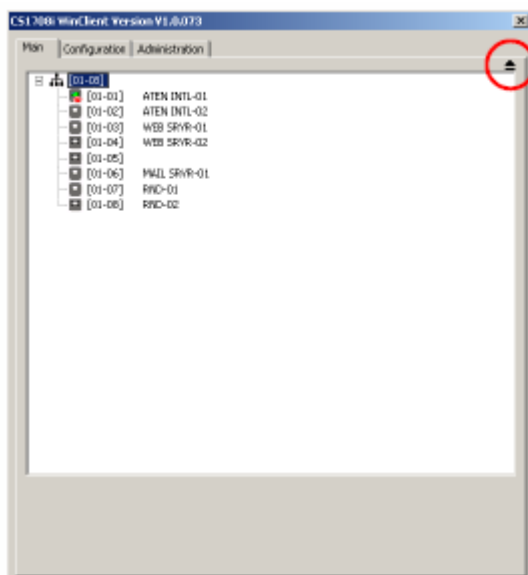
---



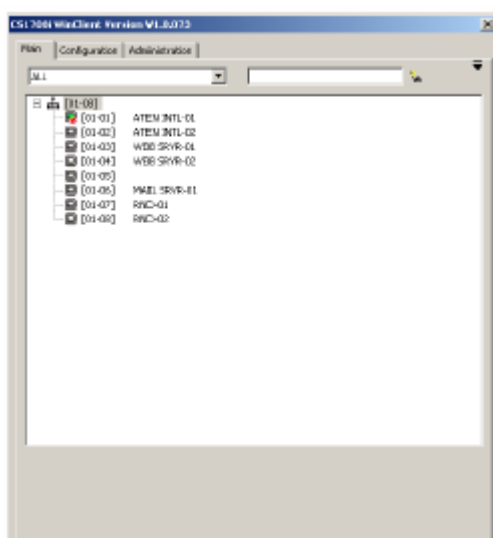
- ◆ OSD ではコンピューターがツリー形式で表示されます。ツリーを展開し、特定のステーションにおけるポートを参照する場合は、ステーション番号の前に表示されている[+]印をクリックしてください。また、ツリーを閉じる場合はステーション番号の前に表示されている[-]印をクリックしてください。
- ◆ モニターの形をしたポートアイコンはポート番号の前に表示されます。ポートに接続されたコンピューターに電源が入っている場合は、そのポートアイコンのモニター部分が緑色に点灯します。
- ◆ クイックビューポート(p.52「SET QUICK VIEW PORTS」、p.127「I/O Panel」参照)として選択されているポートはポートアイコンのモニター部分に赤い目のアイコンが表示されます。

## リスト機能

リスト機能によって Main タブに表示するポートの範囲を拡大/縮小することができます。リスト機能を有効にする場合は、ダイアログ右上にある三角ボタンを押すか、[F3]キーをクリックしてください。



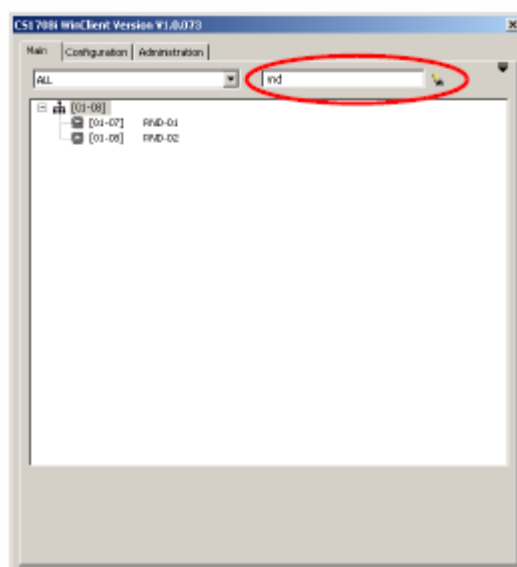
このボタンをクリックすると画面が切り替わり、一覧に表示されたポートが選択できるようになります。



左側のドロップダウンリストからは下表の項目を選択することができます。

項目	内容
All	設置されているポート全てをリストアップします。
Powered On	接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートをリストアップします。
Quick View	クイックビューポートとして選択されたポート(p.52「SET QUICK VIEW PORTS」、p.127「I/O Panel」参照)をリストアップします。
Quick View + Powered On	クイックビューポートとして選択され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートをリストアップします。

右上にあるテキストボックスには、ポートネームでポートを検索する際の条件を入力することができます。下図は検索の一例です。



- ◆ デフォルトのリスト表示に戻す場合は、テキストボックスから文字列を削除し、テキストボックスの横にある双眼鏡のアイコンをクリックするか、[Enter]キーを押してください。
- ◆ リスト機能を非表示にする場合は黒色の三角ボタンをクリックするか、[F3]キーを押してください。

## ポートネーム

ポートに接続されているコンピューターの管理を容易にするために、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレータはこのフィールドを使ってポートネームの作成・編集・削除を行うことができます。ポートネームを設定する場合は以下の手順で操作してください。

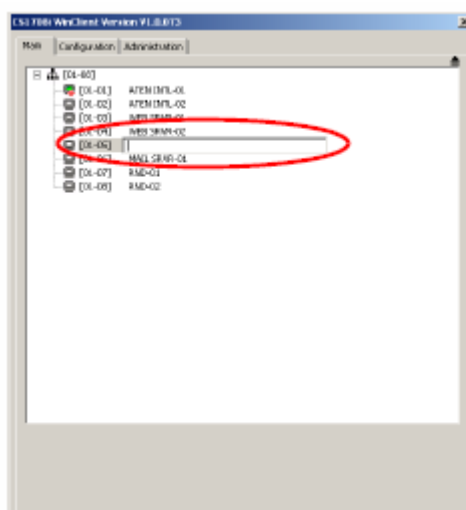
1. 編集したいポートをクリックし、[F2]キーを押すか、ハイライトバーをもう一度クリックします。

---

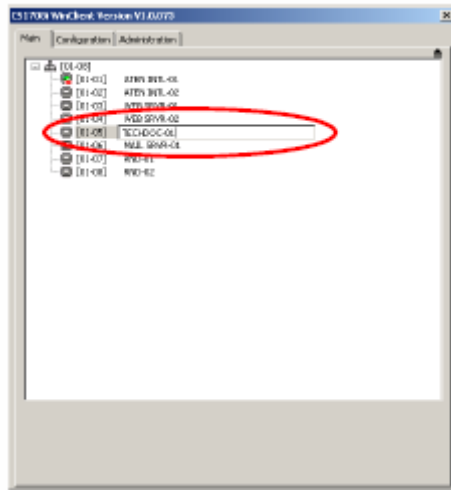
**注意:** この操作は、1回目にクリックして、間を開けてから2回目のクリックを行いますので、いわゆるダブルクリックとは異なります。選択されたポートをダブルクリックすると、選択されたポートにアクセスします。

---

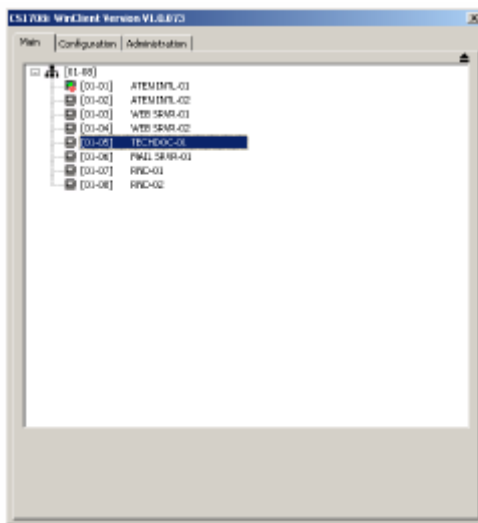
1～2秒すると、ポートネームの表示欄がテキストボックスに変わり、編集が可能になります。



2. このテキストボックスを使って、ポート名の作成、編集、または削除を行います。



3. ポート名を編集し終わったら、テキストボックス以外の場所をクリックして、操作を完了してください。



## ポート操作

ポートが OSD メニューで選択されると、リモート側のモニターにはローカルシステムの画面が表示され、リモートコンソールからの入力はローカルシステムへ送られます。

---

**注意:**            アドミニストレータは「User Management(ユーザーマネージメント)メニュー」機能を用いて各ユーザーがアクセスできるポートを設定することができます。(p.119 参照)

---

## ポートツールバー

ポート操作を簡単にするため、CS1708i/CS1716i ではツールバーを提供しています。ツールバーを呼び出すには、OSD ホットキー操作を行います(デフォルトは[Scroll Lock]キー2度押し)。ツールバーは画面の左上部に表示されます。



- ◆ お使いの CS1708i/CS1716i の「ID Display」の設定 (p.116「Configuration(設定)タブ」参照) に応じて、ポートナンバー、ポートネーム、またはその両方がツールバーの右端に表示されます。
- ◆ ツールバーが表示されている間、マウスからの入力はツールバーの操作に対してのみ有効です。
- ◆ ツールバーが表示されている間、キーボードからの入力はすべて無効となります。キーボードからの入力を有効にする場合は、ツールバー内の「X」ボタンをクリックするか[Esc]キーをクリックしてツールバーを終了してください。GUIを呼び出して、ポートを再選択することが可能です。

## GUI の再呼出

ツールバーを閉じて GUI 画面 (Main、Configuration(設定)、Administration(管理)各タブ) に戻る場合は以下のいずれかの操作を行ってください。

- ◆ GUI ホットキーを 1 回押す。
- ◆ ツールバーから、GUI を起動するアイコンをクリックする。(p.113 参照)

この操作によってツールバーが画面から消えて、メインの GUI 画面が表示されます。



## ホットキー一覧表

下記の表は GUI ホットキー操作の一覧です。p.117 の「OSD/GUI Hotkey」の内容を参照し、OSD ホットキーを設定してください。




動作	ケース	操作
ツールバーを開く	ツールバーが開いていないとき	GUI ホットキーを 2 回クリックします。
GUI 画面を開く	ツールバーが開いているとき	GUI ホットキーを 1 回クリックします。
GUI 画面を開く	ツールバーが開いていないとき	GUI ホットキーを 3 回クリックします。

## ツールバーアイコン

ツールバーの各アイコンの説明は以下の表をご参照ください。

アイコン	機能
	前のステーションの最後のポートに直接切り替えます。
	次のステーションの最初のポートに直接切り替えます。
	現在の機器構成における最初にアクセスできるポートに直接切り替えます。
	現在のポートの一つ前にアクセス可能なポートに直接切り替えます。
	オートスキャンモードを開始します。CS1708i/CS1716i は「Configuration」(設定)タブの「Scan Select」(p.117 参照)の項目でオートスキャンに設定されたポートを自動的に切り替えるようになります。この機能により、手動でポートを切り替える操作をしなくてもコンピューターの状態を順次監視することができます。
	現在のポートの次にアクセス可能なポートに直接切り替えます。
	現在の機器構成における最後にアクセス可能なポートに直接切り替えます。
	GUI を呼び出します。

(表は次のページに続きます)

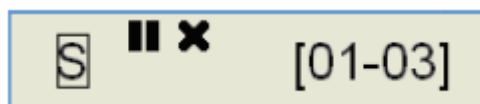
アイコン	機能
	パネルアレイモード(p.115 参照)を起動します。
	ポートツールバーを閉じます。
	ログアウトしてセッションを終了します。

## オートスキャンモード




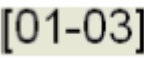
オートスキャンが起動していると、CS1708i/CS1716i は現在ログインしているユーザーがアクセスできるすべてのポートを一定の時間間隔で自動的に切り替えます。これによって、ユーザーはポートの切替操作を手動で行うことなく、各コンピューターの動作状況を自動的に切り替えて確認することができます。(アクセス可能ポートについては p.117「Scan Select」参照)

オートスキャンモードが有効になっていると、通常のキーボード・マウスの機能はサスペンドされます。通常のキーボード・マウスの操作を行いたい場合は、オートスキャンモードを終了してください。

オートスキャンモードでは、ツールバーが下図のように表示されます。



ツールバーの各マークが意味する内容は下表のとおりです。

マーク	意味
	ポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを表します。
	この部分をクリックするとオートスキャンを一時停止します。オートスキャンが一時停止すると、このアイコンは矢印マークに変わります。現在一次指定しているところからスキャンを再開したい場合は、矢印マークをクリックしてください。
	この部分をクリックするとオートスキャンモードを終了します。オートスキャンモードが終了した時に選択していたポートをそのまま表示します。
	現在選択されているポートのポートID ([ステーションナンバー - ポートナンバー])を表示します。

## パネルアレイモード

ポートツールバーのパネルアイコンをクリックするとパネルアレイモードを起動します。このモードでは、画面を下図のようにパネルを格子状に分割します。



- ◆ 各パネルは CS1708i/CS1716i の KVM ポートを表しています。各ポートのポート ID はパネルの上部中央に表示されます。
- ◆ パネルアレイモードが起動すると、電源が入っているポートを 4 秒間隔でスキャンします。

画面右下に表示されるパネルアレイツールバーは、各パネルへのショートカット操作やパネルの管理を行うことができます。各項目の詳細は以下のとおりです。

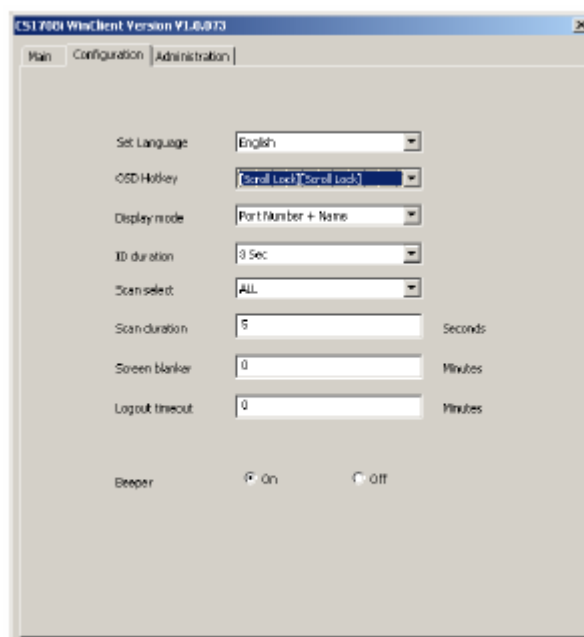
アイコン	機能
	4 つ前のポートへ移動します。
	前のポートへ移動します。
	現在表示されているポートを選択したままスキャンを一時停止します。
	次のポートへ移動します。
	4 つ先のポートへ移動します。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
+	アレイのパネル数を増やして、表示ポートを増やします。
-	アレイのパネル数を減らして、表示ポートを減らします。
4/3	画面を 4:3 比率に固定します。
X	パネルアレイモードを終了します。

## Configuration (設定) タブ

GUI の「Configuration」(設定)タブではユーザー別に作業環境を定義することができます。CS1708i/CS1716i は各ユーザーのプロフィールを個別に保存し、ログインに使われたユーザーネームに基づいて作業環境をセットアップします。



「Configuration」(設定)タブの設定については次のページの表で説明します。

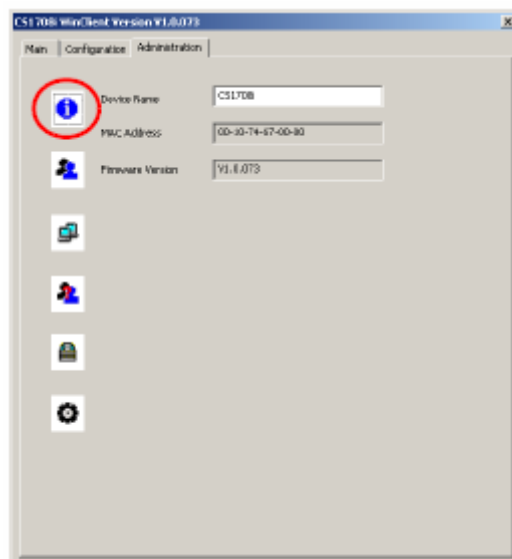
設定	機能
Language (言語設定)	GUI で表示する言語を選択します。対応言語のリストからお使いの環境に適したものを選択してください。
OSD/GUI Hotkey (OSD ホットキー)	GUI 機能を操作するホットキーを設定します。 <b>[Scroll Lock]</b> <b>[Scroll Lock]</b> または <b>[Ctrl]</b> <b>[Ctrl]</b> を設定することが可能です。 [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キー 2 度押しになっています。
Display Mode (ディスプレイモード)	ポートID 表示方法を選択します。ポート番号のみ ( <b>PORT NUMBER</b> )、ポートネームのみ ( <b>PORT NAME</b> )、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ ( <b>PORT NUMBER + PORT NAME</b> ) があります。デフォルトは、ポート番号とポートネームの組み合わせ ( <b>PORT NUMBER + PORT NAME</b> ) です。
ID Duration (ID 間隔)	ポート切替が行われた後、画面にポートID を表示する時間を設定します。 <b>3 秒</b> (デフォルト)、 <b>Always Off</b> のいずれかを選択してください。
Scan Select (スキャン選択)	オートスキャンモード (p.114「オートスキャンモード」参照) で、アクセスするコンピューターを選択します。設定は以下のとおりです。  <b>ALL</b> - アクセスできるすべてのポート (p.121 参照) <b>POWERED ON</b> - アクセス可能かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ <b>QUICK VIEW (クイックビュー)</b> - アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (p.52 参照) のみ <b>QUICK VIEW + POWERED ON</b> - アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ  デフォルトは ALL です。
Scan Duration (スキャン間隔)	オートスキャンモード (p.114 参照) で選択された各ポートを何秒間ずつ表示するかを設定します。0~255 秒までの数値を入力してください。デフォルトは 10 秒間です。0 秒で設定するとスキャン機能を使用不可にします。  <b>注意:</b> リモートコンソールからオートスキャンを使用する場合は、信号の遅延を補正するために 5 秒以上の値を設定してください。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
Screen Blanker (スクリーンブランカー)	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面は空白になります。0～30 分の時間を入力してください。0 分で設定するとこの機能を無効にします。デフォルトは 0(無効)です。
Logout Timeout (ログアウトタイムアウト)	現在ログインしているユーザーが、ここで設定された一定の時間、何も入力を行わなかった場合、そのユーザーは自動的にログアウトさせられます。この場合、CS1708i/CS1716i にアクセスするには再ログインが必要です。0～180 分の値を設定してください。デフォルトは 30 分です。0 分で設定するとこの機能を無効にします。
Beeper (ビープ音)	ビープ音の設定を行います。ON が設定されると、ポートが変更された時、オートスキャン機能(p.114 参照)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力がされた時にそれぞれビープ音が鳴ります。デフォルトでは ON に設定されています。

## Administration (管理) タブ

各管理機能は、このタブページの左側にそれぞれアイコン表示されます。このアイコンをクリックすると関連するダイアログが表示されます。「Administration」(管理)タブの初期表示時には、下図のように「General」(一般的な情報)メニューが表示されます。



**注意:** 管理者権限のないユーザーはこの画面のメニューを使用できません。

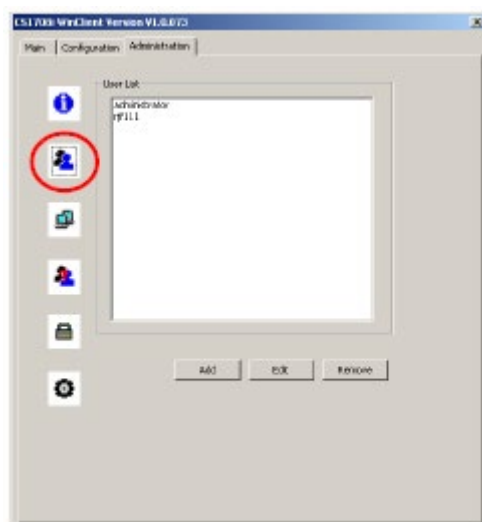
## General(一般的な情報)メニュー

「General」(一般的な情報)メニューでは3つの項目を管理していますが、これはWebブラウザでログインした直後に表示されるもの、またはブラウザのメイン画面の左上にある「General」(一般的な情報)アイコンをクリックしたときに表示されるものと同じです。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	用途
Device Name (デバイスネーム)	複数 KVM スイッチの使用時にコンピューターの管理を容易にするために、各スイッチに名前をつけることができます。名前を入力する場合はこの欄をクリックしてください。
MAC Address (MAC アドレス)	CS1708i/CS1716i の MAC アドレスがこの欄に表示されます。
Firmware Ver (ファームウェアバージョン)	CS1708i/CS1716i に現在インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。新しいバージョンのファームウェアをダウンロードする場合には、バージョン情報を確認することができます。

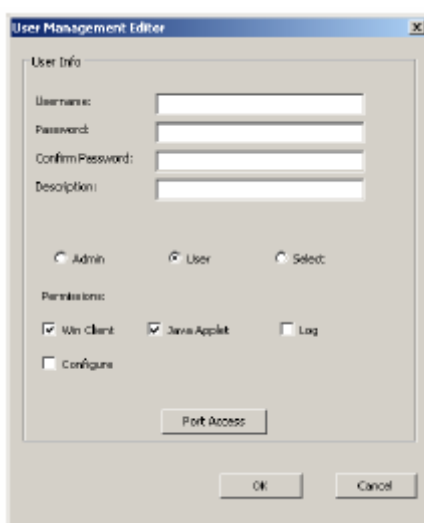
## User Management (ユーザーマネージメント)

「User Management」(ユーザーマネージメント)メニューではユーザープロフィールの作成・管理を行います。CS1708i/CS1716i は最大 64 ユーザーのプロフィールの作成が可能で、最大 32 ユーザーが同時にログインすることができます。



- ◆ ユーザーを削除する場合は、リストから削除対象となるユーザーを選択し、「**Remove**」(削除)ボタンを押します。
- ◆ ユーザー情報を変更する場合は、リストから変更対象となるユーザーを選択し、「**Edit**」(編集)ボタンを押します。
- ◆ ユーザーを追加する場合は、「**New**」(追加)ボタンを押します。

「Edit」(編集)ボタン、または「New」(追加)ボタンを押すと、下図のようなダイアログが表示されます。

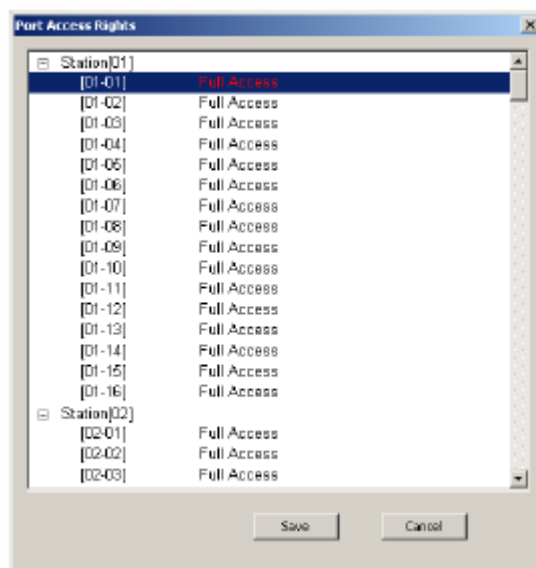


The image shows a dialog box titled "User Management Editor". It has a "User Info" section with four text input fields: "Username:", "Password:", "Confirm Password:", and "Description:". Below these fields are three radio buttons labeled "Admin", "User", and "Select". Underneath the radio buttons is a "Permissions:" section with four checkboxes: "Win Client" (checked), "Java Applet" (checked), "Log" (unchecked), and "Configure" (unchecked). A "Port Access" button is positioned below the checkboxes. At the bottom of the dialog are "OK" and "Cancel" buttons.

「Port Access」(ポートアクセス)ボタンを除いて、このダイアログにある各項目はp.87に記載されているものと同じですので、詳細はそちらをご参照ください。

## Port Access (ポートアクセス)

「Port Access」(ポートアクセス)ボタンをクリックすると、アドミニストレータまたは管理者権限を持ったユーザーが、特定のユーザーがアクセスできるコンピューターをポートごとに設定することができます。



---

**注意:** リストが折りたたまれている時に、ステーションの前にある[+]をクリックするとリストを展開し、ポートを表示します。

---

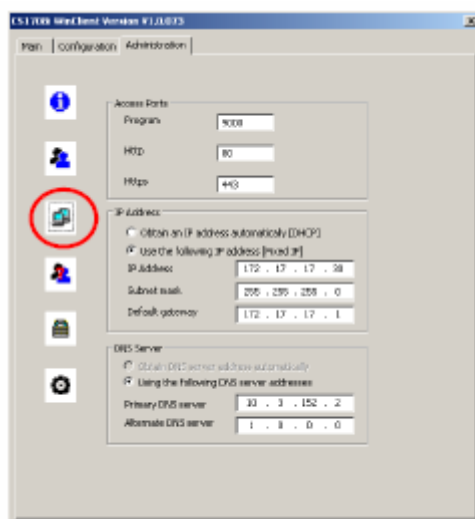
項目	説明
Full (フルアクセス)	ユーザーはリモートサーバー画面の参照、またリモートサーバー上でのキーボード・マウス操作がそれぞれ可能です。
View Only (モニタリングのみ)	ユーザーはリモートサーバー画面の参照は可能ですが、操作をすることはできません。
No Access (アクセス権限がありません)	アクセス権限がありません。ポートはこのユーザーのメイン画面のポート一覧に表示されません。

デフォルトでは、全ユーザーが全ポートに対して Full (フルアクセス) に設定されています。このアクセス権限は下記の方法で変更することができます。

- ◆ 設定内容を順番に切り替える場合は、アクセス権限を直接クリックしてください。
- ◆ 前の設定内容に切り替える場合は、ハイライトバーを該当ポートに移動させて[+]キーを押してください。
- ◆ 次の設定内容に切り替える場合は、ハイライトバーを該当ポートに移動させて[-]キーを押してください。
- ◆ ステーション上の全ポートの設定内容を同時に切り替える場合は、[Shift]キーを押しながら任意のポートをクリックしてください。
- ◆ ステーション上の全ポートを同時に前の内容に切り替える場合は、[Shift]キーを押したままにして[+]キーを押してください。
- ◆ ステーション上の全ポートを同時に次の内容に切り替える場合は、[Shift]キーを押したままにして[-]キーを押してください。
  
- ◆ 設定が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
- ◆ 設定を中止し、保存しないで終了する場合は「**Cancel**」ボタンをクリックしてください。

## Network (ネットワーク)

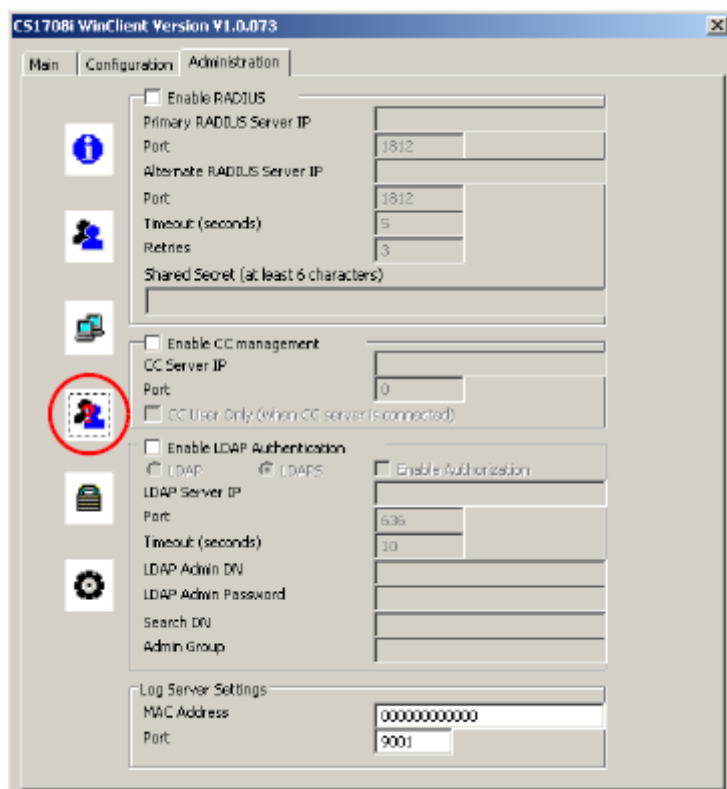
「Network」(ネットワーク)メニューでは、CS1708i/CS1716i のアクセスポートとネットワーク環境に関する項目を設定することができます。



このダイアログにある各項目は p.74 の「Network (ネットワーク)」に記載されているものと同じです。詳細はそちらをご参照ください。

## ANMS

「ANMS」メニューでは、ユーザーの外部認証に関する管理を行うことができます。



このダイアログにある各項目は p.81 の「ANMS」に記載されているものと同じですので、詳細はそちらをご参照ください。

## Security (セキュリティ)

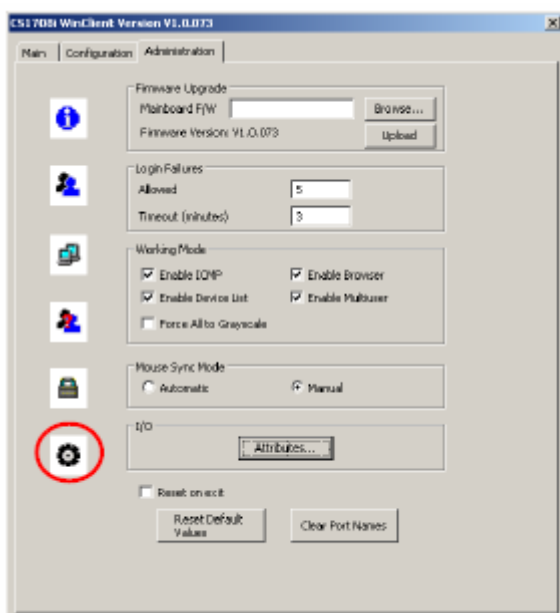
このメニューでは CS1708i/CS1716i へのアクセスの制御を行います。



このダイアログにある各項目は p.77 の「Security」(セキュリティ)に記載されているものと同じです。詳細はそちらをご参照ください。

## Customization (カスタマイズ)

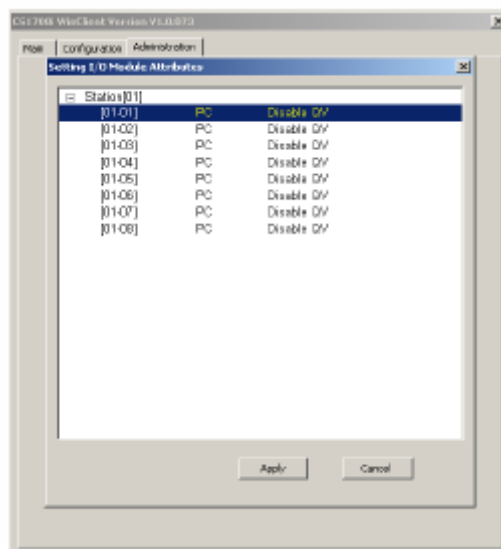
「Customization」(カスタマイズ)メニューでは管理者が CS1708i/CS1716i の様々な操作パラメーターを設定することができます。



- ◆ 「Firmware Upgrade」(ファームウェアアップグレード)パネルにある各項目は p.93 の「Maintenance (メンテナンス)」に記載されているものと同じです。詳細はこちらをご参照ください。
- ◆ 「Login Failures」(ログイン失敗)、「Working Mode」(動作モード)、「Mouse Sync Mode」(マウスシンクモード)の各パネルにある項目は p.89 の「Customization (カスタマイズ)」に記載されているものと同じです。詳細はこちらをご参照ください。
- ◆ 「Reset on exit」(ログアウトしてリセットする)、「Restore Default Values」(デフォルト値にリセットする)、「Clear Port Names」(ポートネームのクリア)の各パネルにある項目は p.92 の「Reset (リセット)」に記載されているものと同じです。詳細はこちらをご参照ください。

## I/O Panel

I/O パネルの「Attributes」(属性)ボタンをクリックすると、各ポートの属性パラメーターを設定できるダイアログが表示されます。



ポートは左側の列に一覧表示されます。ポートの属性はその右側に表示されます。

- ◆ ポートナンバーの一番右側にある列は、ポートに接続されているコンピューターが使用しているプラットフォームを表します。これは、PC、Mac1、Sun、Mac2 の中から選択できます。デフォルトでは PC に設定されています。
- ◆ 次の列ではポートのクイックビューのステータスを設定します (p.52 参照)。デフォルトではクイックビュー無効に設定されています。
- ◆ 属性を変更する場合は下記の方法で操作してください。
  - 選択内容を切り替える場合は、該当項目をクリックしてください。
  - 選択内容は、カーソルキーで該当項目まで移動し[+]キーまたは[-]キーを押すことでも切り替えることができます。また、ステーション上の全ポートの属性の選択項目を同時に切り替えたい場合は、[Shift]キーを押したままにして[+]キーまたは[-]キーを押してください。

# 第8章

## Java クライアントビューワー

### 起動方法

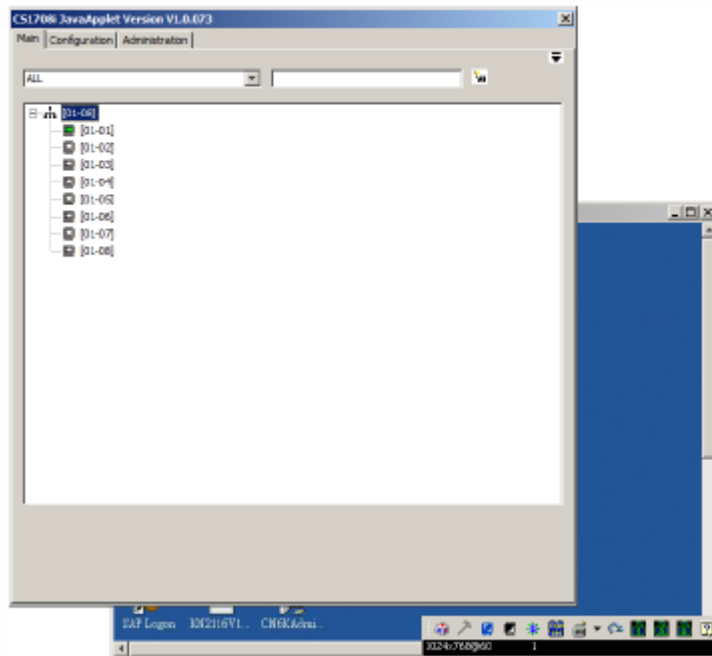
Java クライアントビューワーは、Java Runtime Environment (JRE) がインストールされているプラットフォームであれば、どのようなコンピューターからでもお使いいただけます。(JRE の対応バージョンについては p.20 参照) JRE は無料ダウンロードで利用できます。(http://java.com)

Java クライアントビューワーを起動する場合は、ログイン(p.67 参照)した後で、画面左側にある「Open Java Applet」(Java クライアントの起動)アイコンをクリックしてください。



**注意:** Windows クライアントビューワーは Microsoft Internet Explorer (IE) を使ってログインした時にのみご利用いただけます。

このアイコンをクリックしてから数秒経つと、Java クライアントビューワー経由で CS1708i/CS1716i に接続します。



画面中央に「Main」画面が、右下にコントロールパネルがそれぞれ表示された状態で CS1708i/CS1716i の GUI が表示されます。この GUI は、「Main」、「Configuration」(設定)、「Administration」(管理)の3つのメニューから構成されています。「Main」メニューはポートの切替やそのポートに接続されているサーバへのアクセスに使う画面です。

- 
- 注意:**
1. 別のユーザーが GUI を使っている場合には、この GUI は表示されず、他のユーザーによって使用されているという内容のメッセージが表示されます。操作したい場合は、別のユーザーが操作を終えるまでお待ちください。
  2. 管理者権限のないユーザーは「Administration」(管理)メニューを使用できません。
  3. GUIのメイン画面で選択されたポートに接続されているサーバがGUIの後ろに表示されているように見える場合がありますが、これだけでは操作をすることはできません。GUIでこのポートにアクセスしてはじめて操作することができます。
-

ポートに切り替えると、ローカルシステムのようにモニターの画面表示でリモートシステムを操作することができます。

- ◆ このウィンドウは最大化したり、枠をドラッグしてリサイズしたり、スクロールバーを使ってスクロールしたりすることができます。
- ◆ ローカルとリモートのプログラムは[Alt] + [Tab]キーで切り替えることができます。

## 操作方法

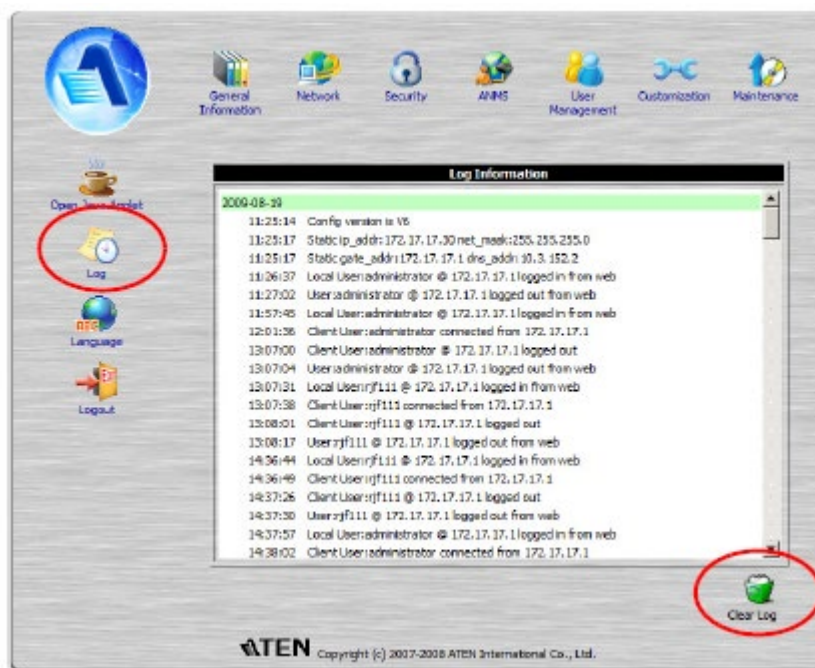
---

Java クライアントビューワーの特長や機能は Windows クライアントビューワーと同じです。詳細については第 7 章をご参照ください。

# 第9章 ログファイル

## ログファイル画面

CS1708i/CS1716i は、機器で発生したイベントをログとして記録します。リセットを行うと、イベントをログファイルに書き込み、検索可能なデータベースを作成します。ログファイルの内容を確認する場合は、画面左側にある「Log」(ログ)アイコンをクリックしてください。このアイコンをクリックすると下図のような画面が表示されます。



ログファイルには最大 512 項目のイベントを管理することができます。新しいイベントが記録されると、一覧の下に追加されます。ログファイルに 512 項目追加されている状態で新しいイベントが発生すると、一番古いイベントが削除されます。

---

**注意:** 直近の 512 のイベントだけでなく発生したすべてのイベントのレコードを保存・参照したい場合は、ログサーバープログラムをセットアップしてください。(p.133「ログサーバー」参照)

---

ログファイルをクリアする場合は、画面右下の「Clear Log」(ログ削除)アイコンをクリックしてください。

# 第10章

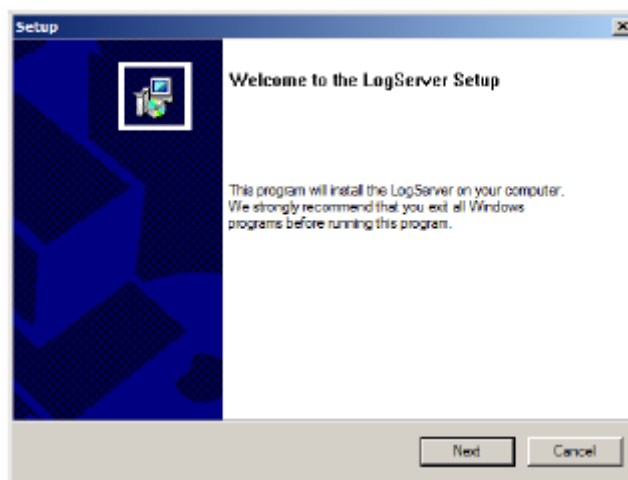
## ログサーバー

ログサーバーは、指定された CS1708i/CS1716i で発生した全イベントを記録し、そのログをデータベース化してユーザーに提供する、Windows ベースの管理ツールです。本章では、ログサーバーのインストールおよび設定方法について説明します。

### セットアップ

---

1. Windows を起動し、製品付属のソフトウェア CD をこのコンピューターの CD (DVD) ドライブに挿入してください。
2. CD 内の「Log Server AP Installer」フォルダーまで移動してください。
3. 「LogServerSetup.exe」をダブルクリックして実行し、インストールを行ってください。

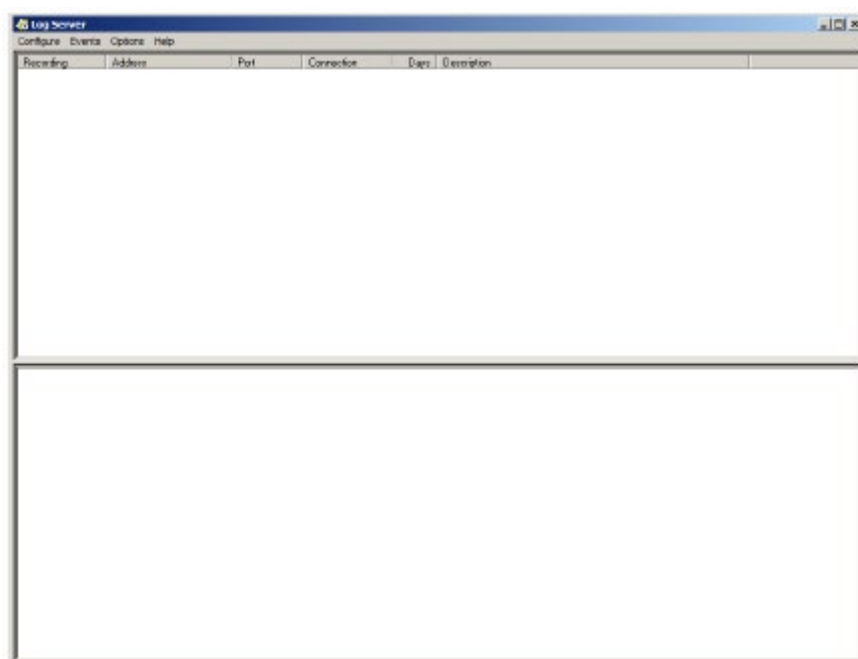


4. 「Next」ボタンをクリックし、画面内の指示に従ってインストールを進めてください。また、インストールが完了したら、ショートカットアイコンをデスクトップ等使いやすいところに置いてください。

## 起動方法

---

ログサーバーのメイン画面を表示するには、「Log Server」アイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムが起動すると以下のような画面が表示されます。



- 
- 注意:**
1. ログサーバーとして使用するコンピューターの MAC アドレスは「ANMS」メニューで設定しておく必要があります。(p.86 参照)
  2. ログサーバープログラムはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。
- 

画面は以下の 3 つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部メニューバー
- ◆ メニューバー下部の CS1708i/CS1716i リストパネル(詳細は p.140 参照)
- ◆ 最下部のイベントリストパネル

各コンポーネントの詳細に関しては後述しますので、そちらをご参照ください。

## メニューバー

ログサーバーのメニューバーは以下の項目から構成されています。

- ◆ Configure
- ◆ Events
- ◆ Options
- ◆ Help

各項目の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

---

**注意:**     メニューバーが無効に見える場合は、CS1708i/CS1716i の一覧表示パネルをクリックし、ウィンドウをアクティブにしてください。

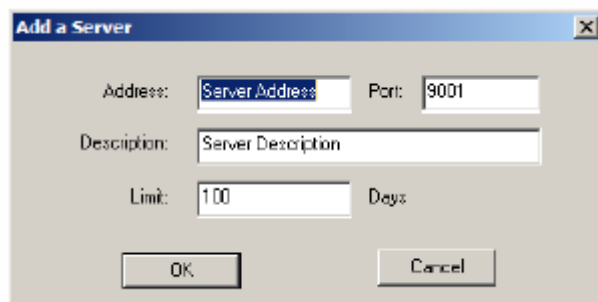
---

## Configure

「Configure」メニューには「Add」、「Edit」、「Delete」の 3 つのサブメニューが存在します。「Add」メニューでは CS1708i/CS1716i ユニットの一覧への新規追加を、「Edit」メニューではリストに登録されたユニット情報の編集を、また、「Delete」メニューでは一覧からのユニットの削除をそれぞれ行います。

- ◆ CS1708i/CS1716i ユニットを一覧に新たに追加する場合は、「Add」メニューをクリックしてください。
- ◆ リストから CS1708i/CS1716i のユニットを編集したり削除したりする場合は、リストから対象となる項目を選択し、この「Configure」メニューから「Edit」または「Delete」メニューをクリックしてください。

「Add」または「Edit」メニューをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Add a Server". It has a standard Windows-style title bar with a close button (X). The dialog contains the following fields and controls:

- Address:** A text input field containing "Server Address".
- Port:** A text input field containing "9001".
- Description:** A text input field containing "Server Description".
- Limit:** A text input field containing "100".
- Days:** A text input field that is currently empty.
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons are located at the bottom of the dialog.

ダイアログ内の各項目に関する詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Address	CS1708i/CS1716iのIPアドレスまたはDNS名 (DNS名が設定されている場合) を入力してください。「ANMS」設定で CS1708i/CS1716i に設定された値を入力してください。(p.81「ANMS」参照)
Port	「ANMS」設定でCS1708i/CS1716iに割り当てられたポート番号を入力してください。(p.81「ANMS」参照)
Description	CS1708i/CS1716i に関する追加情報があれば、このフィールドに入力することができます。
Limit	ログサーバデータベースにおけるイベントログ保存日数を表します。

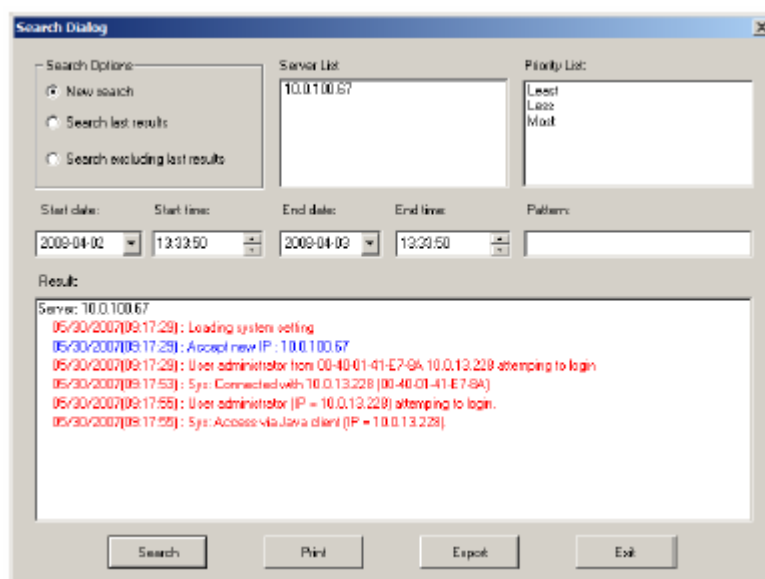
フィールドへの記入・編集が完了したら「OK」ボタンを押してください。

## Events

「Events」メニューは「Search」と「Maintenance」の2つのサブメニューから構成されています。

### Search

「Search」メニューでは、特定のキーワードを含むイベントログを検索することができます。このメニューを起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



ダイアログ内における各項目に関する詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Search Options	検索の対象となるデータの種別を以下のラジオボタンから選択します。
New search	このラジオボタンが選択されると、選択された CS1708i/CS1716i で発生したすべてのイベントを対象にして検索を行います。
Search last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果を対象に検索を行います。
Search excluding last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果以外を対象にして検索を行います。
Server List	CS1708i/CS1716i が IP アドレス順に一覧表示されます。ログの検索を行いたい CS1708i/CS1716i をリストから選択してください。(複数選択可)このリストから何も選択されていない場合は、すべての CS1708i/CS1716i のログを対象に検索を行います。
Priority List	検索結果の表示レベルを設定します。1 を指定すると全体的な情報が、また、3 を指定すると特定した情報がそれぞれ表示されます。
Start Date	検索対象となるログの起点となる日付をカレンダーコントロールから選択、もしくはリストボックスに「YYYY/MM/DD」の形式で直接入力してください。
Start Time	検索対象となるログの起点となる時刻をリストの上下ボタンで調節、もしくはリストボックス「HH:MM:SS」の形式で直接入力してください。
End Date	検索対象となるログのタイムスタンプの終点となる日付を入力してください。設定方法は表の「Start Date」と同様です。
End Time	検索対象となるログのタイムスタンプの終点となる時刻を入力してください。設定方法は表の「Start Time」と同様です。

(表は次のページに続きます)

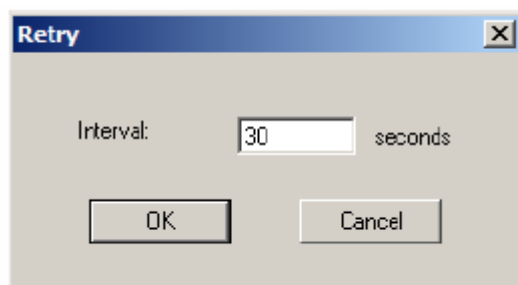
項目	説明
Pattern	パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(*)を使用することも可能です。  例) h*ds という検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。
Result	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
Search	入力された条件で検索を行います。
Print	検索結果を印刷します。
Export	検索結果をテキストファイル(.txt)にエクスポートします。
Exit	このダイアログボックスを終了します。

## Maintenance

この機能によってアドミニストレータはデータベースの手動メンテナンスを行うことができます。「Edit」機能における「Limit」の項目によって設定された期限を過ぎるとイベントログは自動的に削除されますが、この機能を使うことによって、保存期間内のログであってもメンテナンスすることが可能です。(p.136 参照)

## Options

このメニューでは、接続失敗による再試行までの待機時間(秒)を設定します。メニューをクリックすると、以下のような「Retry」ダイアログが表示されます。



待機秒数を入力したら、「OK」ボタンを押してください。

## Help

このメニューのサブメニューである「Contents」をクリックすると、ログサーバーのオンラインヘルプが起動します。このオンラインヘルプにはログサーバーのセットアップ・操作方法、またトラブルシューティングが記載されています。

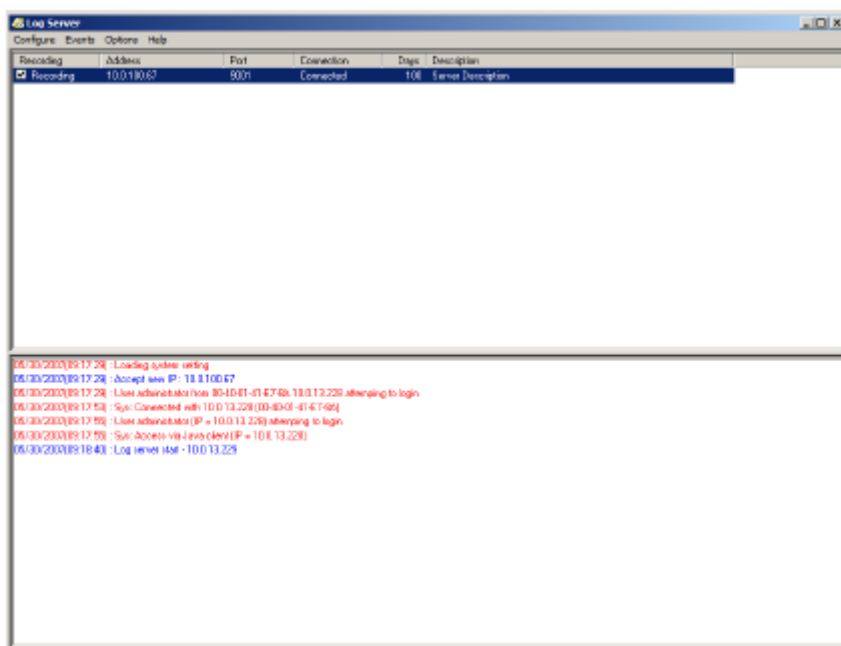
## ログサーバーメイン画面

---

### 概要

ログサーバーのメイン画面は2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、現在、ログ取得の対象となっている CS1708i/CS1716i の一覧が表示されます。(p.135「Configure」参照)
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在リストパネルで選択されている CS1708i/CS1716i のイベントログが表示されます。別の CS1708i/CS1716i のイベントログを参照する場合は、リストパネルから対象となる CS1708i/CS1716i を選択します。



## リストパネル

CS1708i/CS1716i リストパネルの各項目の詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
Recording	<p>ログサーバーがこのリストに表示されている CS1708i/CS1716i のログを記録するかどうかを設定します。項目にチェックを入れると、この欄に「Recording」と表示され、ログの記録を行います。項目からチェックをはずすと、この欄に「Paused」と表示され、ログの記録は行いません。</p> <p><b>注意:</b>このリストに表示されている CS1708i/CS1716i は選択状態にかかわらず、チェックがついていればログサーバーはそのユニットのログを記録します。</p>
Address	CS1708i/CS1716i がログサーバーに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です。(p.135「Configure」参照)
Port	CS1708i/CS1716i が通信に使用するポート番号です。(p.135「Configure」参照)
Connection	<p>ログサーバーが CS1708i/CS1716i に接続している場合、このフィールドには「Connected」と表示されます。</p> <p>また、CS1708i/CS1716i に接続していない場合には、このフィールドに「Waiting」と表示されます。これはログサーバーの MAC アドレスやポートナンバーが正しく設定されていないことを表していますので、「ANMS」メニュー (p.81 参照) や「Configure」メニュー (p.135 参照) で正しい内容に設定してください。</p>
Days	CS1708i/CS1716i のイベントをログサーバーに保管する日数を表します。(p.135「Configure」参照)
Description	ログサーバー登録時に設定された CS1708i/CS1716i に関する追加情報です。(p.135「Configure」参照)

## イベントパネル

このパネルには、リストパネルで選択された CS1708i/CS1716i のイベントログが表示されます。リストパネルで選択されていない項目のログはイベントリストパネルには表示されませんが、リストパネルでチェックが入っていれば、そのユニットのログはログサーバーのデータベースに登録されます。

# 第 11 章

## アプリケーションの操作

### 概要

---

CS1708i/CS1716i にブラウザからのアクセスを制限したい場合でも、CS1708i/CS1716i に直接アクセスできるように、アプリケーション版の Windows クライアントや Java クライアントを提供しております。

これらのプログラムは、最初に付属のソフトウェア CD からインストールする必要があります。このソフトウェアをユーザーに使用させることによって、管理者は CS1708i/CS1716i への Web ブラウザ経由でのアクセスを制限することが可能です。(p.90「Working Mode (動作モード)」参照)

### Windows クライアント

---

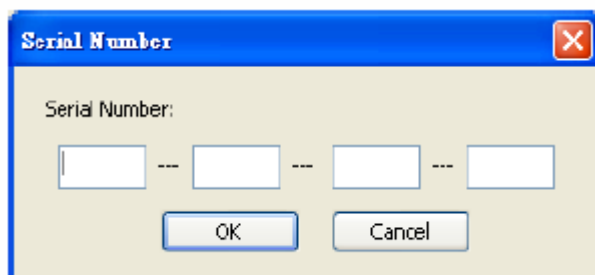
#### セットアップ

Windows クライアントをお使いのコンピューターにインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

1. 製品付属のソフトウェア CD に収録されている「WinClient.exe」を起動してください。
2. セットアップダイアログ内の指示に従って操作してください。
3. セットアップが完了すると、「CS1708i」または「CS1716i」のアイコンがデスクトップ上に作成され、Windows スタートメニューのプログラムにエントリーが追加されます。  
(例: スタート → すべてのプログラム → CS1716i → CS1716i)

## 起動方法

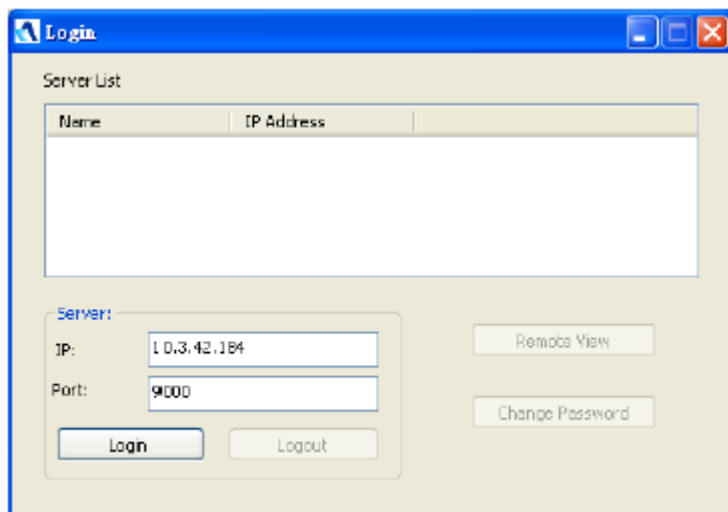
CS1708i/CS1716i には、デスクトップ上のアイコン、または Windows スタートメニューのエントリをクリックして接続することができます。このプログラムの初回起動時には、シリアルナンバーの入力を促す下図のようなダイアログボックスが表示されます。



シリアルナンバーは CS1708i/CS1716i ソフトウェア CD に記載されています。このシリアルナンバーを各欄に 5 桁ずつ入力し、「OK」ボタンをクリックして CS1708i/CS1716i の接続画面を起動してください。

- 
- 注意:**
1. シリアルナンバーの文字は大文字で入力してください。
  2. この画面はプログラムの初回起動時にのみ表示されます。2 回目以降は Windows クライアントの接続画面が直接起動します。
- 

CS1708i/CS1716i に接続する場合は、お使いのデスクトップ上にあるこのアプリケーションのアイコンをクリックして Windows クライアント接続画面を起動してください。



**注意:** Windowsクライアントの動作環境にはDirectX 8.0以降がインストールされている必要があります。インストールされていないとクライアントソフトウェアが起動しませんので、ご注意ください。

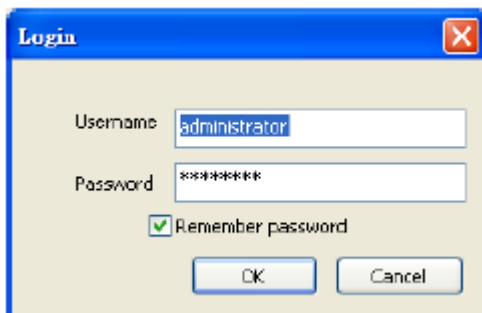
接続画面における各項目の詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
Server List	Windows クライアントの起動時に、ローカル LAN セグメントにあるCS1708i/CS1716iを検出し、このリストに一覧表示します。特定のユニットに接続する場合は、その項目をリストから選択し、 <b>ダブルクリック</b> してください。
Server	CS1708i/CS1716i にリモート接続する際に、接続対象となるCS1708i/CS1716i のIPアドレスをリストボックスから選択するか、もしくは直接リストにIPアドレスを入力します。また、使用ポート番号を該当フィールドに入力してください。ポート番号がご不明な場合は、CS1708i/CS1716iの管理者までお問い合わせください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 接続したいIPアドレスとポート番号が確定したら、「Login」ボタンをクリックしてください。</li> <li>◆ セッションを終了し、このダイアログボックスに戻る場合は「Logout」をクリックしてください。</li> </ul>
Message List	CS1708i/CS1716i との接続に関するステータスメッセージを一覧表示します。
Switch to Remote View	CS1708i/CS1716i との接続が確立すると、このボタンが有効になります。CS1708i/CS1716i に接続されたリモートコンソール画面に切り替える場合は、このボタンをクリックしてください。 リモートコンソール画面に切り替わると、お使いのモニターにリモートコンソールのデスクトップが表示され、キーボード・マウスからの入力はCS1708i/CS1716i に送られ、ローカル接続されたコンピューターで実行されます。 CS1708i/CS1716i を KVM スイッチと併用している場合は、実際に手元で操作しているかのようにコンピューターの切替を行うことができます。
Change Password	CS1708i/CS1716i との接続が確立すると、このボタンが有効になります。このボタンを使うと、CS1708i/CS1716i にログインする際のパスワードを変更することが可能です。

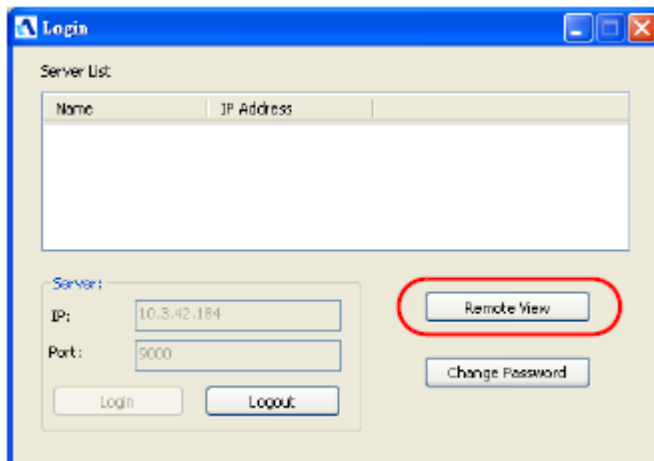
## 接続方法

CS1708i/CS1716i ユニットに接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Server List」から目的のデバイスを**ダブルクリック**するか、「Server」の項目にある「IP」のフィールドに CS1708i/CS1716i の IP アドレスを、また「Port」のフィールドに通信で使用するポート番号をそれぞれ入力し、「Login」ボタンをクリックしてください。この操作を行うと、以下のようなログインダイアログが表示されます。



2. 正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンを押してください。
3. CS1708i/CS1716i との接続が確立すると、「Switch to Remote View」ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、CS1708i/CS1716i 経由でリモートコンソールの画面に切り替えることができます。



## 操作方法

CS1708i/CS1716i との接続が確立されると、リモートシステムのビデオ出力の内容がお使いのモニターに表示されると同時に、ローカルでのキーボード・マウスの入力はリモートシステムに送られます。

アプリケーション版 Windows クライアントの外観および操作方法は Windows クライアントビューワーと同様ですので、詳細に関しては第 7 章をご参照ください。

## セッションの終了

CS1708i/CS1716i からログアウトすると、接続ダイアログに戻ります。セッションを終了する場合は、「Logout」ボタンをクリックしてください。

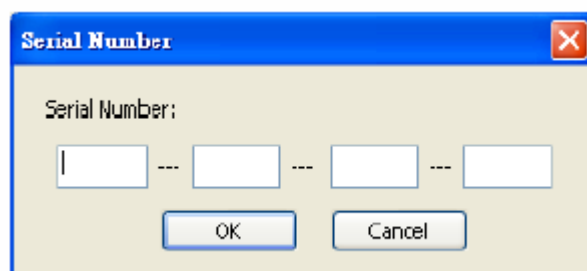
## Java クライアント

---

### 起動方法

Java クライアントプログラムを使って CS1708i/CS1716i に接続する場合は、以下の手順に従って操作してください。

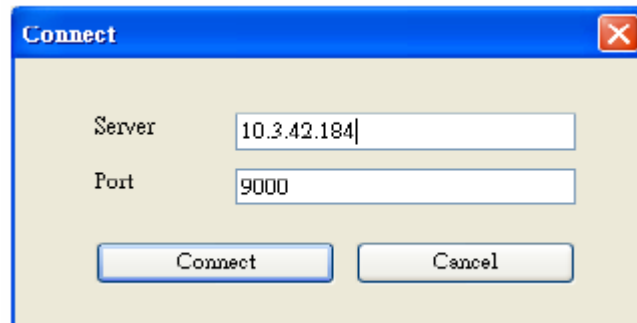
1. 製品に同梱されているソフトウェア CD に収録されている「iClientJ.jar」ファイルをコピーし、お使いのコンピューターのハードディスク上の適当な場所に置いてください。
2. 「CS1716i\_iClientJ.jar」のアイコンをダブルクリックするか、このファイルのフルパスをコマンドラインに入力して Java で実行し、Java クライアントの接続画面を起動してください。このプログラムの初回起動時には、シリアルナンバーの入力を促す下図のようなダイアログボックスが表示されます。



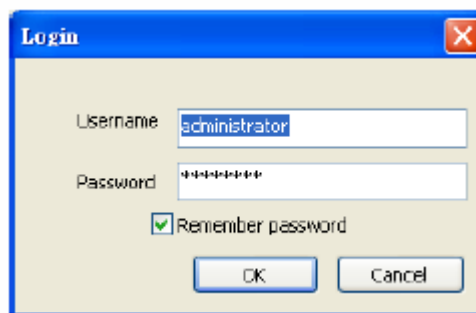
シリアルナンバーは CS1708i/CS1716i ソフトウェア CD のケースに記載されています。このシリアルナンバーを各欄に 5 桁ずつ入力し、「OK」ボタンをクリックして CS1708i/CS1716i の接続画面を起動してください。

- 
- 注意:**
1. シリアルナンバーの文字は大文字で入力してください。
  2. この画面はプログラムの初回起動時にのみ表示されます。2 回目以降は Java クライアントの接続画面が直接起動します。
-

下図のような接続ダイアログが表示されます。



3. 目的となる CS1708i/CS1716i の IP アドレスとポート番号を入力し、「Connect」ボタンをクリックしてください。接続が確立すると、下図のようなログインダイアログが表示されます。



4. 正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンを押してください。

認証に成功すると、CS1708i/CS1716i のメイン画面がお使いのモニター上に表示されます。

## 操作方法

アプリケーション版 Java クライアントの外観および操作方法は Java クライアントビューワーと同様ですので、詳細に関しては第 8 章をご参照ください。

# 第 12 章

## ファームウェアアップグレード ユーティリティ

### はじめに

---

本製品はファームウェアアップグレードを自動的に行うために、ファームウェアアップグレードユーティリティという Windows ベースのツールを提供しております。このツールは、各製品のファームウェアアップグレードパッケージの一部として配布されているものです。

製品のファームウェアは新しいバージョンがリリースされると、弊社 Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。定期的にこのダウンロードサイトにアクセスしていただき、ファームウェアのアップグレードを行うことで、最新の機能をご利用いただけます。

- 
- 注意:**
1. 本セクションで行うファームウェアアップグレードは CS1708i/CS1716i のメインボードを対象に実行します。
  2. このアップグレードを行う際には必ずネットワークモジュールのファームウェアもアップグレードしてください。(詳細は p.93「Maintenance (メンテナンス)」参照)
- 

### ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

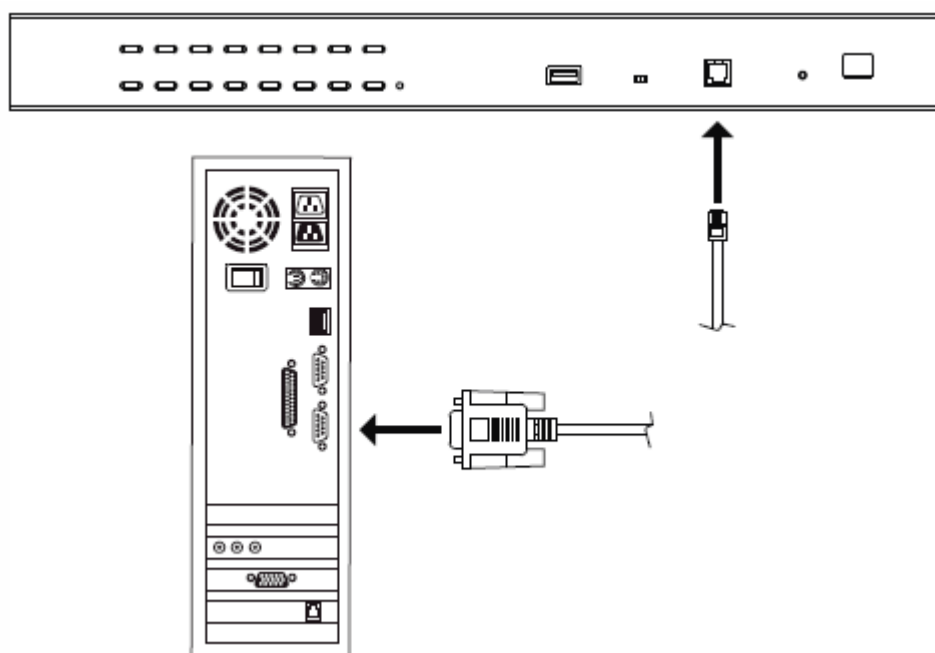
ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードする場合は、以下の手順で作業してください。

1. CS1708i/CS1716i に接続されていないコンピューターから弊社ダウンロードサイトにアクセスし、製品型番リストから CS1708i/CS1716i を選択してください。利用可能なファームウェアのバージョンが一覧表示されます。
2. 適用対象となるアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、そのコンピューターにダウンロードしてください。

## アップグレード作業の下準備

ファームウェアアップグレードを開始する前に、以下の手順で準備を行ってください。

1. 製品に同梱されているファームウェアアップグレードケーブルでお使いのコンピューターの COM ポートと製品のファームウェアアップグレードポートを接続してください。



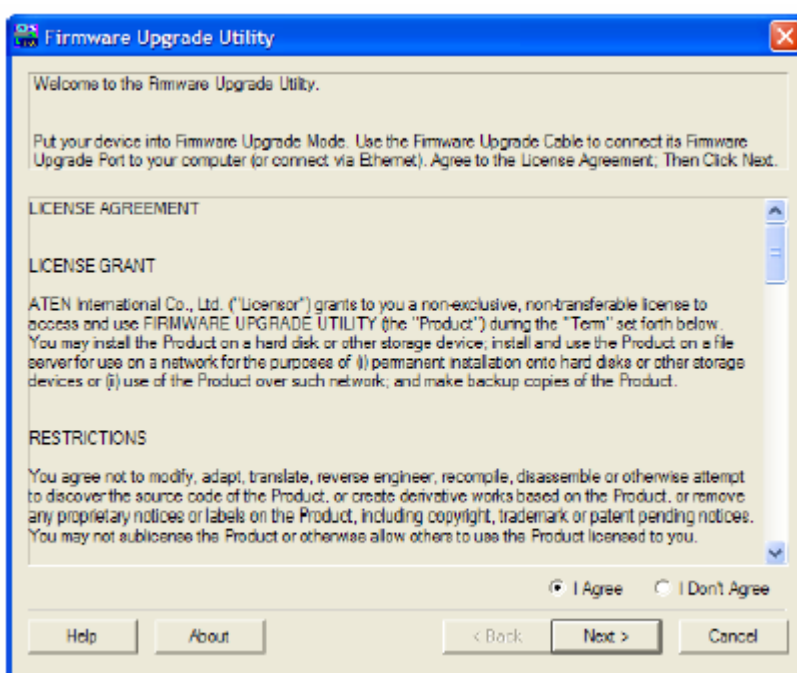
2. 製品に接続されているすべてのコンピューターの電源を切ってください。(このときステーションの電源は切らないでください。)
3. コンソールから製品の OSD メニューにアドミニストレータとしてログインし (p.43 参照)、「F4 : ADM」メニューを選択してください。
4. 「FIRMWARE UPGRADE」メニューを選択し、[Enter]キーを押してください。その後ファームウェアの更新データをダウンロードの可否を問われますので[Y]キーを押して、アップグレードモード (p.53 参照) を開始してください。

## アップグレードの開始

---

ファームウェアのアップグレードを実行する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 弊社ダウンロードサイトからダウンロードしたパッケージをダブルクリックするか、そのファイルのフルパスをコマンドラインに入力して実行してください。下図のようなファームウェアアップグレードユーティリティの初期画面が表示されます。

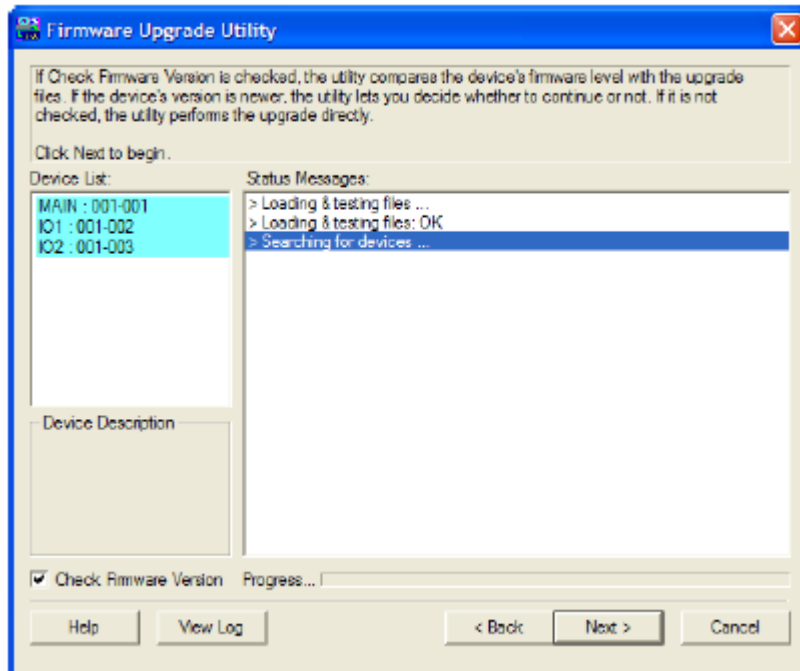


---

**注意:** 本セクションで使用されている図は参考例であり、実際の画面とは異なる場合があります。ご了承ください。

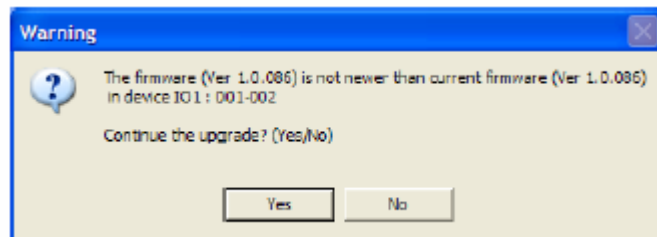
---

2. ダイアログ内に表示されている使用許諾契約の内容をご確認いただき、「I Agree」のラジオボタンを選択してその内容に同意してください。
3. アップグレード処理を続行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。このボタンを押すと、ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。この画面には、現在のファームウェアアップグレードパッケージでアップグレードが可能なデバイスの一覧が表示されます。



4. アップグレードを実行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。

「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、ユーティリティは現在デバイスにインストールされているファームウェアのバージョンと、これから適用しようとしているファームウェアのバージョンの比較を行います。このとき、デバイスに既にインストールされているバージョンの方が新しい場合、以下のようなダイアログが表示され、アップグレード作業を続けるかどうかの選択を促されます。



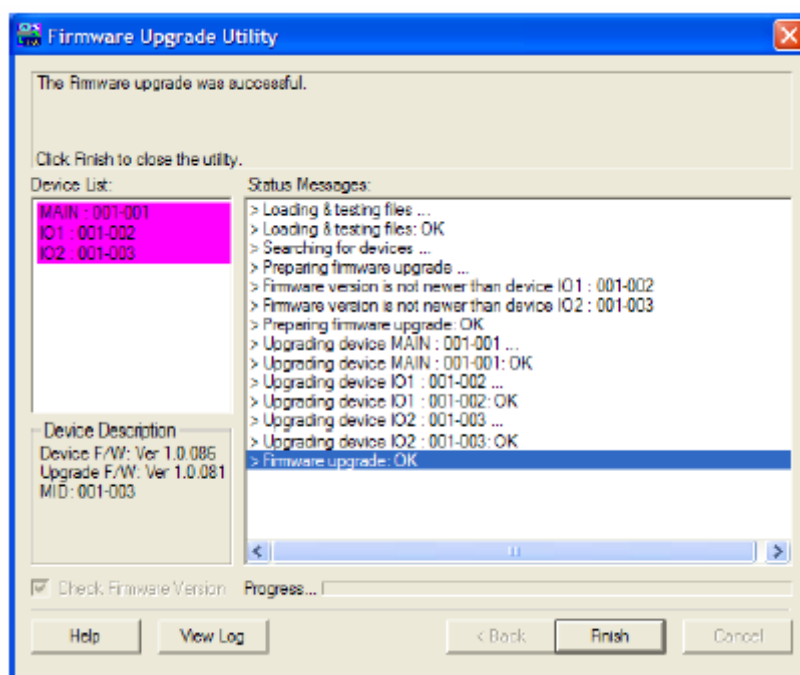
この項目にチェックが入っていないと、ユーティリティはファームウェアの比較を行わずにアップグレード処理を続行します。

なお、アップグレードの進捗状況は、画面に表示されるステータスメッセージとプログレスバーで確認することができます。

## アップグレード成功

---

アップグレードに成功すると、以下のような画面が表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は「**Finish**」ボタンをクリックしてください。

## アップグレード失敗

---

上図のような画面が表示されなかった場合、アップグレード処理に失敗した可能性があります。この場合は次のセクションの「ファームウェアアップグレードリカバリー」の内容にしたがって復旧作業を行ってください。

## ファームウェアアップグレードのリカバリー

---

以下のような場合、ファームウェアアップグレードのリカバリー作業が必要となります。

- ◆ ファームウェアのアップグレード作業がユーザーによって途中で中止された。
- ◆ マザーボードのファームウェアのアップグレードに失敗した。
- ◆ I/O のファームウェアのアップグレードに失敗した。

ファームウェアアップグレードのリカバリーを行う場合は、以下の手順で作業してください。

1. 製品の電源を切ってください。他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続されている場合は、デイジーチェーン専用ケーブルをはずして、他の機器と物理的に切り離してください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを、製品のファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. 製品のファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**RECOVER**」の位置にスライドさせ、CS1708i/CS1716i をファームウェアアップグレードモードにしてください。
4. 製品に電源を入れなおし、アップグレード作業を最初からやり直してください。
5. ファームウェアアップグレードが成功したら、製品の電源を一旦切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置にスライドさせてください。
6. 製品を他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続する場合は、元の位置に接続しなおしてください。
7. 製品に電源を入れなおしてください。

# 付録

## トラブルシューティング

問題が発生したら、まず、ケーブルがKVMスイッチおよびコンピューターの各ポートに正しく接続されていることを確認してください。また、これらの問題は、ファームウェアのアップグレードの適用によって解決することがあります。現在お使いのバージョンが最新でない場合は、最新版のファームウェアを適用することを推奨します。

### 管理操作

問題	解決方法
CS1708i/CS1716iのファームウェアをアップグレードアップグレードした後でも、古いバージョンのファームウェアを使っているように見える。	お使いのインターネットブラウザがキャッシュした Web ページを表示している可能性があります。ブラウザのキャッシュをクリアにし、一時インターネットファイルや Cookie を削除した後でブラウザをいったん閉じて、新しく立ち上げなおしてからファームウェアのバージョンをご確認ください。
CS1708i/CS1716iのデフォルトのネットワーク設定はDHCPであるが、使用環境のネットワークでは固定IPアドレスを使っており、DHCPサーバが設置されていない。	ローカルコンソール OSD の F4 の機能を使用し、CS1708i/CS1716i に固定 IP アドレスを設定してください。詳細については p.50 をご参照ください。

### 基本操作

問題	解決方法
製品の動作に異常が見られる。	製品に同梱されている電源アダプタが正しく接続されて、機能していることを確認してください。
	リセットスイッチ(p.24 参照)を 3 秒以上長押ししてください。
マウスやキーボードの入力に対して反応が見られない。	コンソールポートからキーボードおよびマウスの各コネクタを一旦はずして、接続しなおしてください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
デジチェーン接続されたKVMスイッチのステーションIDがすべて01で表示されている。	ステーション 1 が突然電力不足になったことが考えられます。システム全体がステーションの構成を認識し、正しいステーション ID を表示するまで、数秒程度お待ちください。
CS1708i/CS1716iをローカルリセットしたことにより、突然ネットワーク接続ができなくなった。	CS1708i/CS1716i の接続を終了し、30 秒程度待機した後で再ログインしてください。
マウスポインターが動かない。	マウスダイナシンクが有効になっている時(p.91 参照)は、製品に接続して使用するコンピューターはすべてUSBタイプのコンピューターモジュールを使用してください。これ以外のモジュールを使用している場合はマウスのポインタが動きません。
マウスポインターの表示で混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作の上で分かりにくい場合は、「Toggle pointer display」機能を使用して非アクティブなマウスポインターを最小化することができます。詳細については p.100 をご参照ください。

## Windows クライアント

問題	解決方法
Windows クライアントがCS1708i/CS1716i に接続できない。	お使いのコンピューターにはDirectX 8.0以上がインストールされている必要があります。
リモートとローカルのマウスポインターが同期していない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>オートシンク機能 (p.102 参照) を使って、ローカルとリモートのモニターを同期してください。</li> <li>上記の方法で解決しない場合、「Adjust mouse」機能 (p.101 参照) を使用してください。</li> <li>上記のいずれの方法でも解決できない場合は p.100 の「Toggle pointer display」機能を使って設定を行ってください。</li> </ol>
リモートモニタでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。	オートシンク機能 (p.102 参照) を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
CS1708i/CS1716i にブラウザでアクセスし、Windows クライアントビューワーを起動すると、ウイルス対策ソフトでトロイの木馬が検出されたと報告される。	Windows クライアントビューワーで使用している ActiveX プラグイン(windows.ocx)は、一部のウイルス対策ソフトでウイルスまたはトロイの木馬と誤認識される可能性があります。弊社では広範囲にわたってファームウェアのテストを行いました。ウイルスやトロイの木馬は検出されておりませんので、お使いのウイルス対策ソフトのホワイトリストにこのプラグインを追加し、安心してビューワーをお使いいただけます。もし、この Windows クライアントビューワーを使用するのに躊躇される場合は、Java クライアントビューワーをお使いください。

## Java クライアント

マウス同期に関する問題については p.91「Mouse Sync Mode (マウスシンクモード)」の内容をご参照ください。接続や操作に関する問題については下表をご参照ください。

問題	解決方法
Java クライアントが CS1708i/CS1716i に接続できない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Java 6 Update 3 以上がお使いのコンピューターにインストールされている必要があります。</li> <li>2. CS1708i/CS1716i の IP アドレスを指定する際、ブラウザの URL がログイン文字列(p.80 参照)を含めて正しく入力されているか確認してください。</li> <li>3. Java アプレットを一度終了させて、もう一度実行してみてください。</li> </ol>
Windows の「メニュー」ボタンを押しても反応しない。	Java では Windows のメニューキーはサポートされていません。
Java クライアントのパフォーマンスが悪い。	プログラムを一度終了させて、もう一度実行してみてください。
英語以外の言語の文字が表示されない。	英語以外の言語の文字を入力する際に、お使いのローカルキーボードが英語以外に設定されている場合は、リモートコンピューターのキーボードレイアウトを英語に設定してください。

## Sun コンピューター

問題	解決法
D-sub15 ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例: Sun Blade 1000 Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768 に設定する必要があります。 テキストモードの場合: 1. OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow の場合: 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトします。 3. もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例: Sun Ultra Server)*	ディスプレイの解像度は 1,024×768 に設定する必要があります。 テキストモードの場合: 1. OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow の場合: 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>ffbconfig -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトします。 3. もう一度ログインします。

\* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

## ログサーバー

問題	解決法
ログサーバープログラムが動作しない。	<p>ログサーバープログラムがデータベースにアクセスするためには、Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。</p> <p>このドライバーは Windows ME、2000、XP には標準で搭載されていますが、Windows 98 や NT をご使用になっている場合は、Microsoft 社のサイトからダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p><a href="http://www.microsoft.com">http://www.microsoft.com</a></p> <p>ダウンロードページで以下のファイルを検索し、入手します。 <b>MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)</b></p> <p>このドライバーは Windows Office Suite でも使用されておりますので、Windows Office Suite をインストールしてもログサーバープログラムが実行可能になります。ドライバーファイルや Windows Office Suite がインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。</p>

## パネルアレイモード









問題	解決法
パネルアレイモードが低解像度で表示される。	画面に表示されるパネル数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニターは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を最低でも 4 分割に変更してください。

## キーボードエミュレーション

---

### Mac キーボード

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボードから Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15



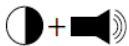




---

**注意:** 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

---

## Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

**注意:** 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー（[Ctrl]キー）を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

## IP アドレスの設定

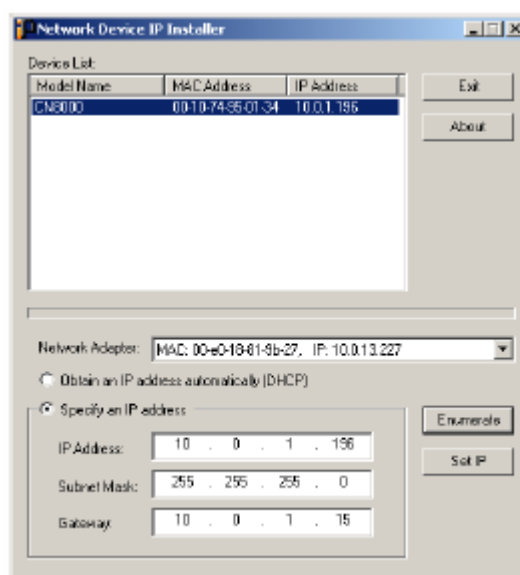
---

管理者として最初にログインした場合には、他のユーザーが TCP/IP ネットワーク経由でログインできるように製品に IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は全部で 3 種類ありますが、どの方法でも設定に使用するコンピューターは製品と同一のネットワークセグメントにセットアップされていなければなりません。製品に接続し、ログインすると、製品に固定 IP アドレスを設定することができます。(p.74「Network (ネットワーク)」参照)

### IP インストーラー

Windows がインストールされたコンピューターをお使いの場合は、IP インストーラーというツールを使用して製品に IP アドレスを設定することができます。

1. 製品同梱のソフトウェア CD に収録されているファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適当なフォルダーに解凍してください。
2. 手順 1 で IP インストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IP インストーラーの実行ファイル (IPInstaller.exe) を起動してください。下図のようなダイアログが表示されます。



3. 「Device List」から IP アドレスを設定する製品を選択してください。

---

**注意:**

1. 一覧に何も表示されない、また、対象となる製品が表示されない場合は、「Enumerate」をクリックして、「Device List」を更新してください。
2. 一覧に複数のデバイスが表示されている場合は、製品に記載されている MAC アドレスを使って識別してください。製品の MAC アドレスは製品の底面に張られているラベルに記載されています。

---

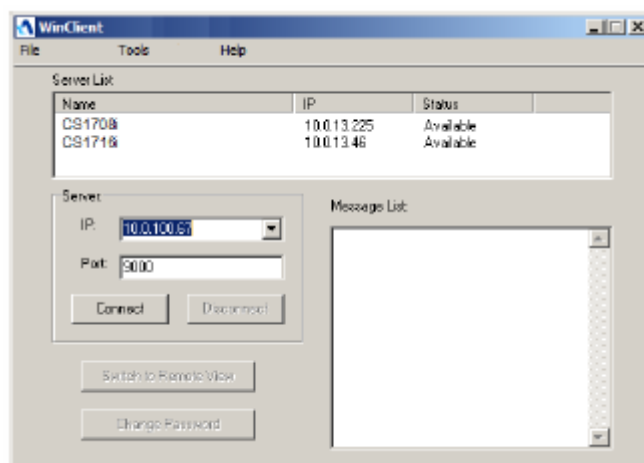
4. DHCP を使って IP アドレスを自動的に取得する場合は「Obtain an IP address automatically (DHCP)」を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Specify an IP address」をそれぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力してください。
5. 「Set IP」ボタンをクリックしてください。
6. IP アドレスが「Device List」に表示されたら、「Exit」ボタンをクリックしてください。

## ブラウザ

1. お使いのコンピューターの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。「XXX」の部分には、1～255 の範囲の任意の整数値を使用してください。ただし、60 は製品のデフォルトの IP アドレス(192.168.0.60)に使用されていますので、これ以外の値を使用してください。
2. Web ブラウザのアドレスバーに製品のデフォルト IP アドレス(192.168.0.60)を指定し、製品にアクセスしてください。
3. 製品がセットアップされているネットワークで有効な固定 IP アドレスを設定してください。
4. 必要であれば、手順 1 で設定を変更したコンピューターの IP アドレスをログアウト後に元の値に戻しておいてください。

## アプリケーション版 Windows クライアント

Windows が稼働しているコンピューターからは、CS1708i/CS1716i の IP アドレスを Windows アプリケーションプログラム(p.142「Windows クライアント」参照)を使って設定することができます。このアプリケーションは起動すると、同一ネットワークセグメント内にある CS1708i/CS1716i を検出し、その結果を下図のようにダイアログに表示します。



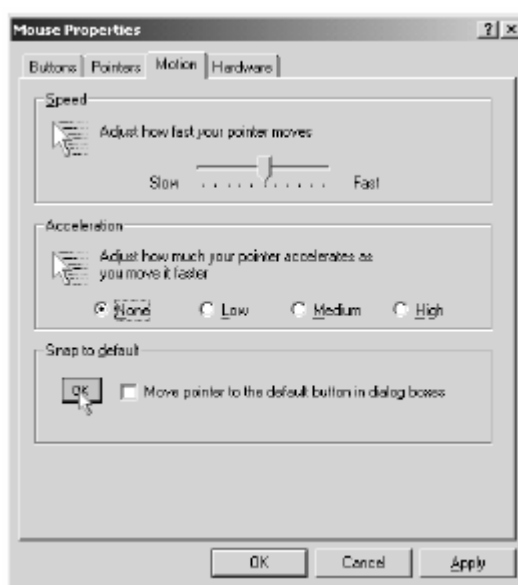
このネットワークアドレスを使用することもできますし、変更することもできます。変更する場合は、「Login」ボタンをクリックしログインした後、「Admin Utility」をクリックし「Network」タブをクリックして変更してください。

## その他のマウス同期の方法

p.101 に記載された方法でマウスを同期してもマウスポインターの問題が解決しない場合は、以下の方法でマウスを同期してみてください。

- 注意:**
1. 以下の操作は、製品のポートに接続されているコンピューター側で実行してください。このコンピューターは、製品へのアクセスに使っているコンピューターではありませんので、ご注意ください。
  2. ローカルおよびリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバを使用する必要があります。従って、マウスに付属されているドライバー等サードパーティーのドライバーを使用している場合は、これを削除しなければなりません。

1. Windows2000 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください。([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])
  - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインタの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください。([コントロールパネル]→[マウス])
  - b) 「ポインタオプション」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインタの精度を高める」の項目のチェックを外してください。

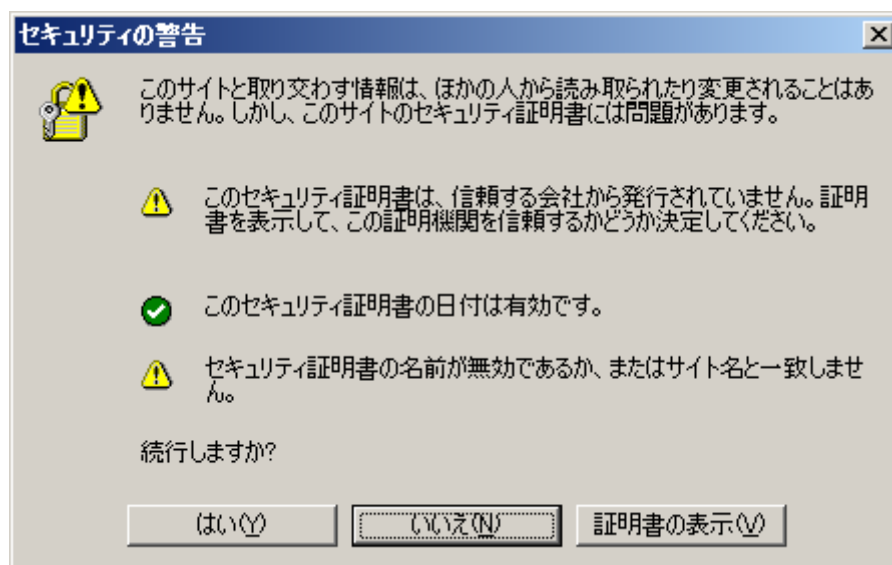


3. Windows ME または Windows 95 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください。
4. Windows NT または Windows 98 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を左端(遅く)に設定してください。
5. Sun または Linux がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。
  - Sun の場合: `xset m 1`
  - Linux の場合: `xset m 0`

## 信頼された証明書

### 概要

ブラウザ経由で CS1708i/CS1716i にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
  - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
  - ◆ ご自身のコンピューターから作業している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

## 証明書のインストール

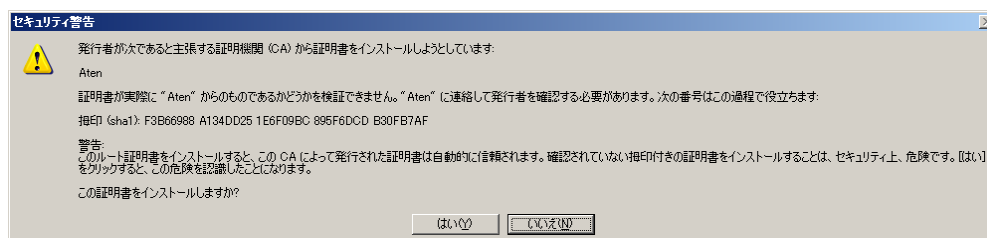
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



**注意:** 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

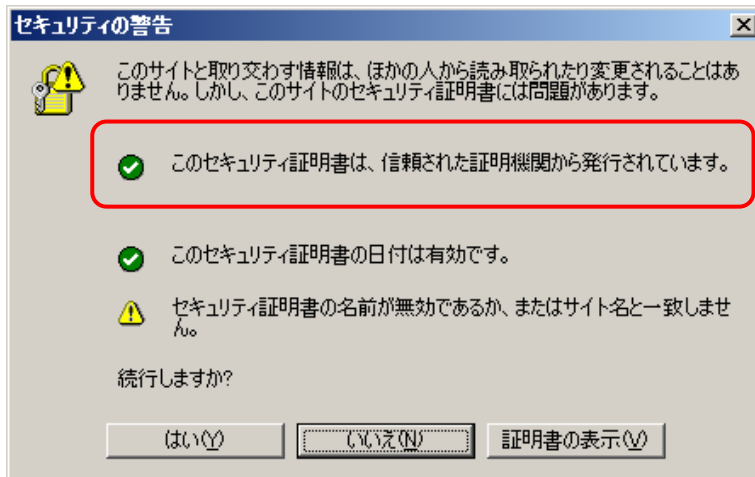
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



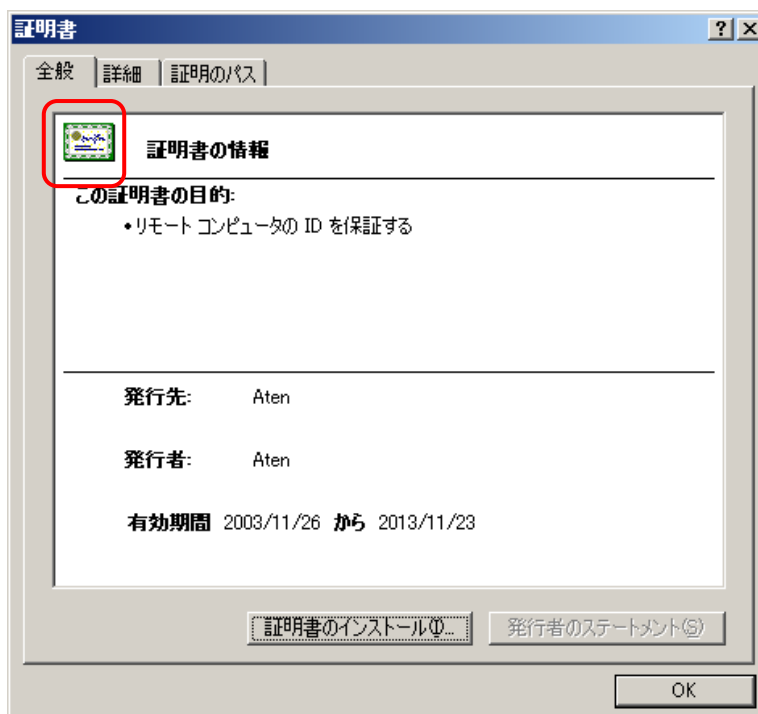
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

## 証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



## 製品仕様

機能		CS1708i	CS1716i
コンピューター接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大 (デジチェーン)	128	256
コンソール接続数		1	
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、GUI、ホットキー、プッシュボタン	
コンピューター側 コネクタ	キーボード	SPHD メス×8	SPHD メス×16
	マウス		
	モニター		
コンソール側 コネクタ	キーボード	SPHD オス×1	
	マウス		
	モニター		
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×8	プッシュボタン×16
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1	
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11×1	
デジチェーンポート	OUT	DB-25 ピンオス×1	
LAN ポート		RJ-45×1	
USB ポート		USB タイプ A メス×1 (USB1.1 準拠)	
電源ジャック		DC 電源ジャック×1	

(表は次のページに続きます)

機能		CS1708i	CS1716i
LED	オンライン	オレンジ×8	オレンジ×16
	ポート選択(ポート)	グリーン×8	グリーン×16
	ポート選択 (ステーション)	7セグメントデジタル表示 オレンジ×2	
	電源	ダークグリーン×1	
	10/100 Mbps	オレンジ/グリーン×1	
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB	
スキャンインターバル		1～255 秒/5 秒(デフォルト)	
電源仕様(アダプター)		型番:0AD8-0605-24EG 入力:AC100V～240V 50～60Hz 出力:DC5.3V / 2.4A	
消費電力		DC5.3V、9.5W	DC5.3V、11W
解像度		(ローカル)最大 2,048×1,536 DDC2B 準拠 (リモート)最大 1,600×1,200@60Hz / 24bit 色深度	
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		2.81Kg	3Kg
サイズ(W×D×H)		433×160×44mm	
同梱品		2L-5202P(1.8m)ケーブル×1 2L-5202U(1.8m)ケーブル×1 コンソールケーブル×1 電源アダプタ×1 ラックマウントキット×1 クイックスタートガイド×1 ソフトウェア CD×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 フットパッド(4pcs)	

(表は次のページに続きます)

機能	CS1708i	CS1716i
対応 KVM ケーブル		《PS/2 KVM ケーブル》 2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m)  《USB KVM ケーブル》 2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)  ※注意:標準で USB KVM ケーブル 2L-5202P×1、2L-5202U×1 が付属して います。
デイジーチェーン対応製品		ACS-1208A ACS-1216A CS1708 CS1716 CS1708A CS1716A KH1508 KH1516
デイジーチェーン用ケーブル		2L-1700 (0.6m) 2L-1701 (1.8m) 2L-1703 (3m) 2L-1705 (5m) 2L-1715 (15m)
SUN システム用ケーブル(D-SUB15 ピン+USB)		2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)

(表は次のページに続きます)

機能	CS1708i	CS1716i
MAC 用ケーブル	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)	

## スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表

下表は、CS1708i/CS1716i の使用台数と、各構成で操作可能なコンピューターの台数との関係です。

### CS1708i

No.	コンピューターの台数	No.	コンピューターの台数
1	1-8	9	65-72
2	9-16	10	73-80
3	17-24	11	81-88
4	25-32	12	89-96
5	33-40	13	97-104
6	41-48	14	105-112
7	49-56	15	113-120
8	57-64	16	121-128

### CS1716i

No.	コンピューターの台数	No.	コンピューターの台数
1	1-16	9	129-144
2	17-32	10	145-160
3	33-48	11	161-176
4	49-64	12	177-192
5	65-80	13	193-208
6	81-96	14	209-224
7	97-112	15	225-240
8	113-128	16	241-256

## 対応 KVM スイッチ

下表は、本製品と接続してポート数を増設できる対応 KVM スイッチの一覧です。(これらの KVM スイッチは別途購入いただく必要があります。詳細については販売店までお問い合わせください。)

拡張方法	カテゴリー	型番	名前
デジチェーン接続	ATEN	ACS-1208A	8 ポート PS/2 KVM スイッチ
		ACS-1216A	16 ポート PS/2 KVM スイッチ
		CS1708	8 ポート USB KVM スイッチ
		CS1716	16 ポート USB KVM スイッチ
		CS1708A	8 ポート USB PS/2 KVM スイッチ
		CS1716A	16 ポート USB PS/2 KVM スイッチ
	ALTUSEN	KH1508	8 ポートカテゴリ 5 タイプ KVM スイッチ
		KH1516	16 ポートカテゴリ 5 タイプ KVM スイッチ

本製品を他の KVM スイッチと接続してお使いになる場合は、以下の制限事項がありますので、ご注意ください。

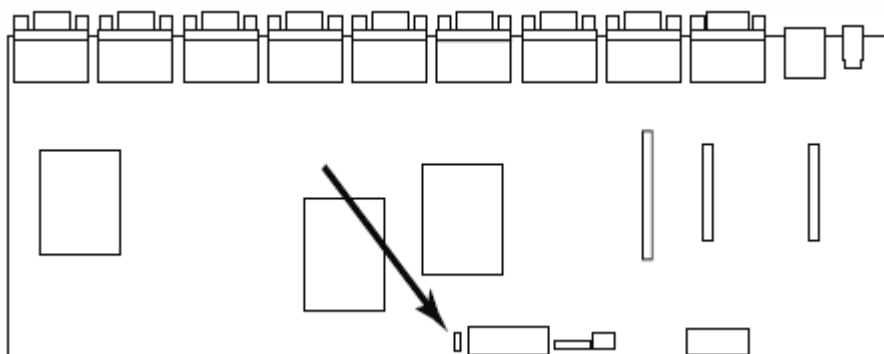
- ◆ 本製品とデジチェーン接続の末端の KVM スイッチ間の距離が 150m を超えないようにセットアップしてください。
- ◆ 各 KVM スイッチ間の距離が 15m を超えないようにセットアップしてください。

## 工場出荷時におけるデフォルト値のリストア

本製品の工場出荷時におけるデフォルト値は、後でリストアすることができます。(項目に関しては次のページを参照) リストアを行うと、アドミニストレータおよびユーザーのアカウントはすべてシステムから削除され、ポートネームやその他の項目の設定内容もすべて削除されます。

- 注意:**
1. この作業にはジャンパキャップが必要です。作業を開始する前にご用意ください。
  2. アドミニストレータのログイン情報が破損した場合、または忘れてしまった場合は、この作業をすることで工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。(p.43 参照)

1. CS1708i/CS1716i から電源アダプターを抜いてください。
2. マザーボード上にある「J17」ジャンパの 1～2 のピンにジャンパキャップをかぶせてください。



3. CS1708i/CS1716i に電源アダプタを接続してください。製品に電源が入ると、以下のようなメッセージが表示されます。

```
USERNAME AND PASSWORD INFORMATION AND PORT/USER  
INFORMATION HAS BEEN CLEARED. PLEASE POWER OFF THE  
SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN  
RESTART.
```

4. 電源アダプタをもう一度抜いてください。
5. 「J17」ジャンパの 1～2 のピンからジャンパキャップをはずしてください。
6. 手順 2 ではずした外側のケースを製品に取り付け、製品に電源アダプタを接続してください。

製品に電源が入ると、デフォルトのユーザーネームとパスワードでログインできるようになります。

## OSD の工場出荷時における初期設定一覧

CS1708i/CS1716i の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポートナンバーおよびポートネーム
スキャン時間	5 秒
スキャン/スキップモード	ALL (アクセスできるすべてのポート)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビーブ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)

## SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。